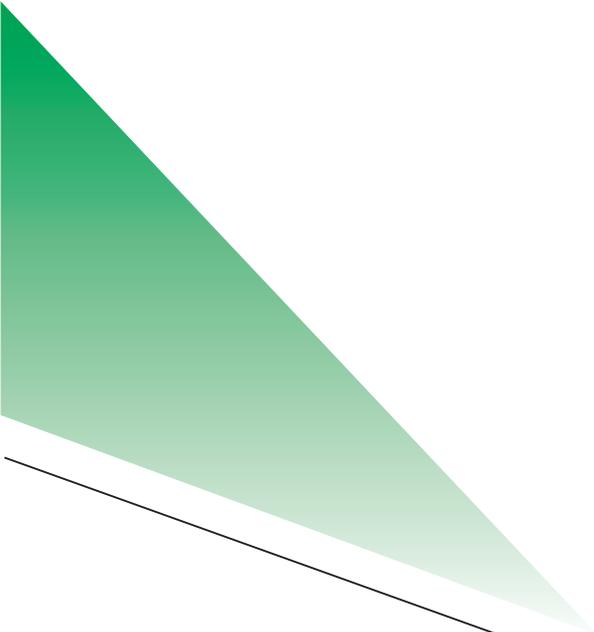


愛媛大学 沿岸環境科学研究センター年報



CMES
CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES



第8号 2007年

愛媛大学沿岸環境科学研究センター
年 報

(第8号)

2007年

まえがき

この年報は、過去1年間のCMESにおける研究、教育活動や社会的活動のほぼ全容をまとめることを目的として毎年発行しているものですが、本号では何といたっても平成19年度に入ってから大きな出来事についてまず述べておく必要があるでしょう。それは、本年度から始まったグローバルCOEプログラムに、CMESを中核とする「化学物質の環境科学教育研究拠点」が採択されたことです。21世紀COEプログラムの後継であるこのプログラムは、採択数を21世紀COEより半減させ、一層の重点支援を行うことを目指したもので、111大学281拠点の応募に対して採択されたのは28大学63拠点のみでした。特に、CMESの応募した学際・複合・新領域分野は、105拠点の応募に対して採択は12拠点という狭き門でした。さらに本拠点は、この難関を突破したのみならず、採択63拠点中の重点支援11拠点にも選ばれたのです。発足以来8年余、CMESは21世紀COEを経て大発展を遂げたといえるでしょう。この間の関係各位のご指導、ご支援に対し、深く感謝申し上げます。

さて、本題である平成18年度の活動に入りたいと思います。この年度もCMESは、研究、教育、社会貢献の各方面でフル回転をしてきましたが、最も特筆すべき活動としては、21世紀COE国際シンポジウムの開催、COE成果のとりまとめと最終報告書の作成、グローバルCOEの企画・申請などが挙げられるでしょう。中でも11月に開催した国際シンポジウム「Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes」は、リーダー的研究者の育成を目的として、ポスドク研究員や博士課程学生に企画・運営を任せて行ったもので、大きな成功を収めました。その成果は、基調講演に招聘した著名な外国人研究者による以下のような評価からご理解頂けるでしょう（11名の外国人研究者による評価の全文は21世紀COEの最終成果報告書に掲載しています）。

- The coverage of the topics fits well with the word “pioneering studies” that is relevant for the COE program. No doubt that it is truly pioneering. The presentations of the students were highly professional and this certainly shows the amount of training that they have undergone.
- It was clear to me that they (young scientists) are conducting cutting-edge research and giving presentations suitable for international symposia anywhere in the world. The CMES should be very proud of the achievements of its young scientists and their laboratory leaders.
- I think I am most impressed with how you are so clearly dedicated toward helping ‘set the stage’ for the next generation of talented younger scientists from Japan and around the globe to make a important impacts on various aspects of the environmental challenges that face us now and into the future.
- You have created a world-class institution that is conducting very important research on the impact of various chemicals and other “stressors” on the environment. Your scientists are publishing at a very

impressive rate in the best environmental journals, and the quality of the publications is extremely high.
• I believe your program is one of the top 2 to 3 programs in the world in ecotoxicology and is unique in that exhibits excellence in environmental chemistry as well as physiological and molecular toxicology. Your es-BANK is today a major worldwide resource, that will only grow in value over the coming years.

このシンポジウムを含め、21世紀COEでは、国際シンポジウムやワークショップをたびたび開催したり、様々な教育プログラムを推進して若手研究者の育成に努め、5年間のCOE期間内にポストドク研究員や博士課程修了者から多数の大学教員や公的機関の研究員を送り出してきました。これらの実績が、研究者育成を大きな目的としたグローバルCOE採択の原動力の一つとなったと考えられます。

グローバルCOEへの採択によりCMESは、発足当初より目標としていた「アジアの環境科学の拠点」への道をさらに大きく前進することとなりましたが、その道は決して平坦なものではないでしょう。同COEへの採択は、愛媛大学の発展のみならず、我が国の科学の発展にとってもCMES大きな責務を背負うことを意味します。この重責を果たすべく、CMESスタッフ一同、これまで以上に努力を重ねていく所存です。関係各位には、今後とも一層の御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

センター長 武岡英隆

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1. 1 組 織	4
1. 2 各分野の概要	5
2. 研究者要覧	7
3. 研究プロジェクト	16
3. 1 21世紀COEプログラム	16
3. 2 科学研究費等	16
3. 3 共同研究	18
3. 4 受託研究	19
3. 5 各種研究助成金（民間・財団等），奨学寄付金等	20
4. 研究成果（暦年で2006年に出版，掲載されたもの）	21
4. 1 著 書	21
4. 2 学協会誌等	21
4. 3 学内，所内誌等	28
4. 4 一般誌等	28
4. 5 報告書等	29
4. 6 学会発表等	31
5. 学会及び社会における活動	57
5. 1 併任・委員会委員等	57
5. 2 学協会委員等	59
5. 3 学会，講演会などの開催（センター主催または共催）	60
5. 4 学会，講演会などの開催（個人）	70
5. 5 学会賞等	70
6. 国際的活動	71
6. 1 国際研究プロジェクト	71
6. 2 在外研究等	72
6. 3 海外調査・国際学会等	72
6. 4 外国人客員研究員等	74
6. 5 海外からの訪問者	74
6. 6 招聘研究員	75
6. 7 留学生	76
7. 教育活動	78
7. 1 所属学生および研究テーマ	78
7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	81
7. 3 講義・集中講義	83
8. 設 備	87
9. 広 報	88
9. 1 CMES ニュース	88
9. 2 報道関係	89
9. 3 講座，講演会等	90
10. 実習調査船「とびうお」運行状況	92
11. 研究員名簿	94
12. 客員研究員名簿	95
13. 運営委員会	99
14. センター規則等	100

1. 総 説

1.1 組 織

センター長 : 武岡 英隆

環境動態解析分野

教授 : 武岡 英隆
 * 客員教授 : 杉本 隆成 (～平成19年3月)
 准教授 : 郭 新宇
 * 助手 : 兼田 淳史 (平成19年4月から福井県立大学講師)
 * COE研究員 : 川村 有二 (平成18年10月から東京海洋大学講師)
 研究員 : 加 三千宣 (平成19年3月までCOE研究員)
 研究員 : 高橋 大介 (平成19年3月までCOE研究員)
 研究員 : 藤井 直紀 (平成19年3月までCOE研究員)
 研究員 : 山口 一岩 (平成19年3月までCOE研究員)
 日本学術振興会外国人特別研究員 : 張 弼勳
 日本学術振興会外国人特別研究員 : Rolando Sayo Balotro
 研究支援推進員 : 福森香代子
 研究補助員 : 松本 有紀 (平成19年3月までCOE研究補助員)

生態環境計測分野

教授 : 田辺 信介
 特命教授 : Annamalai Subramanian (平成19年3月まで客員教授)
 客員教授 : 高菅 卓三 (平成18年10月～)
 准教授 : 高橋 真
 * 客員助教授 : Tu Binh Minh (平成19年4月から香港城市大学リサーチフェロー)
 研究員 : 国末 達也 (平成19年3月までCOE研究員)
 研究員 : 磯部 友彦 (平成19年3月までCOE研究員)
 日本学術振興会外国人特別研究員 : Agus Sudaryanto (平成19年3月までCOE研究員)
 日本学術振興会外国人特別研究員 : Karri Ramu (平成19年4月～)
 * 研究員 : 染矢 雅之 (～平成19年3月)
 * 研究員 : 池本 徳孝 (～平成18年12月、平成19年1月～3月の間COE研究員)
 * COE研究補助員 : 國本 昌宏 (～平成19年3月)
 研究補助員 : 経廣 規子
 事務補佐員 : 松田 昌子

生態毒性解析分野

教授 : 岩田 久人
 客員准教授 : 金 恩英
 助教 : 仲山 慶
 研究員 : 阿草 哲郎 (平成19年3月までCOE研究員)
 研究員 : 酒井 大樹 (平成19年4月～)

1. 総説

学術振興会外国人特別研究員：南 銅是

- * COE研究員：石橋 弘志（平成18年8月から長崎大学医学部助手）
- * 研究機関研究員：久保田 彰（平成19年4月から酪農学園大学にて日本学術振興会特別研究員）
- * 研究機関研究員：新美 聡子（平成19年4月から（財）地球環境産業技術研究機構研究員）
- * 研究機関研究員：渡辺 倫夫（平成19年4月から愛媛大学大学院医学系研究科 日本学術振興会特別研究員）
- * 事務補佐員：上城戸香奈（平成18年4月～平成19年1月）

生態系解析分野

- 教授：鈴木 聡
- 准教授：北村 真一（平成18年9月～）
- 助教：金本自由生
- 助教：野中 里佐
- * COE研究員：大林由美子（平成19年4月から国際基督教大学学術フロンティア研究センター特定研究員）
- * COE研究員：Habibur Md. Rahman（～平成19年3月）
- * COE研究員：西部裕一郎（平成19年4月から東京大学海洋研究所 日本学術振興会特別研究員）
- * 研究機関研究員：張 光玟（～平成19年3月）
- * COE研究補助員：富久保雅美（～平成19年3月）

環境影響評価予測分野

- * 教授：井内 美郎（平成19年4月から早稲田大学教授）
- 准教授：大森 浩二
- 助教：奈良 正和
- 研究員：宮坂 仁
- * COE研究員：加藤 元海（平成19年4月から京都大学生態学研究センター研究機関研究員）
- 日本学術振興会外国人特別研究員：Todd William Miller
- * COE研究補助員：小倉 真紀（～平成19年3月）
- 研究補助員：大西秀次郎（平成19年3月までCOE研究補助員）
- * COE研究補助員：坂木佳菜子（～平成19年3月）

研究協力部研究協力課

- 課長：松本 正
- 副課長：篠川 満俊
- 事務補佐員：家久 恒美
- 事務補佐員：中山 真理
- 事務補佐員：星加恵理子
- 事務補佐員：内藤亜矢子
- * 派遣社員：池田 梨沙（～平成19年11月）
- 事務補佐員：中島 悦子（平成19年6月～）

※ *は転任または退職した職員を示す

1.2 各分野の概要

環境動態解析分野

研究内容：潮流や密度流などの沿岸海域の流れの実態と、これらと生物生産機構や海洋汚染の機構の関わりを解明することを中心的課題とする分野である。貧酸素水塊や赤潮などの発生機構の解析、養殖漁場の物質循環と環境変動の解析、沿岸域開発に伴う環境影響の解析等に加え、沿岸域の環境変動の長期的モニタリングを行って、地球環境変動に伴う沿岸海域の環境変動の実態や原因の究明と将来予測などを行う。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬

戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、養殖漁場の物質循環と環境保全、クラゲ類の大量発生と集群メカニズム

生態環境計測分野

研究内容：内分泌攪乱物質（環境ホルモン）など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質を対象に、海洋汚染の現状と推移、海洋環境における挙動とゆくえ、海洋生態系における蓄積の特徴、生物濃縮機構、毒性影響評価などについて地域的・地球的視点で研究をすすめる、化学物質のリスクから海洋生態系をまもるための方途を提言する。

主な研究テーマ：地球規模での大気、水質、堆積物（土壌）、生態系汚染の実態解明と動態解析、途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析、廃棄物投棄場の化学汚染と影響の解明、野生生物（プランクトン、両生類、は虫類、魚類、鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価、ヒトの汚染実態解明と健康影響評価、海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測

生態毒性解析分野

研究内容：ダイオキシン類・内分泌攪乱化学物質や重金属に代表されるような環境汚染物質を対象に、水圏野生生物のシトクロム P450 やメタロチオネインを指標とした暴露・毒性影響の評価法の開発、細胞内情報ネットワーク攪乱の包括的モニタリング法の開発、および毒性影響の感受性を決定する分子機構の解明に関する研究を実施し、水圏生態系のリスク評価を目指す。

主な研究テーマ：化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素系への影響、核内レセプターの比較機能学的研究、シトクロム P450 およびメタロチオネインの比較機能学的研究、野生生物のマイクロアレイを利用した遺伝子ネットワーク攪乱のモニタリング、化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその発現メカニズムの解明、毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明

生態系解析分野

研究内容：海洋での物質循環と遺伝子伝播過程における微生物機能に関する研究、海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究、魚類感染症の発症と環境汚染の関連性の研究、魚類と藻場の生態学的研究

主な研究テーマ：環境微生物の化学物質耐性に関する研究、微生物間での遺伝子伝播の研究、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、アイナメ科魚類の生態学、日本産海草の生物地理学的研究、藻場の経時的変化

環境影響評価予測分野

研究内容：海底及び海底境界層の解析：海底堆積物を研究の主な対象とし、堆積物の分析による過去の環境変遷史の復元と、それに基づいた将来の環境変動による沿岸環境変動の予測、底棲生物を含めた堆積物中の物質循環過程の解明、堆積物の底棲生物への影響、藻場や干潟などの堆積環境の変遷とその生物生産に対する役割の解明及び将来予測等に関する研究

主な研究テーマ：瀬戸内海の砂堆の生態系に関する総合研究、宇和海の環境変遷史解明、琵琶湖の環境変遷史解明、野尻湖の環境変遷史解明、沿岸域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究、新生代の沿岸システムにおける底生群集と生痕ファブリックに関する研究

2. 研究者要覧



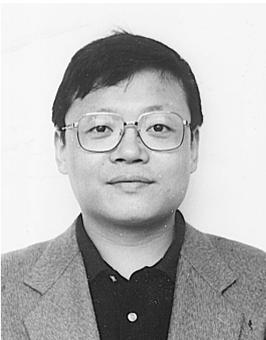
(平成19年4月現在)

環境動態解析分野



武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

【生年月日】昭和25年10月22日 【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9833 【FAX】089-927-9846 【E-mail】takeoka@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部卒業, 昭和51年3月京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 土木学会, 4. 海洋気象学会, 5. 水産海洋学会, 6. 日本沿岸域学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究】1. 沿岸海域の流動と物質輸送, 2. 豊後水道の急潮と底入り潮, 3. 瀬戸内海の物質循環と生物生産機構, 4. 養殖場の物質循環と環境保全, 5. 地球環境変動の沿岸域への影響, 6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 【受賞歴】1999年日本海洋学会日高論文賞 2003年愛媛県政発足記念日知事表彰 2003年瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰



郭 新宇 Guo Xinyu

【生年月日】1968年1月22日 【職名】助教授 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月博士(工学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. American Geophysical Union, 4. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 黒潮と沿岸海域の相互作用, 2. 瀬戸内海の海洋環境予測に関する基礎研究



加 三千宣 Kuwae Michinobu

【生年月日】昭和43年2月11日 【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月大阪市立大学大学院博士(理学) 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会, 3. 日本海洋学会, 4. American Geophysical Union 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 珪藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答, 3. ウロコを用いた多様性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた陸棚斜面の冷水湧昇の長期変動に関する研究.



山口 一岩 Yamaguchi Hitomi

【生年月日】1975年2月20日 【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846
 【E-mail】yama@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成 9年3月東京水産大学卒,平成13年3月香川
 大学大学院修士課程了,平成17年3月北海道大学大学院博士後期課程了 【学位】平成17年
 3月博士(水産科学),北海道大学 【所属学会】日本海洋学会,日本海洋学会沿岸海洋研究
 部会,日本ベントス学会 【専門分野】海洋物質循環学 【主な研究テーマ】1. 沿岸海洋に
 おける親生物元素(炭素・窒素・リン・珪素等)の分布と収支,2. 沿岸海洋における浮遊性お
 よび底生性微細藻類の動態



高橋 大介 Takahashi Daisuke

【生年月日】1977年8月17日 【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846
 【E-mail】d-taka@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月北海道大学水産学部水産海洋科学
 科卒業,平成14年3月北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻博士前期課
 程修了,平成17年3月北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻博士後期課
 程修了 【学位】平成17年3月博士(水産科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会
 【専門分野】1. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 噴火湾における風駆動の循環に関する研
 究,2. 海洋における残留性有機汚染物質の輸送過程に関する研究,3. 瀬戸内海における水
 位変動に関する研究



藤井 直紀 Fujii Naoki

【生年月日】昭和52年5月18日 【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846
 【E-mail】medusae@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月広島大学大学院生物圏科学研究
 科環境循環系制御学専攻修了 【学位】平成17年3月博士(学術)広島大学 【所属学会】1.
 日本海洋学会,2. 水産海洋学会,3. 日本プランクトン学会,4. 日本沿岸域学会,5. 瀬戸内海
 研究会議,6. 漂着物学会 【専門分野】1. 生物海洋学,2. 水圏環境学 【主な研究】1. 内湾に
 おける生物資源持続性評価法の開発,2. クラゲ類の生態学的研究,3. ゼラチン質動物プ
 ランクトンの集群形成メカニズムに関する研究



張 弼勳 Chang Pilhun

【生年月日】1973年3月19日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】
 089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】phchang@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成 9
 年2月東亜大学卒,平成11年2月東亜大学大学院修士課程了,平成16年9月九州大学大学院
 博士後期課程了 【学位】平成16年9月博士(理学)九州大学 【所属学会】日本海洋学会,韓
 国海洋学会 【主な研究テーマ】1. 沿岸海洋の変動における外洋環境の役割,2. 瀬戸内海
 における海洋環境予測



ロランド・サヨ・バロトロ Rolando Sayo Balotro

【生年月日】1965年8月24日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】
 089-927-8997 【FAX】089-927-9846 【E-mail】balotro@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年
 9月九州大学大学院博士後期課程了 【学位】平成14年9月博士(理学)九州大学 【所属学
 会】1. 日本海洋学会,2. American Geophysical Union 【主な研究テーマ】1. ルソン海峡にお
 ける黒潮の進入過程とそのフィリピン沿岸環境への影響評価

生態環境計測分野



田辺 信介 Tanabe Shinsuke

【生年月日】昭和26年2月21日 【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース、理学部生物学科、大学院農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース、スーパーサイエンス特別コース環境科学コース担当、大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻、大学院理工学研究科博士前期課程環境機能科学専攻、大学院理工学研究科博士後期課程環境機能科学専攻、大学院医学系研究科兼務 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本水産学会, 4. 日本農芸化学会, 5. 日本極地研究振興会, 6. 日本薬学会, 7. 日本環境科学会, 8. 日本生態学会, 9. 日本地球化学会, 10. 日本環境化学会, 11. 日本比較生理生化学会, 12. 日本環境毒性学会, 13. 日本BICER協議会, 14. 日本鳥学会, 15. 日本哺乳類学会, 16. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 17. 日本化学会, 18. 日本微量元素学会, 19. 日本海セトロジー研究会, 20. 日本ウミガメ協議会, 21. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議, 22. 東南アジア国際農学会, 23. 日本農学アカデミー, 24. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 25. Society for Marine Mammalogy, 26. American Chemical Society 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 生物蓄積性有害物質(P T S)による地球規模の海洋汚染とその動態, ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究, 2. P T Sによる海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究, 3. P T Sによる北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, 4. P T Sによる鳥類の汚染と毒性影響に関する研究, 5. P T Sによる深海生物の汚染と毒性影響に関する研究, 6. マッセルウオッチ:ニ枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング, 7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究, 9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究, 10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究, 11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究, 12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類, 農薬, 重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究, 13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究, 14. 有機臭素化合物等防燃剤による環境汚染, 生物蓄積, 経年変化, 生態影響に関する研究, 15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究, 16. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究 【受賞歴】1985年4月日本海洋学会岡田賞, 1999年3月日産科学賞, 2000年10月ISI引用最高栄誉賞, 2003年12月ベトナム政府フレンドシップメダル, 2004年7月日本環境化学会学術賞, 2004年10月日本環境科学会学術賞, 2005年11月The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award国際賞、2006年6月日本環境化学会環境化学論文賞



アンナマライ・スブラマニアン Annamalai Subramanian

【生年月日】1949年1月3日 【職名】特命教授 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】subra@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】昭和63年3月愛媛大学博士(学術), 1982年6月Annamalai University Ph.D. 【所属学会】1. Indian Society of Life Sciences, 2. National Geographic Society, 3. Marine Mammal Society 【専門分野】1. 海洋環境学 【主な研究テーマ】1. 内分泌攪乱物質による途上国の海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成14年度日本学術振興会外国人招へい研究者(長期)



高菅 卓三 Takasuga Takumi

【生年月日】昭和35年1月5日 【職名】客員教授 沿岸環境科学研究センター 株式会社島津テクノリサーチ 取締役 分析本部副本部長 兼 調査研究開発部部長 兼 極微量分析センターTS (Technical Supervisor) 【電話】075-811-3182,3181 【FAX】075-811-3278 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp 【学歴】昭和60年3月愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】平成13年5月東京大学大学院農学生命科学研究科 博士(農学) 平成15年2月スウェーデンOrrebro大学 名誉博士 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本分析化学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. 日本水環境学会, 5. 廃棄物学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 分析化学, 3. 環境分析化学, 4. 廃棄物処理 【主な研究テーマ】1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究, 2. POPsモニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究, 3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発, 4. GC/MS (EI及びNCI) 法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究, 5. ヒトの脳髄液・血中およびその他の生物種における水酸化PCB・PCBの濃度レベルに関する研究, 6. 野生ドブネズミに蓄積する残留性環境汚染物質 (PTS) の汚染レベルの特徴と生体影響に関する研究, 7. 電気絶縁油等の鉱油中のPCB分析での迅速前処理法の開発, 8. 汚染土壌中のダイオキシン妨害物質及び未知共存物質の検索, 9. LC/MS/MSを用いた臭素系難燃剤の一斉分析法の検討, 10. パッシブサンプラーを用いた室内大気中PCB濃度の推算方法の検討, 11. POPs, PBDEsのヒト母子間移行に関する研究, 12. ヘキサブromシクロドデカン、ビストリブromフェノキシエタン、デカブromジフェニルエタン等の臭素系難燃剤のGC/MSによる同時分析法の開発, 13. オンカラム注入GC/MSを用いたケルセンの高感度直接分析, 14. 日本人女性の母乳および血清中ポリ臭素化ジフェニルエーテル・ポリ塩素化ビフェニル濃度と定量的構造分配相関, 15. RoHS/WEEE指令に係る臭素系難燃剤の分析上の課題と検討 【受賞歴】1994年6月日本環境化学会技術賞, 1997年6月日本環境化学会学術賞, 1999年11月環境測定分析功労者賞(社団法人日本環境測定分析協会)



高橋 真 Takahashi Shin

【生年月日】昭和46年5月21日 【職名】准教授 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】shint@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本環境毒性学会, 4. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 5. 廃棄物学会, 6. American Chemical Society, 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境地球化学, 2. 環境保全工学 【主な研究テーマ】1. 有害物質による海洋生態系の汚染と物質挙動に関する環境化学的研究, 2. 有機スズ化合物による陸上および海洋生態系の汚染と影響に関する研究, 3. 循環資源・廃棄物を対象とした試験法開発と対策評価に関する研究, 4. 有機ハロゲン化合物の分解・代謝挙動と活性化に関する研究, 5. 安定同位体を用いた海洋食物連鎖網における有害物質濃縮挙動の解析に関する研究

2. 研究者要覧



国末 達也 Kunisue Tatsuya

【生年月日】昭和43年9月21日 【職名】研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171
【E-mail】kunisue@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月愛媛大学大学院連合農学研究科
生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成16年愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1.
日本環境化学会, 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究
テーマ】1. アジア途上国の都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類等POPsの汚染に関す
る研究, 2. 野生高等動物におけるダイオキシン類の肝集積に関する研究, 3. 水酸化代謝物
の生成機構と体内挙動に関する比較生物学的研究



磯部 友彦 Isobe Tomohiko

【生年月日】昭和49年2月19日 【職名】研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171
【E-mail】t.isobe@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年3月東京農工大学大学院連合農学研究
科資源環境学専攻博士課程修了 【学位】平成13年3月東京農工大学博士(農学) 【所属学
会】日本内分泌攪乱化学物質学会, 日本水環境学会 【専門分野】環境化学, 機器分析化学
【主な研究テーマ】1. 新規POPs候補物質の分析法開発, 2. 臭素系難燃剤の環境動態解明に
関する研究



アグス・スダリアント Agus Sudaryanto

【生年月日】1969年1月21日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】
089-927-8174 【FAX】089-927-8174 【E-mail】aguss@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3
月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年3
月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 有機
ハロゲン化合物によるアジア途上国の環境汚染に関する研究, 2. 有機ハロゲン化合物に
よるインドネシアの環境汚染に関する研究



カリー・ラム Karri Ramu

【生年月日】1970年8月7日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】
089-927-8174 【FAX】089-927-8174 【E-mail】ramu@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3
月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成19年3
月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 有機
ハロゲン化合物によるアジア途上国の海洋汚染に関する研究, 2. 有機ハロゲン化合物に
よるインドの環境汚染に関する研究

生態毒性解析分野



岩田 久人 Iwata Hisato

【生年月日】昭和39年6月2日 【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース、大学院農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース、大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻兼務 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】iwatah@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成6年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境会議, 3. 日本環境化学会, 4. 日本BICER協議会, 5. 日本環境毒性学会, 6. 日本獣医学会, 7. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 8. 日本生化学会, 9. 日本分子生物学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 11. Society of Toxicology 【専門分野】1. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 環境汚染物質による水圏生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 環境汚染物質暴露に反応する生体分子の探索, 3. 環境汚染物質による毒性影響の多様性および種特異的感受性を決定する分子機構の解明, 4. シトクロムP450を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価, 5. 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発 【受賞歴】1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology



金 恩英 Kim Eun-Young

【生年月日】昭和43年8月17日 【職名】客員准教授 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】eykim@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. エコトキシコロジー研究会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌攪乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの検索



仲山 慶 Nakayama Kei

【生年月日】昭和49年6月13日 【職名】助教 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8133 【E-mail】kei-n@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士(後期)課程修了 【学位】平成15年9月九州大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 2. 日本環境毒性学会 【専門分野】1. 環境毒性学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】1. トキシコゲノミクスおよびプロテオミクスによる化学物質の毒性影響の予測およびメカニズムの解明, 2. 残留性有機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響



阿草 哲郎 Agusa Tetsuro

【生年月日】1977年11月16日 【職名】研究員 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8133 【E-mail】ax@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成17年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本微量元素学会, 2. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. アジア途上国における微量元素汚染とヒトへの影響, 2. 野生生物におけるヒ素蓄積機構の解明

2. 研究者要覧



酒井 大樹 Sakai Hiroki

【生年月日】1978年10月23日 【職名】研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194
【E-mail】sediment@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月愛媛大学大学院連合農学研究科
生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成19年3月愛媛大学博士（農学）【所属学
会】日本内分泌攪乱化学物質学会 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】環境汚染
物質による水棲哺乳類の核内受容体CARシグナル伝達系への影響



南 銅晷 Nam Dong-Ha

【生年月日】昭和50年1月30日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】
089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】dhnam@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年
3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年
3月愛媛大学博士（学術）【所属学会】1.日本内分泌攪乱化学物質学会 【専門分野】1.環境
毒性学 【主な研究テーマ】1.野生鳥類のメタロチオネインを利用した重金属汚染のリス
ク評価に関する研究

生態系解析分野



鈴木 聡 Suzuki Satoru

【生年月日】昭和31年6月24日 【職名】教授 農学部生物資源学科・理学部生物学科・連合
農学研究科・理工学研究科併任 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】
ssuzuki@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月北海道大学大学院薬学研究科博士課程製
薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月薬学博士北海道大学 【所属学会】1.日本微生物生
態学会, 2.日本魚病学会, 3.日本海洋学会, 4.マリンバイオテクノロジー学会, 5.日本水産
学会, 6.日本生化学会, 7.米国微生物学会, 8.国際微生物生態学会 【専門分野】1.海洋微生
物学, 2.生態系生化学, 3.環境分子生物学 【主な研究テーマ】1.海洋微生物由来高分子の
溶存態への移行過程に関する研究, 2.微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究,
3.海洋コア中の微生物群集の研究, 4.有機スズ耐性・分解菌の分子生態学的研究, 5.水圏環
境中でのビルナウイルスの生態 【受賞歴】1999年日本魚病学会研究奨励賞, 2001年日本
微生物生態学会論文賞



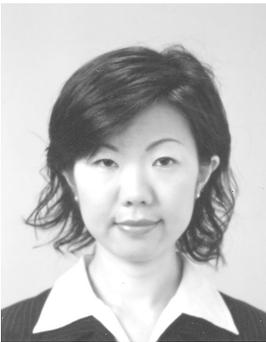
北村 真一 Kitamura Shin-Ichi

【生年月日】昭和49年4月27日 【職名】准教授 理学部生物学科・理工学研究科併任 【電
話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】kitamura@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成
11年高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了 【学位】平成15年3月博
士（水産科学）北海道大学 【所属学会】日本魚病学会, 韓国魚病学会, 日本微生物生態学
会 【専門分野】感染症学, 魚類環境生理学 【主な研究テーマ】1.環境変化による感染症発
生メカニズムの解明, 2.ヒラメのスクーチカ症に関する研究, 3.リンホシスチスウイルス
に関する研究, 4.魚類体表粘液中のマイクロフローラに関する研究



金本自由生 Kanamoto Ziyusei

【生年月日】1947年6月20日 【職名】助教 理学部生物学科・理工学研究科併任 【電話】089-927-8295 【FAX】089-927-8295 【E-mail】ziyusei@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月東北大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了 【学位】昭和61年2月農学博士東北大学 【所属学会】1.日本水産学会, 2.水産増殖学会, 3.日本魚類学会, 4.日本ベントス学会, 5.稚魚研究会, 6.沖縄生物学会, 7.American Society of Herpetologist and Ichthyologist 【専門分野】海洋生態学 【主な研究テーマ】1.アイナメ科魚類の分布生態, 2.アイナメ科魚類の繁殖生態, 3.アイナメ科魚類の生活史, 4.海草の分布生態, 5.海草藻場の経時的変化の研究



野中 里佐 Nonaka Lisa

【生年月日】昭和48年8月8日 【職名】助教 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】lisa@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成14年3月博士(農学)愛媛大学 【所属学会】1.日本微生物生態学会, 2.米国微生物学会 【専門分野】環境微生物学, 微生物生態学 【主な研究テーマ】1.海洋におけるテトラサイクリン耐性遺伝子の分布, 2.沿岸環境における緑膿菌の分布



ハビブール・モハマド・ラーマン Habibur Md. Rahman

【生年月日】昭和39年9月1日 【職名】外国人客員研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】hrzool@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物資源生産学修了 【学位】平成11年3月博士(学術)愛媛大学 【専門分野】1.微生物生態学 2.魚病学 【主な研究テーマ】1.海洋生物腸内と海底堆積物中における薬剤耐性遺伝子の分布, 2.堆積物中の有機物分解細菌

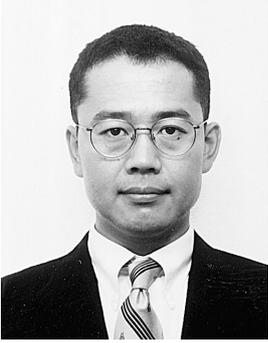
環境影響評価予測分野



大森 浩二 Omori Koji

【生年月日】1955年2月6日 【職名】准教授 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】ohmori@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月理学博士九州大学 【所属学会】1.日本生態学会, 2.日本ベントス学会, 3.日本海洋学会沿岸海洋部会, 4.個体群生態学会 【専門分野】1.水域生態学, 2.生態系生態学 【主な研究テーマ】1.基礎生態学解析, 2.河川生態系の解析, 3.沿岸海洋生態系の解析

2. 研究者要覧



奈良 正和 Nara Masakazu

【生年月日】昭和44年2月7日 【職名】助教 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654
【E-mail】nara@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年3月京都大学大学院理学研究科博士後期課程地質学鉱物学専攻修了 【学位】平成8年3月京都大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本古生物学会, 2. 日本地質学会, 3. 堆積学研究会, 4. 日本ペントス学会, 5. 東京地学協会, 6. 石油技術協会, 7. Society for Sedimentary Geology, 8. International Association of Sedimentologists 【専門分野】1. 生痕学, 2. 古生態学, 3. 堆積学. 【主な研究テーマ】1. 地球規模の環境変動が沿岸生態系に及ぼしてきた影響の解析, 2. 新生代の浅海環境における生痕ファブリック解析, 3. 浅海域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究, 4. 現世の波浪卓越型および潮汐卓越型海岸における堆積相と生痕ファブリックに関する研究, 5. 生痕化石の古生態学的研究.



宮坂 仁 Miyasaka Hitoshi

【生年月日】昭和44年2月1日 【職名】研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167
【E-mail】predator@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成12年3月地球環境科学博士 北海道大学 【専門分野】1. 水圏生態学, 2. 同位体生態学 【主な研究テーマ】1. 安定同位体比を用いた沿岸生態系における群集構造解析に関する研究 2. 深海生態系における汚染化学物質の生物濃縮過程に関する研究 3. 河川生態系における物質循環と生物群集の連結に関する研究 4. 汚染物質の現状と歴史の解析に基づく流域・沿岸域環境の適正管理に関する研究



トッド・ウィリアム・ミラー Todd William Miller

【生年月日】1969年3月19日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167 【E-mail】millertw@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】オレゴン州立大学博士課程修了 【学位】2006年5月 理学博士 オレゴン州立大学 【専門分野】1. 海洋生態学 【主な研究テーマ】1. 安定同位体比解析による沿岸域生態系の健全性の定義に関する研究

3. 研究プロジェクト

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介 (拠点リーダー), 21世紀 COE 「沿岸環境科学研究拠点」, 192,643千円
概要: 内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明, 地球環境変動による沿岸生態系変動機構の解明と将来予測に関する研究および教育を展開するとともに, 生物環境試料バンクの施設およびデータベースの完備や国際シンポジウムを開催するなど本事業を総括する活動を遂行した。
- 2) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (A) 「臭素系難燃剤 PBDE による広域汚染・生物蓄積の実態解明と生態影響評価に関する研究」, 7,930千円
概要: 生物環境試料バンクに保存されている鳥類および哺乳類の臓器・組織試料を供試して PBDEs の生物濃縮の特徴を明らかにした。
- 3) 田辺 信介 (分担), 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金 「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析」, 京都大学, 5,000千円
概要: インドの廃棄物リサイクル施設, 廃棄物投棄場を中心に難燃剤・重金属類等有害物質のモニタリング調査について報告した。
- 4) 高橋 真 (代表), 基盤研究 (B), 「野生高等動物における残留性有機ハロゲン化合物の蓄積・代謝特性の解明と影響評価」, 8,970千円
概要: 野生の高等動物試料を供試して, 有機臭素系難燃剤の蓄積特性, とくに海棲哺乳動物の汚染実態と経年変動を明らかにした。
- 5) 高橋 真 (代表), 環境省地球環境研究総合推進費 「アジア太平洋地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と新規モニタリング法の開発」, 9,997千円
概要: 二枚貝のイガイや堆積物試料を供試して, 有機臭素系難燃剤によるアジアの汚染実態を解明した。
- 6) 高橋 真 (分担), 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金 「家庭系廃製品の残留性化学物質と3Rシナリオ解析」, 京都大学, 5,000千円
概要: 有機臭素系難燃剤 PBDEs 等による環境汚染および生体蓄積の実態と特徴について明らかにした。
- 7) 高橋 真 (分担), 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金 「循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニタリング手法の開発」, 国立環境研究所, 4,000千円
概要: 廃棄物のリサイクル, 処理工程における有機臭素化合物の動態について明らかにした。

生態毒性解析分野

- 1) 岩田 久人 (代表), 基盤研究 (A) 「水圏生物の核内受容体 CAR を利用した化学物質のハイスループットリスク評価」, 7,500千円
概要: 水圏生物の核内受容体 CAR の遺伝子をクローニングし, *in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を構築した。また, そのアッセイ系を用いて多様な環境化学物質の CAR 転写活性化能を評価した。
- 2) 岩田 久人 (代表), 萌芽研究 「野生カワウ個体群のエコトキシコゲノミクス」, 1,400千円
概要: カワウのマイクロアレイを用いて, ダイオキシン類や有機フッ素化合物による環境汚染が野生カワウ個体群の遺伝子発現プロファイルに及ぼす影響について評価した。
- 3) 金 恩英 (代表), 基盤研究 (C) 「鳥類 AHR アイソフォームを指標とした化学物質のリスク評価」, 1,900千円
概要: 鳥類 AHR の各アイソフォームを対象に, TCDD との結合親和性や TCDD による CYP1A 転写活性化能について調査した。
- 4) 石橋 弘志 (代表), 若手研究 (B) 「バイカルアザラシ PPAR - CYP4を介した有機フッ素化合物の毒性メカニズム解明」, 2,100千円
概要: バイカルアザラシより PPAR をクローニングし, *in vitro* レポーター遺伝子発現系を構築した。この系に有機フッ素化合物を添加し, バイカルアザラシ PPAR の遺伝子転写活性化能を調査した。
- 5) 阿草 哲郎 (代表), 若手研究 (スタートアップ) 「ウミガメ類におけるヒ素の蓄積及び代謝機構の解明」, 1,410千円
概要: ウミガメ類組織中のヒ素を形態別に測定し, それらの蓄積特性および代謝機構について調査した。
- 6) 酒井 大樹 (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費 「水棲哺乳類の核内受容体 CAR を利用した水圏高次生態系のリスク評価」, 1,000千円
概要: バイカルアザラシ核内受容体 CAR の遺伝子をクローニングし, *in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を構

築した。また、そのアッセイ系を用いて多様な環境化学物質の CAR 転写活性化能を評価した。

- 7) 岩田 久人 (Nam, D.H.) (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費「Risk assessment of heavy metal contamination using metallothionein in wild avian species (野生鳥類のメタロチオネインを利用した重金属汚染のリスク評価に関する研究)」、1,200千円

概要:野生鳥類のメタロチオネイン遺伝子上流域を単離し、*in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を構築した。また、そのアッセイ系を用いて各重金属によるメタロチオネイン遺伝子誘導能を評価した。

- 8) 安井 知子 (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費「核内受容体 AhR の機能解析による水棲鳥類ダイオキシン曝露のリスク評価」、1,000千円

概要:野生鳥類から単離した AHR の各アイソフォームの機能および発現量解析をおこない、ダイオキシン類曝露のリスクについて評価した。

生態系解析分野

- 1) 金本自由生 (分担), 基盤研究 (A) (1)「瀬戸内海における海砂生態系の機能とその破壊からの回復過程に関する研究」、800千円

概要:海砂採取が海洋生物に与える影響についての、過去のデータを採集した。現在現地調査と、ナメクジウオの分布量から過去の生産量を推定する予定である。

- 2) 野中 里佐 (代表), 若手研究 (B)「海からの遺伝子汚染—海洋における薬剤耐性遺伝子の分布とヒトへの伝播」、2,200千円

概要:養殖場底泥より分離した細菌から腸内細菌へ薬剤耐性遺伝子伝達が生じることを明らかにした。

- 3) 野中 里佐 (分担), 愛媛大学研究開発支援経費「環境中に棲息する危険微生物の性状・病原性および感染症発症要因の解析」、愛媛大学、700千円

概要:沿岸海水から緑膿菌を分離し、数および臨床株との薬剤感受性パターンの違いを明らかにした。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内 美郎 (代表) 基盤 C, 琵琶湖の古環境プロキシ (指標) と測器データとの対応をもとにした古環境変遷史解読、1,300千円

概要:琵琶湖表層堆積物の高精度時間分解能による分析結果と彦根市における過去約100年間の気象観測データとの相関関係を明らかにすることにより、琵琶湖ボーリングデータに示される過去約40万年間の分析結果が示す気象変化を明らかにする。

- 2) Todd W. Miller (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費, 安定同位対比解析による沿岸域生態系の健全性の定義に関する研究、1,200千円

3. 3 共同研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆, 伊方原子力発電所温排水影響調査, 愛媛県, 352千円

概要:伊方原子力発電所から排出される冷却用の温排水が付近漁場に与える影響の有無を判断するために、隣接する海域の環境及び漁業の実態を把握することを目的とした現地調査及び漁獲資料の収集を行う。

- 2) 武岡 英隆, 伊方発電所前面海域における海生生物の挙動に関する研究, 四電技術コンサルタント, 525千円

概要:近年、瀬戸内海や世界各地でクラゲ類の大量発生が頻発し、問題となっている。本研究では、伊方発電所の冷却水の取水時に採取されるクラゲ類の量のデータを解析し、クラゲ大量発生の周期性や気象、海況との関係を解析して、大量発生や移動・集積機構の解明を目指す。

- 3) 郭 新宇, 東シナ海における栄養塩環境の変動予測, 九州大学応用力学研究所, 350千円

- 4) 郭 新宇, 台湾東北部の湧昇流の季節変化と黒潮流量変動の関係, 名古屋大学地球水循環研究センター, 150千円

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介, 水中臭素系残留性有機汚染物質処理システム実用化の研究開発, ツルイ化学, 577千円

3. 研究プロジェクト

概要:有機臭素系難燃剤 PBDEs の分解処理に関する化学分析技術と学術情報について産学共同研究を展開した。

- 2) 田辺 信介, 次世代質量分析装置のための前処理法の開発研究, ツルイ化学, 812千円

概要:有害物質の機器分析に関わる前処理法の先端技術と学術情報について産学共同研究を展開した。

- 3) 田辺 信介, ダイオキシン類等有害化学物質共同研究事業, 愛媛県, 1,800千円

概要:生物環境試料バンク (es-BANK) の野生生物試料及び底質試料中の臭素系難燃剤の調査分析を実施し、広く県内に汚染が分布している実態を解明した。

- 4) 田辺 信介, サメに着目した放射能レベル調査の共同研究事業, 愛媛県, 1,243千円

概要:サメの放射性 Cs および微量元素を測定し、その蓄積特性を明らかにするとともに安定同位体を測定して生態系構造を解析し元素蓄積との関連を究明した。

- 5) 田辺 信介, 南西諸島における魚介類の有害化学物質影響調査, 世界自然保護基金ジャパン, 4,290千円

概要:POPs、重金属類など有害化学物質による南西諸島魚介類汚染の実態を明らかにした。

- 6) 田辺 信介, 南西諸島におけるウミガメ類、鯨類の有害化学物質影響調査, 世界自然保護基金ジャパン, 4,500千円

概要:POPs、重金属類など有害化学物質による南西諸島鯨類・ウミガメ類の汚染実態を明らかにした。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡, ユニチャーム株式会社, 400千円

概要:新規表面加工による各種フィルターのウイルス補足能向上をめざした技術開発。

- 2) 鈴木 聡, NPO 法人ジオバイオテクノロジー振興会議, 1,480千円

概要:堆積物中の有用微生物の利用研究

- 3) 金本自由生, 伊方原発温排水影響調査, 愛媛県, 640千円

概要:伊方原子力発電所から排出される温排水が付着生物に及ぼす影響を調べるために、排水口近辺から順次定点を定め、付着生物を調べた。

3. 4 受託研究

環境動態解析分野

- 1) 郭 新宇, 琵琶湖塩津湾と北湖北部との物質輸送の数値シミュレーション, 琵琶湖・環境科学研究センター, 1,980千円

生態毒性解析分野

- 1) 岩田 久人, 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発, 日本エヌ・ユー・エス株式会社, 4,000千円

概要:野生生物より単離した核内受容体を適当な細胞に導入し、*in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を構築した。また、その細胞を環境化学物質で処理し、核内受容体の標的遺伝子転写活性化能について調査した。

- 2) 岩田 久人, 野生生物のダイオキシン類蓄積状況及び影響調査, 自然環境研究センター, 1,600千円

概要:野生生物のダイオキシン類蓄積濃度と CYP1A 発現量との関係について解析した。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡 (代表), 文部科学省, 21,500千円

RR2002, 人・自然・地球共生プロジェクト, インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発

概要:愛媛大 CMES, 農学部, 医学部, 工学部, 情報センターおよび東京農工大のメンバーで構成され、メコン流域を中心としたインドシナ半島の水資源のヒ素、POPs などによる化学汚染の水循環に伴う拡散と生物濃縮過程と毒性の解明、および汚染除去技術開発を行なう。

3. 5 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等

環境動態解析分野

- 1) 郭 新宇, 瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究助成事業, 瀬戸内海における外洋起源栄養塩の輸送ルートに関する研究, 700千円

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介, 有機臭素系難燃剤による日本の環境汚染実態について, 日本エヌ・ユー・エス, 4,000千円
概要: 日本沿岸で採取したカキおよびイガイを指標生物にして, 有機臭素系難燃剤 PBDEs による海洋汚染の実態を明らかにした。
- 2) 田辺 信介, 有害物質によるポルトガルの環境汚染, アベイロ大学 (ポルトガル), 439千円
概要: 有機スズ等によるポルトガル沿岸の魚介類汚染について明らかにした。

生態毒性解析分野

- 1) 金 恩英, 鳥類新規 AHR アイソフォームの機能解析とそれを利用した有害化学物質のリスク評価法の開発, 公益信託林女性自然科学者研究助成基金, 1,100千円
概要: 野生鳥類から単離した新規 AHR アイソフォーム (AHR2) の機能および発現量解析をおこない, AHR2を介したダイオキシン類暴露のリスクについて評価した。

生態系解析分野

- 1) 金本自由生 (代表), 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター共同研究, 「アイナメ科魚類の生活史」, 東京大学海洋研究所, 60千円
概要: 大槌湾のアイナメ類について, 生活史を10年来追っており, 2006年度は産卵期のアイナメ類を採集したが, スジアイナメが大槌湾で繁殖していることがわかった。
- 2) 野中 里佐 (代表), 自己増幅する環境汚染—養殖場底泥中のオキシテトラサイクリン残存量と耐性遺伝子量の定量, (財)地球環境財団, 200千円
概要: 養殖場底泥において抗生物質投与に伴い耐性遺伝子のコピー数が増加していることを明らかにした。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内 美郎, 地球温暖化時の水収支変動推定のための野尻湖湖水面変動史解明, 日本生命財団, 2,000千円
概要: 野尻湖の過去4万年間の湖水位変動を明らかにするために, 野尻湖近傍の池尻川低地において掘削を実施し, 堆積物中の年代資料を得る。
- 2) 大森浩二, 貯水池の適正管理手法の開発, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 2,000千円

4. 研究成果

(暦年で2006年に出版, 掲載されたもの)

4. 1 著 書

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介・環境省：9.4 環境中の化学物質濃度, 理科年表環境編, 第2版, 国立天文台編, 丸善, 309-335.
- 2) Tanabe, S. and Subramanian, An.: Bioindicators of POPs - Monitoring in Developing Countries -, Kyoto University Press & Trans Pacific Press, Kyoto, Japan and Melbourne, Australia, 190pp.
- 3) 藤瀬良弘・安永玄太・田辺信介：有機塩素化合物や重金属をトレーサーとした鯨類の生態解明の試み, 鯨類生態学読本, 加藤秀弘・大隅清治編, 生物研究社, 142-151.
- 4) 高菅卓三：3.4水質各論 3.4.11, 3.4.12, 新・公害防止の技術と法規2006 [ダイオキシン類編], 公害防止の技術と法規編集委員会編, (社)産業環境管理協会, 305-310.
- 5) 高菅卓三：3.4.2PCB 類, 第5編 実験化学講座 20-2 環境化学, 日本化学会編, 丸善, 417-423.
- 6) 高橋真, 田辺信介., 2007. 海生哺乳類の汚染と影響, pp. 252-275. 山田久 (編)「有機スズと環境科学—進展する研究の成果—」, 恒星社厚生閣, 東京, 314pp.

生態毒性解析分野

- 1) 岩田久人：第6章バイオマーカーによる影響評価, 化学物質の生態リスク評価と規制-農薬編-畠山成久編, アイピーシー, 233-252.
- 2) 大嶋雄治・仲山 慶・Kang, I. J.・島崎洋平・本城凡夫：生態リスク評価と行動影響評価, 化学物質の生態リスク評価と規制—農薬編—畠山成久編, アイピーシー, 167-172.

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡：微生物ってなに？ —もっと知ろう！身近な生命—, 日本微生物生態学会教育研究部会編著, 日科技連出版社, 121-133.

環境影響評価予測分野

- 1) 大森浩二：干潟のベントス, 天草の渚にて (菊池泰二編), 東海大学出版会, 東京, 93-125.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析分野

原 著

- 1) 武岡英隆：沿岸域における外洋起源栄養物質量の見積もり法とその問題点, 沿岸海洋研究, 43 (2) , 105-111.
- 2) 速水祐一・兼田淳史・小濱 剛・中野伸一・武岡英隆：豊後水道における外洋起源栄養塩の供給機構とその生態系への影響, 沿岸海洋研究, 43 (2) , 143-149.
- 3) 福田恭子・磯辺篤彦・兼田淳史・馬込伸哉・大西秀次郎・武岡英隆：潮汐フロント周辺の前線波動とこれに伴う栄養塩輸送, 海の研究, 15 (4), 343-356.
- 4) Kawamura, Y., Hayami, Y., Kohama, T., Kaneda, A. and Takeoka, H.: Occasional intensification of semidiurnal internal tide in Bungo Channel, Japan. *Geophysical Research Letters*, 33, L14607, doi:10.1029/2006GL025866.
- 5) Kuroda, H., Isoda, Y., Takeoka, H., and Honda, S.: Coastal Current on the Eastern Shelf of Hidaka Bay. *Journal of Oceanography*, 62 (5), 731-744.

- 6) Yoshino, K., Miyasaka, H., Kawamura, Y., Genkai-Kato, M., Okuda, N., Hayami, Y., Ito, S., Fukumori, K., Sekiguchi, T., Ohnishi, H., Omori, K. and Takeoka, H.: Sand banks contribute to the production of coastal waters by making a habitat for benthic microalgae in the sublittoral zone: food web analyses in Aki-Nada using stable isotopes. *Plankton & Benthos Research*, 1 (3), 155-163.
- 7) Kuwae, M., Yamashita, A., Hayami, Y., Kaneda, A., Sugimoto, T., Inouchi, Y., Amano, A., and Takeoka H.: Sedimentary records of multidecadal-scale variability of diatom productivity in the Bungo Channel, Japan, associated with the Pacific Decadal Oscillation. *Journal of Oceanography*, 62, 657-666.
- 8) 山口一岩・堤 裕昭・佃 政則・柴沼成一郎・山田俊郎・門谷 茂: 沿岸浅海底に生息する懸濁物食性二枚貝類の食物資源の利用性, *日本ベントス学会誌*, 61, 59-65.
- 9) Guo, X., Miyazawa, Y. and Yamagata, T.: The Kuroshio onshore intrusion along the shelf break of the East China Sea: the origin of the Tsushima Warm Current. *Journal of Physical Oceanography*, 36 (12), 2205-2231.
- 10) Kuwae, M., Yamaguchi, H., Tsugeki, N. K., Miyasaka, H., Ikehara, M., Fukumori, K., Genkai-Kato, M., Omori, K., Sugimoto, T. and Takeoka, H.: Spatial distribution of organic and sulfur geochemical parameters of surface sediments in Beppu Bay in southwest Japan. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, doi:10.1016/j.ecss.2006.11.005.

Proceedings

- 1) Guo, X., Haramoto, M., Chang, P. -H., Futamura, A. and Takeoka, H.: Competition of a local cyclonic eddy and an estuarine circulation in the Iyo-nada, Seto Inland Sea, Japan, Proceedings of the 13th International Biennial Conference on Physics of Estuaries and Coastal Seas, Astoria, USA, September 19-22.

生態環境計測分野

原著

- 1) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Iwata, H., Subramanian, An., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Contamination of arsenic and other trace elements in tube-well water and its risk assessment to humans in Hanoi, Vietnam. *Environmental Pollution*, 139 (1), 95-106.
- 2) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P. and Tanabe, S.: Specific accumulation of organochlorines in human breast milk from Indonesia: levels, distribution, accumulation kinetics and infant health risk. *Environmental Pollution*, 139 (1), 107-117.
- 3) Nakayama, K., Iwata, H., Kim, E. Y., Tashiro, K. and Tanabe, S.: Gene expression profiling in common cormorant liver with an oligo array: assessing the potential toxic effects of environmental contaminants. *Environmental Science and Technology*, 40 (3), 1076-1083.
- 4) Kubota, R., Kunito, T., Agusa, T., Fujihara, J., Monirith, I., Iwata, H., Subramanian, An., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Urinary 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine in inhabitants chronically exposed to arsenic in groundwater in Cambodia. *Journal of Environmental Monitoring*, 8, 293-299.
- 5) Kunisue, T., Watanabe, M. X., Iwata, H., Tsubota, T., Yamada, F., Yasuda, M. and Tanabe, S.: PCDDs, PCDFs, and coplanar PCBs in wild terrestrial mammals from Japan: congener specific accumulation and hepatic sequestration. *Environmental Pollution*, 140 (3), 525-535.
- 6) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S.: Congener-specific toxicokinetics of polychlorinated dibenzo-p-dioxins, polychlorinated dibenzofurans, and coplanar polychlorinated biphenyls in black-eared kites (*Milvus migrans*): cytochrome P4501A-dependent hepatic sequestration. *Environmental Toxicology and Chemistry*, 25 (4), 1007-1016.
- 7) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, A., Iwata, H., Tana, S., Baburajendran, R., Karuppiah, S., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Contamination by persistent organic pollutants in dumping sites of Asian developing countries: implication of emerging pollution sources. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 50 (4), 474-481.
- 8) S. Inoue, S., Oshima, Y., Ususki, H., Hamaguchi, M., Hanamura, Y., Kai, N., Shimasaki, Y., Honjo, T.: Effects of tributyltin maternal and/or waterborne exposure on the embryonic development of the Manila clam, *Ruditapes philippinarum*. *Chemosphere*, 63, 881-888.
- 9) Inoue, S., Abe, S., Oshima, Y., Kai, H. and Honjo, T.: Tributyltin concentrations in bivalves from coastal areas

4. 研究成果

- around Northern Kyushu, Japan. *Environmental Toxicology*, 21, 244-249.
- 10) Yang, J., Miyazaki, N., Kunito, T. and Tanabe, S.: Trace elements and butyltins in a Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) from the Sanriku coast of Japan. *Chemosphere*, 63 (1), 449-457.
 - 11) Minh, T. B., Watanabe, M., Kajiwara, N., Iwata, H., Takahashi, S., Subramanian, A., Tanabe, S., Watanabe, S., Yamada, T. and Hata, J.: Human blood monitoring program in Japan: contamination and bioaccumulation of persistent organochlorines in Japanese residents. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 51 (2), 296-313.
 - 12) Shimasaki, Y., Oshima, Y., Inoue, S., Inoue, Y., Kang, I. J., Nakayama, K., Imoto, H. and Honjo, T.: Effect of tributyltin on reproduction in Japanese whiting, *Sillago japonica*. *Marine Environmental Research*, 62 (Suppl 1), S245-S248.
 - 13) Takasuga, T., Senthilkumar, K., Tsuji, H and Nagayama, J.: Impact of fermented brown rice with *Aspergillus oryzae* Intake and concentrations of organochlorine pesticides in blood of humans from Japan. *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology*, 76 (5), 752-759.
 - 14) Takasuga, T., Senthilkumar, K., Matsumura, T., Shiozaki, K. and Sakai, S.: Isotope dilution analysis of polychlorinated biphenyls (PCBs) in transformer oil and global commercial PCB formulations by high resolution gas chromatography-high resolution mass spectrometry. *Chemosphere*, 62 (3), 469-484.
 - 15) Inoue, K., Harada, K., Takenaka, K., Uehara, S., Kono, M, Shimizu, T, Takasuga, T, Senthilkumar, K, Yamashita, F. and Koizumi, A.: Levels and Concentration Ratios of Polychlorinated biphenyls and Polybrominated diphenyl ethers in Serum and Breast Milk in Japanese Mothers. *Environmental Health Perspectives*, 1141 (8), 1179-1185.
 - 16) Takahashi, S., Sakai, S. and Watanabe, I.: An intercalibration study on organobromine compounds: results on polybrominated diphenylethers and related dioxin-like compounds. *Chemosphere*, 64 (2), 234-244.
 - 17) Kajiwara, N., Kamikawa, S., Ramu, K., Ueno, D., Yamada, T. K., Subramanian, An., Lam, P. K. S., Jefferson, T. A., Prudente, M., Chung, K. H. and Tanabe, S.: Geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and organochlorines in small cetaceans from Asian waters. *Chemosphere*, 64 (2), 287-295.
 - 18) Suzuki, Y., Watanabe, I., Tanabe, S. and Kuno, K.: Trace elements accumulation and their variations with growth, sex and habitat: effects on Formosan squirrel (*Callosciurus erythraeus*). *Chemosphere*, 64 (8), 1296-1310.
 - 19) Allinson, G., Mispagal, G., Kajiwara, N., Anan, Y., Hashimoto, J., Laurenson, L., Allinson, M. and Tanabe, S.: Organochlorine and trace metal residues in adult southern bent-wing bat (*Miniopterus schreibersii bassanii*) in southeastern Australia. *Chemosphere*, 64 (9), 1464-1471.
 - 20) Kunisue, T., Muraoka, M., Ohtake, M., Sudaryanto, A., Minh, N. H., Ueno, D., Higaki, Y., Ochi, M., Tsydenova, O., Kamikawa, S., Tonegi, T., Nakamura, Y., Shimomura, H., Nagayama, J. and Tanabe, S.: Contamination status of persistent organochlorines in human breast milk from Japan: recent levels and temporal trend. *Chemosphere*, 64 (9), 1601-1608.
 - 21) Kubota, A., Iwata, H., Goldstone, H. M. H., Kim, E. Y., Stegeman, J. J. and Tanabe, S.: Cytochrome P450 1A4 and 1A5 in common cormorant (*Phalacrocorax carbo*): evolutionary relationships and functional implications associated with dioxin and related compounds. *Toxicological Sciences*, 92 (2), 394-408.
 - 22) Ueno, D., Alae, M., Marvin, C., Muir, D. C. G., Macinnis, G., Reiner, E., Crozier, P., Furdui, V. I., Subramanian, An., Fillmann, G., Lam, P. K. S., Zheng, G. J., Muchtar, M., Razak, H., Prudente, M., Chung, K. and Tanabe, S.: Distribution and transportability of hexabromocyclododecane (HBCD) in the Asia-Pacific region using skipjack tuna as bioindicator. *Environmental Pollution*, 144 (1), 238-247.
 - 23) Ramu, K., Kajiwara, N., Lam, P. K. S., Jefferson, T. A., Zhou, K. and Tanabe, S.: Temporal variation and biomagnifications of organohalogen compounds in finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) from the South China Sea. *Environmental Pollution*, 144 (2), 516-523.
 - 24) Kajiwara, N., Kunisue, T., Kamikawa, S., Ochi, Y., Yano, S. and Tanabe, S.: Organohalogen and organotin compounds in killer whales mass-stranded in the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 52 (9), 1066-1076.
 - 25) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Iwata, H., Viet, P. H., Tu, N. P. C., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Contamination by polybrominated diphenyl ethers and persistent organochlorines in catfish and feed from Mekong River Delta, Vietnam. *Environmental Toxicology and Chemistry*, 25 (10), 2700-2709.

- 26) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tsydenova, O., Miyazaki, N., Petrov, E., Batoev, V. B. and Tanabe, S. : Constitutive androstane receptor (CAR) as a potential sensing biomarker of persistent organic pollutants (POPs) in aquatic mammal : molecular characterization, expression level, and ligand profiling in Baikal seal (*Pusa sibirica*). *Toxicological Sciences*, 94 (1), 57-70.
- 27) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Shima, Y. And Tanabe, S. : Toxic effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin (TCDD) in developing red seabream (*Pagrus major*) embryo : an association of morphological deformities with AHR1, AHR2 and CYP1A expressions. *Aquatic Toxicology*, 80 (2), 166-179.
- 28) Kunisue, T., Nakanishi, S., Oka, N., Sato, F., Tsurumi, M. and Tanabe, S. : Dioxins and related compounds in albatrosses from the Torishima Island, Japan : accumulation features by growth stage and toxicological implications. *Environmental Science and Technology*, 40 (22), 6919-6927.
- 29) Kannan, K., Agusa, T., Perrotta, E., Thomas, N. J. and Tanabe, S. : Comparison of trace element concentrations in livers of diseased, emaciated and non-diseased southern sea otters from the California coast. *Chemosphere*, 65 (11), 2160-2167.
- 30) Ramu, K., Kajiwara, N., Mochizuki, H., Miyasaka, H., Asante, K. A., Takahashi, S., Ota, S., Yeh, H. M., Nishida, S. and Tanabe, S. : Occurrence of organochlorine pesticides, polychlorinated biphenyls and polybrominated diphenyl ethers in deep-sea fishes from the Suru Sea. *Marine Pollution Bulletin*, 52 (12), 1827-1832.
- 31) Tao, L., Kannan, K., Kajiwara, N., Costa, M. M., Fillmann, G., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Perfluorooctanesulfonate and related fluorochemicals in albatrosses, elephant seals, penguins, and polar skuas from the Southern Ocean. *Environmental Science and Technology*, 40 (24), 7642-7648.
- 32) 上田浩三・浜野修史・岩本智史・山本常平・梅村省三・田辺信介 : POPs 関連物質の加熱挙動に関する研究, *環境資源工学*, 53 (3), 134-141.
- 33) 飯田芳男・村山真理子・鎌田 孝・浅田正三・松本保輔・高田芳男・石橋輝一・井垣浩侑・松村 徹・橋場常雄・鶴田 暁・高菅卓三・小野昭紘・柿田和俊・坂田 衛 : ばいじん中ダイオキシン類分析用標準物質 JSAC 0511, JSAC 05121の開発, *分析化学*, 55 (5), 329-339.
- 34) 飯田芳男・村山真理子・鎌田 孝・浅田正三・松本保輔・高田芳男・石橋輝一・井垣浩侑・松村 徹・鶴田暁・高菅卓三・小野昭紘・柿田和俊・坂田 衛 : ダイオキシン類定量に関する共同実験及び技能試験結果に基づくガスクロマトグラフ分離の検討, *分析化学*, 55 (8), 605-617.
- 35) Isobe, T., Serizawa, S., Horiguchi, T., Shibata, Y., Managaki, S., Takada, H., Morita, M., and Shiraishi, H. : Horizontal distribution of steroid estrogens in surface sediments in Tokyo Bay. *Environmental Pollution*, 144 (2), 632-638.
- 36) Kume, G., Horiguchi, T., Goto, A., Isobe, T., Serizawa, S., Shiraishi, H., and Morita, M. : Lethal effects of nonylphenol on fertilized eggs and larvae of marbled sole *Pleuronectes yokohamae*. *Fisheries Science*, 72 (1), 217-219.
- 37) Fine T., Leskinen P., Isobe T., Shiraishi H., Morita M., Marks R. S., Virta M. : Luminescent yeast cells entrapped in hydrogels for estrogenic endocrine disrupting chemical biodetection. *Biosensors and Bioelectronics*, 21(12), 2263-2269.

総説等

- 1) Tanabe, S. : Environmental Specimen Bank in Ehime University (*es*-BANK), Japan for global monitoring. *Journal of Environmental Monitoring*, 8 (8), 782-790. (招待原稿)
- 2) 高橋 真・梶原夏子・田辺信介 : 臭素系難燃剤 PBDEs によるアジア太平洋海域の海棲哺乳類汚染, *Endocrine Disrupter News Letter*, 8 (4), 4. (招待原稿)
- 3) 梶原夏子・田辺信介 : ポリ臭素化ジフェニルエーテル (PBDEs) による鯨類の汚染, *瀬戸内海*, 45, 50-53. (招待原稿)
- 4) Viet, P. H., Tran, T. L., Minh, N. H., Minh, T. B. and Tanabe, S. : Widespread contamination by persistent toxic substances in Vietnam and their implications on environmental quality and human health. *Coastal Marine Sciences*, 30 (1), 396-400.
- 5) Tanabe, S. : Reply to correspondence by D. T. Salvito. *Marine Pollution Bulletin*, 52 (10), 1318-1319.
- 6) 田辺信介・国末達也・高橋 真 : アジアの有害物質汚染と母乳の安全性, 遺伝, 別冊 No. 19, 104-115. (招待原稿)
- 7) Agusa, T., Kunito, T., Ramu, K., Chamnan, C., Trang, P. T. K., Minh, T. B., Subramanian, An., Iwata,

4. 研究成果

H., Viet, P. H., Tana, T. S. and Tanabe, S. : Lead contamination and its human effects in India, Vietnam and Cambodia. *Biomedical Research on Trace Elements*, 17 (4), 413-416.

Proceedings 等

- 1) Iwata, H., Agusa, T., Inoue, S., Minh, N. H., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S., Namakura, S. and Tanabe, S. : Trace elements and organohalogen compounds in the aquatic environment of the Mekong river basin. Proceedings of 3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, 79-86.
- 2) Tu, N. P. C., Ha, N. N., Ikemoto, T., Tuyen, B. C., Tanabe, S. and Takeuchi, I., Heavy metal and selenium concentrations in hepatopancreas of *Penaeus monodon* (Decapoda : penaeidae) from south Vietnam. Proceedings of 3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, 121-124.

生態毒性解析分野

原著

- 1) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Iwata, H., Subramanian, An., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Contamination of arsenic and other trace elements in tube-well water and its risk assessment to humans in Hanoi, Vietnam. *Environmental Pollution*, 139 (1), 95-106.
- 2) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P. and Tanabe, S. : Specific accumulation of organochlorines in human breast milk from Indonesia : levels, distribution, accumulation kinetics and infant health risk. *Environmental Pollution*, 139 (1), 107-117.
- 3) Nakayama, K., Iwata, H., Kim, E. Y., Tashiro, K. and Tanabe, S. : Gene expression profiling in common cormorant liver with an oligo array : assessing the potential toxic effects of environmental contaminants. *Environmental Science and Technology*, 40 (3), 1076-1083.
- 4) Kubota, R., Kunito, T., Agusa, T., Fujihara, J., Monirith, I., Iwata, H., Subramanian, An., Tana, T. S. and Tanabe, S. : Urinary 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine in inhabitants chronically exposed to arsenic in groundwater in Cambodia. *Journal of Environmental Monitoring*, 8, 293-299.
- 5) Kunisue, T., Watanabe, M. X., Iwata, H., Tsubota, T., Yamada, F., Yasuda, M. and Tanabe, S. : PCDDs, PCDFs, and coplanar PCBs in wild terrestrial mammals from Japan : congener specific accumulation and hepatic sequestration. *Environmental Pollution*, 140 (3), 525-535.
- 6) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S. : Congener-specific toxicokinetics of polychlorinated dibenzo-p-dioxins, polychlorinated dibenzofurans, and coplanar polychlorinated biphenyls in black-eared kites (*Milvus migrans*) : cytochrome P4501A-dependent hepatic sequestration. *Environmental Toxicology and Chemistry*, 25 (4), 1007-1016.
- 7) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, A., Iwata, H., Tana, S., Baburajendran, R., Karuppiah, S., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S. : Contamination by persistent organic pollutants in dumping sites of Asian developing countries : implication of emerging pollution sources. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 50 (4), 474-481.
- 8) Minh, T. B., Watanabe, M., Kajiwara, N., Iwata, H., Takahashi, S., Subramanian, A., Tanabe, S., Watanabe, S., Yamada, T. and Hata, J. : Human blood monitoring program in Japan : contamination and bioaccumulation of persistent organochlorines in Japanese residents. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 51 (2), 296-313.
- 9) Kubota, A., Iwata, H., Goldstone, H. M. H., Kim, E. Y., Stegeman, J. J. and Tanabe, S. : Cytochrome P450 1A4 and 1A5 in common cormorant (*Phalacrocorax carbo*) : evolutionary relationships and functional implications associated with dioxin and related compounds. *Toxicological Sciences*, 92 (2), 394-408.
- 10) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Iwata, H., Viet, P. H., Tu, N. P. C., Tuyen, B. C. and Tanabe, S. : Contamination by polybrominated diphenyl ethers and persistent organochlorines in catfish and feed from Mekong River Delta, Vietnam. *Environmental Toxicology and Chemistry*, 25 (10), 2700-2709.

- 11) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tsydenova, O., Miyazaki, N., Petrov, E., Batoev, V. B. and Tanabe, S.: Constitutive androstane receptor (CAR) as a potential sensing biomarker of persistent organic pollutants (POPs) in aquatic mammal: molecular characterization, expression level, and ligand profiling in Baikal seal (*Pusa sibirica*). *Toxicological Sciences*, 94 (1), 57-70.
- 12) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Shima, Y. And Tanabe, S.: Toxic effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin (TCDD) in developing red seabream (*Pagrus major*) embryo: an association of morphological deformities with AHR1, AHR2 and CYP1A expressions. *Aquatic Toxicology*, 80 (2), 166-179.
- 13) Kannan, K., Agusa, T., Perrotta, E., Thomas, N. J. and Tanabe, S.: Comparison of trace element concentrations in livers of diseased, emaciated and non-diseased southern sea otters from the California coast. *Chemosphere*, 65 (11), 2160-2167.

総説等

- 1) 岩田久人・金 恩英・山内正信・井上 英・阿草哲郎・田辺信介: 水圏生態系の化学物質汚染, *Yakugaku Zasshi*, 127 (3), 417-428.
- 2) 仲山 慶: トキシコゲノミクスによる POPs 等有害化学物質の生体影響評価, *環境毒性学会誌*, 9 (2), 81-86.
- 3) 岩田久人: 鳥類における AHR-CYP1A シグナル伝達系の特異性, *Endocrine Disrupter News Letter*, 9 (3), 6.

Proceedings 等

- 1) Iwata, H., Agusa, T., Inoue, S., Minh, N. H., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S., Namakura, S. and Tanabe, S.: Trace elements and organohalogen compounds in the aquatic environment of the Mokong river basin. *Proceedings of 3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed*, 79-86.
- 2) Agusa, T., Kunito, T., Ramu, K., Chamnan, C., Trang, P. T. K., Minh, T. B., Subramanian, An., Iwata, H., Viet, P. H., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Lead contamination and its human effects in India, Vietnam and Cambodia. *Biomedical Research on Trace Elements*, 17 (4), 413-416.

生態系解析分野

原著

- 1) Suehiro, F., Kobayashi, T., Nonaka, L., Tuyen, B. C. and Suzuki, S.: Degradation of tributyltin (TBT) in microcosm using Mekong River sediment, *Microbial Ecology*, 52, 19-25.
- 2) Dubey, S. K., Tokashiki, T. and Suzuki, S.: Microarray-mediated transcriptome analysis of the tributyltin (TBT) -resistant bacterium *Pseudomonas aeruginosa* 25W in the presence of TBT, *Journal of Microbiology*, 44, 200-205.
- 3) Kitamura, S. I., Jung, S. J., Kim, W. S., Nishizawa, T., Yoshimizu, M. and Oh, M. J.: A new genotype of lymphocystivirus, LCDV-RF, from lymphocystis diseased rockfish, *Archives of Virology*, 151, 607-615.
- 4) Kim, S. R., Jung, S. J., Kitamura, S. I., Kang, S. Y. and Oh, M. J.: Acute toxicity of wood vinegar on culture fishes, *Journal of Fish Pathology*, 19, 277-284.
- 5) Jung, S. J., Kitamura, S. I., Aoyama, M., Song, J. Y., Kim, B. K. and Oh, M. J.: Immune response of olive flounder, *Paralichthys olivaceus* against *Miamiensis avidus* (*Ciliophora: Scuticociliatida*), *Journal of Fish Pathology*, 19, 173-181.
- 6) Oh, M. J., Kim, W. S., Park, M. K., Jung, S. J., Miyadai, T., Ohtani, M. and Kitamura, S. I.: Susceptibility of marine fish species to a megalocytivirus, turbot iridovirus, isolated from turbot *Scophthalmus maximus* (L.), *Journal of Fish Diseases*, 29, 415-421.
- 7) Oh, M. J., Kim, W. S., Kitamura, S. I., Lee, H. K., Son, B. W., Jung, T. S. and Jung, S. J.: Change of pathogenicity in Olive flounder *Paralichthys olivaceus* by co-infection of *Vibrio harveyi*, *Edwardsiella tarda* and marine birnavirus, *Aquaculture*, 257, 156-166.
- 8) Kim, J. D., Kim, Y. J., Jung, S. J., Kitamura, S. I., Park, S. W., Oh, B. S., Byun, S. G. and Oh, M. J.: Nervous necrosis virus (NNV) -free seed production of red drum, *Sciaenops ocellatus*, *Journal of Fish Pathology*, 19, 65-72.

4. 研究成果

- 9) Kitamura, S. I., Jung, S. J. and Oh, M. J. : Differentiation of lymphocystis disease virus genotype by multiplex PCR, *Journal of Microbiology*, 44, 248-253.
- 10) Oh, M. J., Jung, S. J., Kitamura, S. I., Kim, H. Y. and Kang, S. Y. : Viral diseases of olive flounder in Korean hatchery, *Oceanic and Coastal Sea Research*, 5, 45-48.
- 11) Kuo, J., Kanamoto, Z., Iizumi, H., Aioi, K. and Mukai, H. : Seagrass from the Nansei Islands, Southern Japanese Archipelago : species composition, distribution and biogeography, *Marine Ecology*, 27, 290-298.
- 12) Kuo, J., Kanamoto, Z., Iizumi, H. and Mukai, H. : Seagrass of the genus *Halophila* Thouars (Hydrocharitaceae) from Japan, *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 57, 129-154.
- 13) Sakamoto, M., Chang, K. H., Hanazato, T. : Inhibition of development of anti-predator morphology in the small cladoceran *Bosmina* by an insecticide : impact of an anthropogenic chemical on prey-predator interactions, *Freshwater Biology*, 51 (10), 163-170.
- 14) Hirokazu T., Chang, K. H. and Hanazato, T. : Acute toxicity of the insecticide Diazinon and Carbaryl to Calanoid and Cyclopoid Copepoda (*Eodiaptomus*, *Mesocyclops* and *Thermocyclops*) in different life stages, *Japanese Journal of Environmental Toxicology*, 9, 133-139.
- 15) Katano, T., Kaneda, A., Kanzaki, N., Obayashi, Y., Morimoto, A., Onitsuka, G., Yasuda, H., Mizutani, S., Kon, Y., Hata, K., Takeoka, H. and Nakano, S. : Distribution of prokaryotic picophytoplankton from Seto Inland Sea to Kuroshio region with special reference to Kyucho enumerated with a dual laser flow cytometer and a spectrofluorometer, *Aquatic Microbial Ecology*, 46, 191-201.
- 16) Nishibe, Y. and Ikeda, T. : Vertical distribution, population structure and life cycles of four oncaeid copepods in the Oyashio region, western subarctic Pacific, *Marine Biology*, 150 (4), 609-625.
- 17) Nishibe, Y. and Ikeda T. : Laboratory observations on early development of the oncaeid copepod *Triconia canadensis* from the mesopelagic zone of the western subarctic Pacific, *Journal of the Marine Biological Association of the UK*, 87, 479-482.

環境影響評価予測分野

原著

- 1) 井内美郎・井上卓彦・岩本直哉・天野敦子：海域“沖積層”のシーケンス層序学的検討—大阪湾の例—。地質学論集, 第59号, 169-178.
- 2) Amano, A., Iwamoto, N., Inoue, T. And Inouchi, Y. : Seafloor environmental changes resulting from nineteenth century reclamation in Mishou Bay, Bungo Channel, southwest Japan. *Environmental Geology*, 50, 989-999.
- 3) Inoue, T., Kimura, K., Miyachi, Y., Haraguchi, T., Tanabe, S. and Inouchi, Y. : Identification of the source horizon of earthquake-jetted sand based on grain size characteristics and sand fraction composition. *Earth Science*, 60, 315-324.
- 4) Xiao, J., Wu, J., Si, B., Lian, W., Nakamura, T., Liu, B. and Inouchi, Y. : Holocene climate changes in the monsoon/arid transition reflected by carbon concentration in Daihai Lake of Inner Mongolia. *The Holocene*, 16, 551-560.
- 5) Nara, M. : Reappraisal of *Schaubcylindrichnus* : A probable dwelling/feeding structure of a solitary funnel feeder. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 240, 439-452.
- 6) Yoshino, K., Miyasaka, H., Kawamura, Y., Genkai-Kato, M., Okuda, N., Hayami, Y., Ito, S., Fukumori, K., Sekiguchi, T., Ohnishi, H., Ohmori, K. and Takeoka, H. : Sand banks contribute to the production of coastal waters by making a habitat for benthic microalgae in the sublittoral zone : food web analyses in Aki-Nada using stable isotopes. *Plankton and Benthos Research*, 1 (3), 155-163.
- 7) 合田幸子・大森浩二・柳沢康信：干潟に生息するイワガニ科2種における巣穴外活動の季節変化と日周変化, *日本ベントス学会誌*, 61, 26-39.
- 8) 速水祐一・山本浩一・大串浩一郎・濱田孝治・平川隆一・宮坂 仁・大森浩二：夏季の有明海奥部における懸濁物輸送とその水質に与える影響, *海岸工学論文集*, 53 : 956-960.
- 9) Omori, K., Kikutani, K., Irawan, B., and Goda, Y. : Size-dependent intraguild reciprocal predation between *Helice tridens* De Haan and *H. japonica* Sakai and Yatsuzuka (Decapoda : Grapsidae), as analyzed in field experiments, *Journal of Crustacean Biology*, 26, 148-153.
- 10) Ito, S, Koike, H., Omori, K., and Inoue, M. : Comparison of current-velocity tolerance among six stream gobies

of the genus *Rhinogobius*, *Ichthyological Research*, 53, 301-305.

総説等

- 1) 岩本はるか・渡部遼・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎：琵琶湖表層堆積物の物理量と気象観測データとの対応，第16回環境地質学シンポジウム論文集，181-186.
- 2) 渡部遼・岩本はるか・相澤育実・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・井内美郎：琵琶湖表層堆積物の密度プロファイル及び気象観測データとの相関，第16回環境地質学シンポジウム論文集，187-192.
- 3) 樋口衡平・岩本直哉・天野敦子・芦田貴史・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物の粒度組成と分布様式，第16回環境地質学シンポジウム論文集，193-198.
- 4) 相澤育実・岩本直哉・天野敦子・渡部遼・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物における過去およそ100年間の生物源シリカ濃度と気象観測データの対応，第16回環境地質学シンポジウム論文集，199-204.
- 5) 芦田貴史・塩屋藤彦・岩本直哉・井上卓彦・里口保文・井内美郎：琵琶湖音波探査記録およびボーリングコア試料からみた湖水面変動史，第16回環境地質学シンポジウム論文集，205-210.
- 6) 井内美郎・吉川周作・井上卓彦・天野敦子・岩本直哉・芦田貴史：大阪湾海底堆積物の音波探査記録と夢洲沖ボーリング資料との対応，第16回環境地質学シンポジウム論文集，217-220.
- 7) 天野敦子・岩本直哉・井上卓彦・塩屋藤彦・井内美郎：愛媛県御荘湾における歴史時代の干拓に伴う海底環境変遷，第16回環境地質学シンポジウム論文集，237-242.
- 8) 角田絵理・芦田貴史・公文富士夫・近藤洋一・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎：野尻湖西部池尻川低地の10mコアにおけるテフラとその年代推定，第16回環境地質学シンポジウム論文集，243-248.
- 9) 井内美郎：海砂資源量と採取後海域の状況変化，瀬戸内海(社団法人 瀬戸内海環境保全協会)，2006-45, 20-25.

Proceedings 等

- 1) Omori, K., A. Doura, T. Fukumoto, J. Matsumoto, H. Ohnishi, and N. Okuda. Tropical forests as a carbon sink. Proceedings of International Symposium on Greenhouse Gas and Carbon Balances in Mangrove Coastal Ecosystems, 2005.

4. 3 学内，所内誌等

生態環境計測分野

- 1) Tanabe, S., Minh, T. B. and Subramanian, An.: Contamination by persistent toxic substances in the Asia-Pacific region. Text for AAP Special Master's Program Joint Course 2006 (Subject: Advanced Life Science and Agriculture III, IV), Faculty of Agriculture, Ehime University, 29-63.

4. 4 一般誌等

環境動態解析分野

- 1) 藤井直紀：浅場の減少が生物資源持続性に及ぼす影響，瀬戸内海，47, 13-16

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介：学際・複合・新領域「沿岸環境科学研究拠点」愛媛大学，21世紀 COE プログラムの成果，文部科学省，平成18年8月，14. (招待原稿)

4. 5 報告書等

環境動態解析分野

- 1) 藤井直紀: クラゲの時代が到来する!?, めだかの学校~若手水産関係者の横顔~, 月刊養殖, 2006年3月号, 88-89.
- 2) 福森香代子: フィールドステーションとしての室手湾, 南予生物, 14, 81-83.

生態環境計測分野

- 1) Sudaryanto, ., Kunisue, T., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P. and Tanabe, S.: Specific accumulation of organochlorines in human breast milk from Indonesia: levels, distribution, accumulation kinetics and infant health risk. 平成14年度~平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 40-50.
- 2) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah, Hayami, Y., Omori, K. and Tanabe, S.: Geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers and organochlorine compounds in fish from Indonesia. 平成14年度~平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 51-54.
- 3) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Tsydenova, O., Iwata, H., Adibroto, T. A., Yu, H., Chung, K. H., Subramanian, An., Purudente, M., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Global contamination of PBDEs in human milk from Asia. 平成14年度~平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 55-58.
- 4) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Takahashi, S., Iwata, H., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah, Omori, K. Hayami, Y. and Tanabe, S.: Persistent toxic substances in the coastal waters of Indonesia: levels distributions, ecological and human health risk assessment. 平成14年度~平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 121-126.
- 5) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S.: Geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in human breast milk from Indonesia. 平成14年度~平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 145-146.
- 6) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Omori, K., Hayami, R., Adibroto, T. A., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S.: Contamination of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in fish from Indonesia. 平成14年度~平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 147-148.
- 7) 岩田久人・能勢真人・Minh, T. B.: 水資源の汚染実態と高次生物ならびにヒトに対する毒性影響に関する研究, 平成17年度報告書 新世紀重点研究創生プラン 人・自然・地球共生プロジェクト水循環予測ミッション「インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発」, 平成18年3月, 26-34.
- 8) 田辺信介・高橋 真・梶原夏子: 自然システム循環における有機臭素化合物の動態研究, 平成17年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用 (K1737)」, 平成18年3月, 5-31.
- 9) 田辺信介・高橋 真・上野大介・梶原夏子: 自然システム循環における有機臭素化合物の動態研究, 平成15~17年度廃棄物処理等科学研究費補助金総合研究成果報告書「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用」, 平成18年3月, 5-34.
- 10) 滝上英孝・鈴木 剛・高橋 真・磯部友彦: 有機臭素化合物およびその代謝物の *in vitro* バイオアッセイ/化学分析手法の開発、検討, 平成17年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニタリング手法の開発」, 平成18年3月, 5-17.
- 11) 高橋 真・滝上英孝・酒井伸一: 有機臭素化合物の測定に係わる相互検定研究, 平成17年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニタリング手法の開発」, 平成18年3月, 18-34.
- 12) 滝上英孝・鈴木 剛・梶原夏子: EU FIRE プロジェクト「ヒトや野生生物への内分泌かく乱作用が疑われる臭素系難燃剤のリスクアセスメント」プログレスレポート和訳, 平成17年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニ

タリング手法の開発」, 平成18年3月, 149-161.

- 13) Tanabe, S.: Monitoring of organohalogen compounds in Korea using mussels as bioindicators. Japan-Korea Co-operative Joint Research on Endocrine Disrupting Chemicals, Dioxins, Furans and Polychlorinated Biphenyls, Annual Report 2005, March 2006, 25-31.
- 14) 高橋 真・国末達也・磯部友彦・滝上英孝・渡辺真文・山本貴士: アジア太平洋地域における POPs 候補物質の汚染実態解明と新規モニタリング法の開発, 平成18年度地球環境研究計画—地球環境研究総合推進費による研究計画—, 環境省, 平成18年, 164-166.
- 15) 田辺信介・池本徳孝・酒井大樹: ハヤブサ卵中の微量元素, 泉大津ハヤブサ・レポート2006, 日本野鳥の会大阪支部, 32.
- 16) 田辺信介: 序文, 化学物質の生態リスク 評価と規制—農業編—, 日本環境毒性学会監修, 畠山成久編著, アイピーシー.

生態毒性解析分野

- 1) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P. and Tanabe, S.: Specific accumulation of organochlorines in human breast milk from Indonesia: levels, distribution, accumulation kinetics and infant health risk. 平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 40-50.
- 2) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah, Hayami, Y., Omori, K. and Tanabe, S.: Geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers and organochlorine compounds in fish from Indonesia. 平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 51-54.
- 3) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Tsydenova, O., Iwata, H., Adibroto, T. A., Yu, H., Chung, K. H., Subramanian, An., Purudente, M., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Global contamination of PBDEs in human milk from Asia. 平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 55-58.
- 4) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Takahashi, S., Iwata, H., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah, Omori, K. Hayami, Y. and Tanabe, S.: Persistent toxic substances in the coastal waters of Indonesia: levels distributions, ecological and human health risk assessment. 平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 121-126.
- 5) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S.: Geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in human breast milk from Indonesia. 平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 145-146.
- 6) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Omori, K., Hayami, R., Adibroto, T. A., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S.: Contamination of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in fish from Indonesia. 平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書「東南アジアの海面養殖における漁場管理と環境保全」, 平成18年3月, 147-148.
- 7) 岩田久人・能勢真人・Minh, T. B.: 水資源の汚染実態と高次生物ならびにヒトに対する毒性影響に関する研究, 平成17年度報告書 新世紀重点研究創生プラン 人・自然・地球共生プロジェクト水循環予測ミッション「インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発」, 平成18年3月, 26-34
- 8) 田辺信介・池本徳孝・酒井大樹: ハヤブサ卵中の微量元素, 泉大津ハヤブサ・レポート2006, 日本野鳥の会大阪支部, 32.

生態系解析分野

- 1) Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Microbial degradation of organic matter in seawater -Insights from the activity of proteolytic enzymes- *In* Proceedings of COE International Symposium 2006: Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, 311-314.
- 2) Neela, F. A., Nonaka, L. and Suzuki, S.: Transfer of tetracycline resistance gene *tet* (M) from marine environmental bacteria to human enteric bacteria. *In* Proceedings of COE International Symposium 2006: Pioneering Studies of Young

4. 研究成果

- Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, 293-296.
- 3) Rahman, M. H., Sakamoto, K. Q. and Suzuki, S.: Occurrence of tetracycline resistance gene *tet* (M) in Antarctic-Adelie penguin feces, *In Proceedings of COE International Symposium 2006 : Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes.* 289-292.
 - 4) Cruz, A., Nonaka, L., Domingos, A., Suzuki, S. and Mendo, S.: Tributyltin (TBT) resistance in *Aeromonas veronii*: Isolation of gene (s) and protein (s) involved in TBT resistance, *In Proceedings of COE International Symposium 2006 : Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes.* 285-288.
 - 5) Chang, K.-H., Doi, H., Nishibe, Y., Obayashi, Y., Yamamoto, T., Yoshihara, M., Shime, M., and Nakano, S.: Spatial and temporal distribution of zooplankton communities of coastal marine waters receiving different human activities (fish and pearl oyster farmings), *In Proceedings of COE International Symposium 2006 : Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes.* 405-408.
 - 6) Nakano, S., Mitamura, O., Sugiyama, M., Maslennikov, A., Nishibe, Y., Watanabe, Y. and Drucker V.: The vertical planktonic structure in the central basin of Lake Baikal in summer 1999 with special reference to microbial food web, バイカル湖の物質負荷・循環過程が駆動する巨大湖の生物生産・生態変動システム, 平成14年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書, 125-130.

環境影響評価予測分野

- 1) Ikemoto, T., Tu, N. P. C., Watanabe, M. X., Okuda, N., Omori, K., Tanabe, S., Hien, P. P., Tuyen, B. C. and Takeuchi, I.: Trophic transfer of environmental contaminants in biota of Mekong Delta watershed in South Vietnam. *Proceedings of 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed,* 38-44.
- 2) 奥田昇・大森浩二・濱岡秀樹: 紅藻トサカノリと二枚貝類の混合養殖による浄化作用と藻場再生, 公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金研究成果報告書, 12.
- 3) 加藤元海・宮坂仁・三橋弘宗・野崎健太郎・三宅洋: 雑食性底生動物を指標とした河川生態系の物質循環予測モデルの構築, 河川整備基金助成事業報告書, 平成17年度, 24.
- 4) 堤純・加三千宣・宮坂仁・大森浩二・大西秀次郎・武岡英隆: 土地利用からみた松山平野の陸域環境変遷. *愛媛の地理,* 18, 67-72.
- 5) 和田英太郎・宮坂仁・小川奈々子: 炭素・窒素同位体比から見た水界の藻類, *月刊海洋,* 38, 441-452

4. 6 学会発表等

環境動態解析分野

- 1) Yamaguchi, H., Montani, S., Tsutsumi, H., Hamada, K., Ueda, N. and Tada, K.: Dynamics of Microphytobenthos Biomass and Its Possible Effects on Macrobenthic Animals in the Western Seto Inland Sea, Japan. *The 13th Ocean Sciences Meeting, a joint meeting of ASLO, ERF, TOS and AGU, CD-ROM.*
- 2) Kuwae, M., Hayami, Y., Yamashita, A., Kaneda, A., Inouchi, Y., Takeoka, H. and Kawahata, H.: Decadal-scale Variability of Bottom Temperature in the Shelf of the Southwest Japan Based on Benthic Foraminiferal Mg/Ca Ratios. *The 13th Ocean Sciences Meeting, a joint meeting of ASLO, ERF, TOS and AGU, CD-ROM.*
- 3) Fujii, N. and Uye, S.: Assessment of the Bioresource Sustainability in Marine Coastal Waters: An Attempt Based on Retrospective Studies. *EMEC2006, Caen, France, May.*
- 4) Kuwae, M., Miyasaka, H., Kuwae, T. N., Oda, H., Yamaguchi, H., Doura, A., Ikehara, M., Omori, K., Takeoka, H., Sugimoto, T.: Relationship between changes in fish abundance and eutrophication: evidence from records of organic geochemical proxy and fish scales in the Seto Inland Sea. *The ASLO 2006 summer meeting in Victoria, Canada, June.*
- 5) Kuwae, M., Hayami, Y., Kaneda, A., Inouchi, Y., Takeoka, H., and Kawahata, H.: Decadal-scale variability of bottom temperature in the shelf of the southwest Japan based on benthic foraminiferal Mg/Ca ratios. *The 13th Ocean Sciences Meeting, a joint meeting of ASLO, ERF, TOS and AGU, CD-ROM.*
- 6) Yamaguchi, H., Miyoshi, C., Kuwae, M., Kuwae, T. N., Amano, A., Inouchi, Y. and Takeoka, H.: A

- possible explanation for the vertical profile of biogenic silica in the sediment core from a eutrophic embayment, Osaka Bay, Japan. ESCA 41st International Conference, Venice, Italy, Nov., Abstracts, 147.
- 7) Fujii, N., Fukushima, A., Nanjo, Y. and Takeoka, H. : Aggregations of *Aurelia aurita* in Uwa Sea, Japan. PICES 15th Annual Meeting, Yokohama, Japan, October, Abstracts, 13.
 - 8) Chang, P. -H., Guo, X. and Takeoka, H. : A Numerical study on the seasonal water circulation in the Seto Inland Sea, Japan, the Korean Society of Oceanography, Chunnam, Korea, November, Proceedings of the Spring meeting, 147-148.
 - 9) Fukumori, K., Oi, M., Okuda, N., Koizumi, Y. and Takeoka, H. : Bivalve Stable Carbon Isotopes as Indicators of Production Structure in Coastal Ecosystems. Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, November, Abstracts, C2-10.
 - 10) Kuwae, M., Yamaguchi, H., Kuwae, T. N., Mitsumori, T., Miyasaka, H., Ikehara, M., Fukumori, K., Genkai-Kato, M., Omori, K., Takeoka, H. and Sugimoto, T. : Sedimentary Fish Abundance Records over the Last 1500 Yrs from Western North Pacific : Basin-Scale Link of Sardine and Anchovy Biomass. Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, November, Abstracts, C2-15.
 - 11) Yamaguchi, H., Miyoshi, C., Kuwae, M., Kuwae, T. N., Amano, A., Inouchi, Y., Takeoka, H. : Effect of Human Activities on the Phytoplankton Community during the Past 100 Years in Osaka Bay, Japan. Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, November, Abstracts, C2-16.
 - 12) Chang, P. -H., Guo, X. and Hidetaka, T. : A Numerical Study on the Seasonal Water Circulation in the Seto Inland Sea, Japan. Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, November, Abstracts, C2-21.
 - 13) Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S., Ishizaka, J. and Takeoka, H. : A numerical study on vertical transport of Polychlorinated Biphenyls (PCBs) in East China Sea. International Symposium on Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Ehime, November, Abstracts, C2-20.
 - 14) Kawamura, Y., Hayami, Y., Kohama, T., Kaneda, A. and Takeoka, H. : Occasional Intensification of Semidiurnal Internal Tide in Bungo Channel, Japan. Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, November, Abstracts, C2-22.
 - 15) Balotro, S. R., Guo, X. and Miyazawa, Y. : High Resolution Model of the Influence of Kuroshio along the Philippine Coast. Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, November, Abstracts, C2-23.
 - 16) Fujii, N., Fukushima, A., Nanjo, Y. and Takeoka, H. : Aggregations of *Aurelia aurita* in Uwa Sea, Japan. Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, November, Abstracts, C2-26.
 - 17) Miyazawa, Y., Kagimoto, T., Kawajiri, H., Sakuma, H., and Guo, X. : Eddy-Kuroshio Interactions Associated With the Large Meander Formation In 2004, Eos Trans. AGU, 87 (36), Ocean Sci. Meet. Suppl., Abstract OS26N-11.
 - 18) Kawajiri, H., Miyazawa, Y., Zhang, R., Kagimoto, T., Guo, X., and Sakuma, H. : Development of a forecast system for coastal waters south of Tokyo, Japan, Eos Trans. AGU, 87 (36), Ocean Sci. Meet. Suppl., Abstract OS26N-09.
 - 19) Wang, Q., Guo, X., Takeoka, H. : Wind-dependence of Yellow River Plume Path in the Bohai Sea, Eos Trans. AGU, 87 (36), Ocean Sci. Meet. Suppl., Abstract OS35J-06.
 - 20) Jiang, W., Gao, H., Guo, X. : In Situ Size Spectrum of Suspended Particulate Matter in the Laizhou Bay, Eos Trans. AGU, 87 (36), Ocean Sci. Meet. Suppl., Abstract OS16A-24.
 - 21) Miyazawa, Y., Kagimoto, T., Guo, X., Sakuma, H. : The Kuroshio large meander formation in 2004 analyzed by an eddy-resolving ocean forecast system. Eos Trans. AGU, 87 (36), West. Pac. Geophys. Meet. Suppl., Abstract OS32A-05.
 - 22) Wang, Q., Guo, X., and Takeoka, H. : Numerical Study on Seasonal Variation of Yellow River Plume Path in the Bohai Sea. Eos Trans. AGU, 87 (36), West. Pac. Geophys. Meet. Suppl., Abstract OS14A-06.
 - 23) Shiraki, Y., Yanagi, T., and Guo, X. : Differences in distribution of the giant jellyfish around south Japan in 2003 and 2005, GODAE Symposium on ocean data assimilation and prediction in Asia-Oceania (poster presentation), October, Beijing China.

4. 研究成果

- 24) Kaneda, A. : Introduction of the bottom intrusion occurring in the Bungo Channel, Japan, CCPO Seminar Series 2006, Center for Coastal Physical Oceanography, Old Dominion University, USA, April.
- 25) Kaneda, A. : Resuspension of the surface sediments caused by Mariner's fall wind in the South Atlantic Bight, SkIO Seminar Series, Skidaway Institute of Oceanography, USA, July.
- 26) 郭新宇：東シナ海における Ekman 輸送と対馬海峡における流量の季節変動，名古屋大学地球水循環研究センター共同研究集会「東シナ海から日本海へ流入する海水の物理・生物・化学特性に関する研究集会」，3月，名古屋。
- 27) 武岡英隆・井内美郎・大森浩二・郭新宇・梶原夏子・加三千宣・宮坂仁・加藤元海・渡邊政広・三宅 洋・堤純・野崎賢也・井上幹生・奥田昇：陸域における人間活動の変遷が沿岸海洋環境に及ぼしてきた影響に関する研究，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，1-2.
- 28) 郭新宇・高橋真・高橋大介・武岡英隆：東シナ海における残留性有機汚染物質 (POPs) の輸送過程に関する研究，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，9-10.
- 29) 藤井直紀・南條悠太・福島明子・武岡英隆：法華津湾におけるミズクラゲパッチの消長，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，49-50.
- 30) 加三千宣・杉本隆成・井内美郎・速水祐一・山下亜純・山口一岩・大森浩二・郭新宇・武岡英隆：沿岸域海底コアを用いた過去500年間の黒潮変動及び日本沿岸カタクチワシ資源量変動の復元に関する研究，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，55-56.
- 31) 山口一岩・三好慶典・加三千宣・加 玲美・天野敦子・井内美郎・武岡英隆：人間活動に伴って大阪湾の植物プランクトン群集に起きた変化：堆積物中の親生物元素 (C, N, Si) の鉛直分布からの推察，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，57-58
- 32) 高橋大介・郭新宇・高橋真・武岡英隆：残留性有機汚染物質 (POPs) の鉛直輸送過程に関する研究，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，65-66.
- 33) Chang, P. -H.・Guo, X.・Takeoka, H. : A Numerical Study on the water circulation in Seto Inland Sea, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，67-68.
- 34) 川村有二・武岡英隆：半日周期内部潮汐の底層でのエネルギー強化に伴う海水交換への影響，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，69-70.
- 35) 黒田寛・武岡英隆・磯田豊・本田聡：日高湾東部陸棚上における沿岸流の季節変化とその力学，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，3月，松山，講演要旨集，71-72.
- 36) 藤井直紀・福島明子・南條悠太・武岡英隆：法華津湾におけるミズクラゲ集団の変動，日本海洋学会春季大会，3月，横浜市，講演要旨集.
- 37) 山口一岩・三好慶典・加三千宣・多田邦尚・武岡英隆：別府湾と大阪湾・播磨灘海域における表層堆積物中の生物珪酸含有量の違い，2006年度日本海洋学会春季大会，3月，横浜市，講演要旨集，74.
- 38) 郭新宇・Valle-Levinson：河口循環流と吹送流，2006年度日本海洋学会春季大会「シンポジウム、内湾環境における河口循環流の役割」.
- 39) 濱口美樹・柳哲雄・郭新宇：東シナ海における低次生態系の季節変動，2006年度日本海洋学会春季大会要旨集，215.
- 40) 白木喜章・柳哲雄・郭新宇：日本周辺海域における2003年、2005年のエチゼンクラゲの輸送ルートの違い，2006年度日本海洋学会春季大会要旨集，429 .
- 41) 宮澤泰正・鍵本崇・郭新宇・佐久間弘文：海洋変動予測システムから見た2004年黒潮大蛇行の形成過程：感度実験，2006年度日本海洋学会春季大会要旨集，P04.

- 42) 章若潮・郭新宇・宮澤泰正・鍵本崇・川尻秀之：気象庁 GPV/MSM 風力データについての解析 --モデル駆動外力として (1), 2006年度日本海洋学会春季大会要旨集, P31.
- 43) 加三千宣・速水祐一・郭新宇・武岡英隆・川幡穂高：過去100年間における西南日本黒潮内側域の湧昇に対する温暖化の影響, 日本地球惑星科学連合2006年合同大会予稿集, CD-ROM, L130-006.
- 44) 藤井直紀：浅場の減少が生物資源持続性に及ぼす影響. 瀬戸内海研究フォーラム, 54-57.
- 45) 藤井直紀：瀬戸内海流入河川の物質流出長期変動. 広島大学陸域環境研究会「瀬戸内海流域の陸域環境と物質輸送2」, 広島.
- 46) 兼田淳史・武岡英隆：伊方におけるクラゲの量の経年変動と冬季水温の関係, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 9月, 名古屋市, 講演要旨集, 126.
- 47) Chang, P. -H., Guo, X. and Takeoka, H. : Numerical study of the seasonal circulation in the Seto Inland Sea, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 9月, 名古屋市, 講演要旨集, 222.
- 48) 南條悠太・藤井直紀・武岡英隆：宇和海（法華津湾）におけるミズクラゲ表層集群形成の傾向, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 9月, 名古屋市, 講演要旨集, 259.
- 49) Balotro, S. R. and Kourafalou, V. : Nested Simulation of South Florida Coastal System using HYCOM, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 9月, 名古屋市, 講演要旨集, 137.
- 50) 高橋暁・川村有二：竹原沖海砂採取海域の底質移動特性 ー大潮・小潮変動ー, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 9月, 名古屋市, 講演要旨集, 127.
- 51) 高橋大介・三宅秀男・木戸和男・西田芳則・檜垣直幸・小林直人：夏季噴火湾底層における数日周期の流速変動, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 9月, 名古屋市, 講演要旨集, 254.
- 52) 郭新宇・張弼勳・二村彰・武岡英隆：夏季の伊予灘における残差流構造の経年変動, 九州大学応用力学研究所共同研究集会「沿岸海域の低次栄養段階をめぐる物質循環」, 12月, 福岡市.
- 53) 郭新宇・宮澤泰正・山形俊男：東シナ海における黒潮水の進入とその季節変動, ワークショップ「東アジア海洋・大気環境激変の監視と予測」, 12月, 東京都.
- 54) 高橋大介・郭新宇・森本昭彦：台湾北東部における表層流の収束・発散と湧昇の関係, 海洋レーダー研究集会, 12月, 福岡市.

生態環境計測分野

- 1) Anan, Y., Ikemoto, T. and Tanabe, S. : Accumulation and risk assessment of trace elements in killer whale (*Orcinus orca*) from Japanese coastal waters. International Symposium on Western North Pacific Killer Whales : Evaluation on their Status, and Perspectives for Conservation, Tokyo, Japan, Feb., Abstracts, 30.
- 2) Kajiwara, N., Kunisue, T., Kamikawa, S., Ochi, Y., Yano, S. and Tanabe, S. : Organohalogen and organotin compounds in killer whales mass-stranded in the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan. International Symposium on Western North Pacific Killer Whales : Evaluation on their Status, and Perspectives for Conservation, Tokyo, Japan, Feb., Abstracts, 31.
- 3) 田辺信介：有害物質による地球規模の環境汚染と生態系への蓄積及び毒性影響に関する研究, 日本マリンエンジニアリング学会・船底防汚塗料研究委員会第9回研究会, 東京, 2月, 講演要旨集, 1-11.
- 4) 井元麻衣・岩田久人・仲山 慶・金 恩英・渡辺倫夫・国末達也・新美聡子・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介：オリゴアレインを用いたミンククジラ肝臓中遺伝子発現プロファイルの解析ー環境汚染物質による潜在的リスクの評価ー, 2005年度勇魚（海棲哺乳類の会）シンポジウム, 大阪, 3月, 資料集8.
- 5) 武岡英隆・井内美郎・大森浩二・郭 新宇・梶原夏子・加三千宣・宮坂 仁・加藤元海・渡邊政広・三宅洋・堤 純・野崎賢也・井上幹生・奥田 昇：陸域における人間活動の変遷が沿岸海洋環境に及ぼしてきた影響に関する研究, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 1-2.
- 6) 大森浩二・高橋 真・梶原夏子・宮坂 仁・加三千宣・加藤元海・阿草哲郎・井上 英・福森香代子・Ramu, K.・中野伸一・池本徳孝・土居秀幸・奥田 昇・小濱 剛：安定同位体分析を用いた生態系解析の環境科学への応用に関する研究, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 3-4.
- 7) 梶原夏子・高橋 真・国末達也・磯部友彦・Minh, N. H.・宮坂 仁・Sudaryanto, A.・Ramu, K.・Subramanian, An.・田辺信介：生物環境試料バンクを活用した有害物質の環境モニタリング, 平成17年度沿岸環境科学研究

4. 研究成果

- センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 5-6.
- 8) 郭 新宇・高橋 真・高橋大介・武岡英隆: 東シナ海における残留性有機汚染物質 (POPs) の輸送過程に関する研究, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 9-10.
 - 9) 国末達也・山田 格・田辺信介: 海棲哺乳類の脳に残留する水酸化 PCBs と分析法の開発, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 11-12.
 - 10) Ramu, K., Kajiwara, N., Sudaryanto, A., Isobe, T., Takahash, S., Subramanian, An., Lam, P. K. S., Prudente, M., Tana, T. S., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Asian mussel watch program: sources and distribution of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and organochlorines contamination in coastal waters of Asian countries. 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 13-14.
 - 11) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Kunisue, T., Tanabe, S. and Adibroto, T. A.: Human exposure to PBDEs: a case study in Indonesia and other Asian countries. 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 15-16.
 - 12) 山内正信・金 恩英・岩田久人・島 康洋・田辺信介: TCDD 暴露したマダイ (*Pagrus major*) 初期発生における各 AHR 異性体の発現と毒性影響の関係, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 27-28.
 - 13) 酒井大樹・岩田久人・金 恩英・宮崎信之・Petrov E. A.・田辺信介: バイカルアザラシにおける Constitutive Androstane Receptor (CAR) 転写活性化能の解析-*in vitro* レポーター遺伝子アッセイを用いた非ダイオキシン様環境汚染物質のリスク評価-, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 29-30.
 - 14) 石橋弘志・金 恩英・岩田久人・田辺信介: バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) PPAR-CYPs シグナル伝達経路を介した有機フッ素化合物による毒性影響メカニズムの解明, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 31-32.
 - 15) 新美聡子・渡辺倫夫・国末達也・金 恩英・岩田久人・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介: ミンククジラの肝チトクローム P450 1-4各分子種の mRNA 発現プロファイルと酵母を用いた *in vitro* タンパク発現, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 33-34.
 - 16) 久保田 彰・岩田久人・Goldstone, H. M. H.・金 恩英・Stegeman, J. J.・田辺信介: カワウにおけるチトクローム P450 1A -分子の特徴とダイオキシン類の蓄積に関連した毒性学的解析-, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 35-36.
 - 17) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・池本徳孝・池田翔太郎・岩田久人・田辺信介: ウミガメ類の微量元素蓄積機構および比較生物学的解析, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 37-38.
 - 18) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K.・Chamnan, C.・Trang, P. T. K.・Minh, T. B.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・Tana, T. S.・田辺信介: アジア途上国における鉛汚染-ヒトへの曝露と毒性影響、汚染源の推定-, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 39-40.
 - 19) Nam, D. H.・金 恩英・岩田久人・田辺信介: Molecular characterization of two metallothionein isoforms in avian species: evolutionary history, tissue distribution profile, and expression associated with metal accumulation. 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 41-42.
 - 20) 安井知子・金 恩英・岩田久人・Franks, D. G.・Karchner, S. I.・Hahn, M. E.・田辺信介: 水棲鳥類 AhR アイソフォームの機能的解析, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 51-52.
 - 21) 磯部友彦・Minh, N. H.・Ramu, K.・高柳 望・越智陽子・国末達也・上野大介・梶原夏子・高橋 真・田辺信

- 介：ヘキサブロモシクロドデカン (HBCDs) による生態系汚染実態の解明，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，53-54.
- 22) Minh, N. H., Tomohiko, I., Kajiwara, N., Kunisue, T., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Spatial distribution and temporal trend of polybrominated diethyl ethers (PBDEs) and hexabromocyclododecane (HBCD) in sediments collected from Tokyo Bay, Japan. 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，59-60.
- 23) 井上 英・阿草哲郎・國頭 恭・Minh, T. B.・Tu, N. P. C.・Tuyen, B. C.・Chamnan, C.・Tana, T. S.・Reungsang, A.・Srisuk, K.・中村 哲・滝沢 智・岩田久人・田辺信介：メコン河下流域のラオス，タイおよびベトナムメコンデルタ東部における地下水のヒ素汚染，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，61-62.
- 24) 高橋大介・郭新宇・高橋 真・武岡英隆：残留性有機汚染物質 (POPs) の鉛直輸送過程に関する研究，平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，65-66.
- 25) 山口園子・伊藤亜紀・阿草哲郎・岩田久人・田辺信介・Viet, P. H., Tuyen, B. C., 三浦智恵美・三浦 猛：環境汚染物質としての微量元素が魚類の精子形成に及ぼす影響，平成18年度日本水産学会，高知，3～4月，講演要旨集，276.
- 26) Tanabe, S.: Contamination of persistent toxic substances (PTS) in Asia-Pacific region. Seminar in State Key Laboratory of Organic Geochemistry, Guangzhou Institute of Geochemistry, Guangzhou, China, April. (招待講演)
- 27) Subramanian, An. and Tanabe, S.: Pollution by persistent toxic substances (PTS) in India. Seminar in State Key Laboratory of Organic Geochemistry, Guangzhou Institute of Geochemistry, Guangzhou, China, April.
- 28) 田辺信介：特別講演：有害物質による地球規模の環境汚染と生物影響，2006年度日本海水学会第57回年会，高松，5月，講演要旨集，28-29. (基調講演)
- 29) 国末達也・戸根木智幸・梶原夏子・田辺信介・天野雅男・Kuiken, T.・Osterhaus, A. D. M. E.: 北海のゼニガタアザラシにおけるダイオキシン類の蓄積特性，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，22-23.
- 30) 上田浩三・中野憲一・岩本智史・山本常平・梅村省三：間接加熱法によるダイオキシン類汚染土壌の処理技術，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，40-41.
- 31) 能勢和聡・橋本俊次・高橋 真・野間幸生・酒井伸一：水熱反応によるデカブロモジフェニールエーテル (BDE-209) の分解挙動，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，46-47.
- 32) 国末達也・大嶽昌子・Subramanian, An.・田辺信介：ダイオキシン類等残留性有機汚染物質によるインド在住者の母乳汚染，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，78-79.
- 33) 矢野真一・高橋 真・鈴木 剛・滝上英孝・能勢和聡・酒井伸一・田辺信介：ハウスダストおよびオフィスダストからの有機スズ化合物の検出とヒトへの曝露評価，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，88-89.
- 34) 磯部友彦・Ramu, K.・梶原夏子・高橋 真・田辺信介・We, S. U.・Min, G. T.: 韓国産イガいの臭素系難燃剤汚染，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，156-157.
- 35) 越智陽子・梶原夏子・磯部友彦・高橋 真・田辺信介・天野雅男・Kuiken, T.・Osterhaus, A. D. M. E.: 北海で大量死したゼニガタアザラシにおけるポリ臭素化ジフェニールエーテル類 (PBDEs) の汚染実態とその蓄積特性，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，160-161.
- 36) 梶原夏子・磯部友彦・Ramu, K.・田辺信介：アジア太平洋海域の海棲哺乳類における臭素系難燃剤 HBCD 蓄積の経年変動，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，162-163.
- 37) 高柳 望・国末達也・磯部友彦・梶原夏子・高橋 真・田辺信介：愛媛県のタヌキにおける有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，164-165.
- 38) 上野大介・田辺信介・Darling, C.・Pacepavicius, G.・Alaee, M.・Brown, S.・Campbell, L.・Letcher, R.・Bergman, A.・Marsh, G.・Muir, D.: カナダ湖水及び降下物中 PBDEs 水酸化代謝物 (OH-PBDEs) の検出とその発生源推定，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，166-167.
- 39) 磯部友彦・Minh, N. H.・梶原夏子・高橋 真・田辺信介・上野大介・松本敬三：東京湾柱状堆積物を用いた臭素系難燃剤汚染の歴史復元とその発生源推定，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，168-169.
- 40) 鈴木 剛・滝上英孝・能勢和聡・高橋 真・酒井伸一：ハウスダスト及びオフィスダスト中のダイオキシン

4. 研究成果

- 類縁化合物の同定, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 170-171.
- 41) 中田晴彦・佐々木宏・竹村 暘・田辺信介・梶原夏子・吉岡 基・Kannan, K.: 合成香料による海洋汚染の特徴—生物濃縮・経年変動・濃度分布について—, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 192-193.
 - 42) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恭・Ramu, K.・Charaborty, P.・Chamnan, C.・Trang, P. T. K.・Minh, T. B.・岩田久人・Subramanian, An.・Viet, P. H.・Tana, T. S.・田辺信介: ベトナム、カンボジア、インドにおける地下水および地域住民のヒ素汚染, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 224-225.
 - 43) 明石百恵・阿南弥寿美・宮坂 仁・松本純子・楠 憲一・池本徳孝・大森浩二・高橋 真・田辺信介: 愛媛県沿岸で採取したサメ類の微量元素蓄積特性, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 230-231.
 - 44) 国末達也・渡辺倫夫・岩田久人・田辺信介・能勢真人・小森浩章・有田典正・植田規史: ヒト組織のダイオキシン類蓄積レベルと肝チトクローム P450発現量との関連性—肝集積に関与する CYP1A2の役割—, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 248-249.
 - 45) 高橋 真・国末達也・梶原夏子・Subramanian, An.・宮崎 徹・Tana, T. S.・Viet, P. H.・酒井伸一・田辺信介: インド・カンボジア・ベトナムのゴミ集積場土壌から検出されたダイオキシン類縁化合物, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 318-319.
 - 46) 高橋 真・阿南弥寿美・池本徳孝・安村茂樹・田辺信介: 人為起源汚染物質および微量元素による南西諸島海洋生態系の汚染, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 396-397.
 - 47) 野間幸生・山本貴士・高橋 真・酒井伸一: 自動車破碎残渣 (ASR) の熱処理過程における POPs の挙動, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 426-427.
 - 48) 能勢和聡・鈴木 剛・滝上英孝・高橋 真・酒井伸一: 国内で採取したハウス・オフィスダスト試料中の PBDEs および PBDD/DFs の濃度及び組成について, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 448-449.
 - 49) 井上 英・阿草哲郎・久保田領志・國頭 恭・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Viet, P. H.・Tu, N. P. C.・Tuyen, B. C.・Reungsang, A.・Srisuk, K.・中村 哲・滝沢 智・Chamnan, C.・Tana, T. S.・岩田久人・田辺信介: ベトナム、カンボジア、タイおよびラオスのメコン河流域における地下水のヒ素汚染, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 656-657.
 - 50) Tu, N. P. C.・Ikemoto, T.・Tuyen, B. C.・Tanabe, S.・Takeuchi, I.: Concentrations and distribution of trace elements in commercial shrimps from South Vietnam. 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 660-661.
 - 51) 阿南弥寿美・池本徳孝・田辺信介: 日本沿岸に棲息するシャチの微量元素蓄積, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 694-695.
 - 52) 高菅卓三・渡邊清彦・嶽盛公昭・長山淳哉: POPs、PBDEs のヒト母子間移行に関する研究, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 432-433.
 - 53) 高菅卓三・山下道子・渡邊清彦・嶽盛公昭・中野武・福嶋実・柴田康行: POPs モニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 72-73.
 - 54) 羽村陽平・井上毅・宮本美博・高菅卓三: 電気絶縁油等の鉱油中の PCB 分析での迅速前処理方法, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 54-55.
 - 55) 服部雄次・橋本俊次・高菅卓三・伊藤裕康: 毛糸を用いた大気中汚染化学物質の簡易モニタリング法の検討, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 442-443.
 - 56) 松神秀徳・渡邊清彦・嶽盛公昭・大井悦雅・高菅卓三: ヘキサブロモシクロドデカン、ビストリブロモフェノキシエタン、デカブロモジフェニルエタン等の臭素系難燃剤の GC/MS による同時分析法の開発, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 172-173.
 - 57) 林篤宏・岩田直樹・松神秀徳・本田守・嶽盛公昭・高菅卓三: RoHS/WEEE 指令に係る臭素系難燃剤の分析上の課題と検討, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 166-167.
 - 58) 松神秀徳・大井悦雅・高菅卓三: オンカラム注入 GC/MS を用いたケルセンの高感度直接分析, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 588-589.
 - 59) 大井悦雅・中村明弘・松神秀徳・高菅卓三・剣持堅志: 塩素化パラフィン類の分析 (2), 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 472-473.
 - 60) 濱田典明・高菅卓三・塩崎卓哉・林篤宏・杉田和俊・後藤壽久・関友博・芳賀直樹: 水底土砂の溶出試験に関する共同研究, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 292-293.
 - 61) 岩木和夫・宮崎徹・田中毅一郎・高菅卓三・大塚健次・望月正: ダイオキシン類分析の試験所間比較試験, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 354-353.

- 62) 井上佳代子・原田浩二・竹中勝信・上原茂樹・河野誠・清水卓・高菅卓三・Kurunthachalam Senthilkumar・山下富義・小泉昭夫：日本人女性の母乳および血清中ポリ臭素化ジフェニルエーテル・ポリ塩素化ビフェニル濃度と定量的構造分配相関，第15回環境化学討論会，仙台市，6月，講演要旨集，440-441.
- 63) 高菅卓三：生体試料及び環境試料における超微量有機汚染物質の分析技術，日本分析化学会第55年会，大阪大学，9月
- 64) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Molecular characterization of two metallothionein isoforms in avian species: evolutionary history, tissue distribution profile and expression associated with metal accumulation. 20th IUBUM International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, Japan, June, Abstracts, 435.
- 65) Iwata, H., Hirai, Y., Baba, S., Kishizaki, R., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Chicken xenobiotic receptor (CXR) homologue splice variants in the liver of common cormorant: regulatory mechanisms of expression and functional properties. 20th IUBUM International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, Japan, June, Abstracts, 640.
- 66) Lee, J. S., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. (Aryl hydrocarbon receptor nuclear translocator 1 (ARNT1) and 2 (ARNT2) in avian species, common cormorant; molecular characterization, tissue distribution and potential function. 20th IUBUM International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, Japan, June, Abstracts, 643.
- 67) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K.・Charaborty, P.・Chamnan, C.・Trang, P. T. K.・Minh, T. B.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介：インド、ベトナム、カンボジアの鉛汚染とヒトへの健康影響，第17回日本微量元素学会，静岡市，7月，プログラム・アブストラクト集，169.
- 68) 田辺信介：特別講演：ダイオキシン等有害物質による地球規模の環境汚染，第28回日本中毒学会総会・学術集会，松山市，7月，プログラム抄録集，23。（招待講演）
- 69) 真柄真美・島田章則・田島木綿子・山田 格・田辺信介：集団座礁したスジイルカ (*Stenella coeruleoalba*) の病理学的所見，日本セトロロジー研究会第17回大会，東京，7月，発表要旨集，18.
- 70) 松平知帆・高橋 真・大池辰也・長谷川修平・吉岡 基・田辺信介：伊勢・三河湾系スナメリにおける有機スズ化合物の蓄積特性，日本セトロロジー研究会第17回大会，東京，7月，発表要旨集，22.
- 71) Tanabe, S.: Persistent organic pollutants (POPs) in the Asia-Pacific region. 11th International Congress of Pesticide Chemistry (IUPAC), Kobe, Aug., Book of Abstracts (1), 95. (招待講演)
- 72) Subramanian, An., Minh, T. B. and Tanabe, S.: Contamination by persistent toxic substances in the Asia-Pacific region. AAP Special Master's Program Joint Course 2006 (Subject: Advanced Life Science and Agriculture III, IV), Matsuyama, Aug., Text Book, 29-63. (招待講演)
- 73) Suzuki, G., Takigami, H., Nose, K., Takahashi, S. and Sakai, S.: Dioxin-like compounds in house and office dusts: estimation of average daily dose and toxicity identification evaluation. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 177-180.
- 74) Nagayama, J., Kohno, H., Kunisue, T., Shimomura, H. and Tanabe, S.: Effects of prenatal exposure to dioxins, PCBs and organochlorine pesticides on induction of congenital hypothyroidism with special reference to lipid contents. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 277-280.
- 75) Kajiwara, N., Isobe, T., Ramu, K. and Tanabe, S.: Temporal trend studies on hexabromocyclododecane (HBCD) in marine mammals from Asia-Pacific. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 515-518.
- 76) Kunisue, T., Fujita, K., Sakiyama, T., Yamada, T. and Tanabe, S.: Hydroxylated polychlorinated biphenyls in the brain of marine mammals stranded along the Japanese coast. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 583-586.
- 77) Minh, T. B., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Persistent organic pollutants in Vietnam (I): A concise review of contamination levels and patterns. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 720-723.

4. 研究成果

- 78) Takasuga, T., Matsukami, H., Watanabe, K., Takemori, H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Comprehensive analytical approach for organo-bromine compounds in environmental samples with GC- (NCI/EI) -LR/HRMS. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1178-1181.
- 79) Takasuga, T., Otsuka, K., Mochizuki, T., Iwaki, K., Tanaka, K. and Miyazaki, T.: Evaluation of interlaboratory study for PCDDs, PCDFs and Dioxinlike PCBs in environmental sample in Japan. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1402-1405.
- 80) Takasuga, T., Senthilkumar, K., Watanabe, K., Takemori, H., Shimomura, H. and Nagayama, J.: Accumulation profiles of organochlorine pesticides and PBDEs in mother' s -blood, -breast milk, -placenta and -umbilical cord : Possible transfer to infants. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 2186-2189.
- 81) Kunisue, T., Ohtake, M., Someya, M., Subramanian, An., Chakraborty, P. and Tanabe, S.: Persistent organic pollutants in human breast milk collected around the open dumping site in Kolkata, India. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1619-1622.
- 82) Tanabe, S., Minh, T. B. and Takahashi, S.: Persistent organic pollutants in Vietnam (II): A concise review of contamination levels and patterns. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1662-1665.
- 83) Takahashi, S., Sakai, S., Osada, M. and Miyazaki, T.: Organotin compounds in automobile shredder residue (ASR) and their behavior in high-temperature melting process. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1236-1238.
- 84) Sakai, S., Takahashi, S., Osada, M. and Miyazaki, T.: Dioxin related compounds, brominated flame retardants and heavy metals in automobile shredder residue (ASR) and their behavior in high-temperature melting process. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1824-1827.
- 85) Suzuki, G., Nose, K., Takigami, H., Takahashi, S. and Sakai, S.: PBDEs and PBDD/Fs in house and office dust from Japan. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1843-1846.
- 86) Takahashi, S., Kunisue, T., Isobe, T., Noda, S., Subramanian, An., Kajiwara, N., Tana, T. S., Viet, P. H., Miyazaki, T., Sakai, S. and Tanabe, S.: Polybrominated diphenyl ethers and dioxin-related compounds detected in soil samples from waste dumping sites in Asian developing countries. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1847-1850.
- 87) Nose, K., Hashimoto, S., Takahashi, S., Noma, Y. and sakai, S.: Decabromodiphenyl ether decomposition in sub-critical water oxidation-evaluation of PBDD/DFs formation. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 2003-2006.
- 88) Takasuga, T., Matsukami, H., Watanabe, K., Takemori, H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Comprehensive analytical approach for organobromine compounds in environmental samples with GC- (NCI/EI) -LR/HRMS. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1178-1181.
- 89) Takasuga, T., Otsuka, K., Mochizuki, T., Iwaki, K., Tanaka, K. and Miyazaki, T.: Evaluation of interlaboratory study for PCDDs, PCDFs and Dioxinlike PCBs in environmental sample in Japan. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 "Organohalogen Compounds", 68, 1402-1405.
- 90) Takasuga, T., Senthilkumar, K., Watanabe, K., Takemori, H., Shimomura, H. and Nagayama, J.: Accumulation profiles of organochlorine pesticides and PBDEs in mother' s -blood, -breast milk, -placenta and -umbilical cord :

- Possible transfer to infants. 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Dioxin 2006), Oslo, Norway, Aug., Proceedings of Dioxin 2006 “Organohalogen Compounds”, 68, 2186-2189.
- 91) Takasuga, T. : Ultratrace Analytical Techniques for POPs and Organohalogen Compounds by GC-HRMS (EI/NCI) Sampling, Cleanup, Analysis and contamination profiles in environmental sample, 2006 China Japan Korea Symposium on environmental analytical chemistry, September 14-18, Changqing, China, Abstracts, 76-79.
- 92) 高菅卓三 : 生体試料及び環境試料における超微量有機汚染物質の分析技術, 日本分析化学会年会 9月20日, 大阪大学
- 93) 松神秀徳・嶽盛公昭・大井悦雅・高菅卓三 : GC/MS (EI 及び NCI) 法を用いた有機臭素化合物の分析化学的調査方法, 水環境学会シンポジウム, 講演要旨集, 56-57.
- 94) Takasuga, T., Otsuka, K., Mochizuki, T., Iwaki, K., Tanaka, K. and Miyazaki, T.: Evaluation of interlaboratory study for PCDDs, PCDFs and Dioxinlike PCBs in environmental sample in Japan. 4th i-CIPEC, September 26-29, 2006, Kyoto, Japan, Abstracts, 443-447.
- 95) Takasuga, T., Yamashita, M., Watanabe, K., Takemori, H., Nakano, T., Fukushima, M. and Shibata, Y. : Investigation of ultra high sensitive analytical methodology of POPs for environmental air and flue gas sample. 4th International Conference on Combustion, Incineration/Pyrolysis and Emission Control (4th i-CIPEC), September 26-29, 2006, Kyoto, Japan, Abstract 447-450.
- 96) 安木進也・池本徳孝・阿草哲郎・飯田麻美・金 恩英・岩田久人・田辺信介・阿南弥寿美・Kuiken, T.・Osterhaus, A. D. M. E. : 大量死したゼニガタアザラシにおける微量元素蓄積の特徴 : ビスマスの高濃度蓄積と他の微量元素との関係, 第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 7-8.
- 97) 豊島沙織・高橋 真・阿草哲郎・宮坂 仁・大森浩二・田辺信介・西田周平 : 安定同位対比を用いた相模湾深海生態系の解析と微量元素の蓄積特性, 第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 9-10.
- 98) 村田仁子・高橋 真・Kannan, K.・田辺信介 : アメリカ西海岸で死亡したラッコにおける有機スズ化合物の汚染実態と蓄積特性, 第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 11-12.
- 99) 仲山 慶・岩田久人・Tao, L.・Kannan, K.・井元麻衣・金 恩英・田代康介・田辺信介 : ダイオキシン類およびフッ素置換化合物の応答遺伝子から予想される野生カワウの複合毒性影響, 第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 19-20.
- 100) Isobe, T., Minh, N. H., Ueno, D., Matsumoto, K., Shin Takahashi and Tanabe, S. : Vertical profiles of polybrominated flame retardants, polybrominated biphenyl ethers and hexabromocyclohexanes in the sediment core from Tokyo Bay. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 129.
- 101) Sudaryanto, A., Kajiwar, N., Takahashi, S., Hartono, P., Muawanah, Ir., Omori, K. and Tanabe, S.: PBDEs and organochlorines in farmed and wild grouper (*Epinephelus fuscoguttatus*) from the Lumpung mariculture area, Indonesia. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 244.
- 102) Niimi, S., Iwata, H., Imoto, M., Watanabe, M. X., Kunisue, T., Kim, E. Y., Nakayama, K., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Gene expression profile associated with organochlorine contaminants in the liver of common minke whales. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 257.
- 103) Watanabe, M. X., Kunisue, T., Iwata, H., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Effects of dioxins and related compounds on hepatic cytochrome P450 and thyroid hormone in pigs from Indian open dumping site. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 258.
- 104) Subramanian, An., Kunisue, T., Ohtake, M., Someya, M., Charaborty, P. and Tanabe, S. : Organochlorines in human breast milk in Chennai and Kolkata, India mothers. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 270.
- 105) Sudaryanto, A., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Brominated flame retardants in the environment of Indonesia. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept.,

4. 研究成果

- Abstracts of Papers, 275.
- 106) Ramu, K., Kajiwara, N., Isobe, T., Takahashi, S., Kim, E. Y., Min, B. Y., We, S. U. and Tanabe, S. : Levels and distribution of organohalogen compounds in blue mussels (*Mytilus edulis*) from coastal waters of Korea. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 277.
- 107) Takahashi, S., Isobe, T., Sudaryanto, A., Ramu, K., Kunisue, T., Minh, N. H., Minh, T. B., Subramanian, An., Kajiwara, N., Ueno, D., Sakai, S. and Tanabe, S. : Contamination status of PBDEs in the Asia-Pacific region : a review of recent studies on marine mammals, fish/shellfish, human breast milk and terrestrial environments including waste dumping sites. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 278.
- 108) Tanabe, S. : Global contamination by bioaccumulative toxic substances. Joint International Symposium of the 12th Annual Meeting of the Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine and the 21st Century COE Program of Gifu University - Evaluation of Environmental Condition Based on Ecology and Pathology of wild Animals -, Gifu, Sept., Proceedings, 44. (招待講演)
- 109) Subramanian, An., Kunisue, T., Ohtake, M., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Recent trends in PTS pollution in the Indian environment and biota. Joint International Symposium of the 12th Annual Meeting of the Japanese Society of Zoo and Wildlife Medicine and the 21st Century COE Program of Gifu University - Evaluation of Environmental Condition Based on Ecology and Pathology of wild Animals -, Gifu, Sept., Proceedings, 45. (招待講演)
- 110) Trang, P. T. K., Lan, V. T. M., Kubota, R., Agusa, T., Hue, N. T. M., Hao, T. T., Bhat, B. H., Dau, P. T., Phu, D. M., Gerg, M., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Arsenic pollution in groundwater in Red River Delta, Vietnam: situation and human exposure. The 6th General Seminar of the Core University Program "Environmental Science Technology for Sustainability of Asia" Organized by Osaka University and Vietnam National University, Hanoi, Kumamoto, Oct., Proceedings, 66-71.
- 111) Agusa, T., Inoue, S., Kunito, T., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Ha, N. N., Trang, P. T. K., Subramanian, An., Iwata, H., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S. : Overview of arsenic contamination in groundwater and human health risk in Vietnam. The 6th General Seminar of the Core University Program "Environmental Science Technology for Sustainability of Asia" Organized by Osaka University and Vietnam National University, Hanoi, Kumamoto, Oct., Proceedings, 82-85.
- 112) Minh, T. B., Minh, N. H., Agusa, T., Iwata, H., Takahashi, S., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S. : Pollution by persistent toxic substances in Vietnam : a review of two decade monitoring studies. The 6th General Seminar of the Core University Program "Environmental Science Technology for Sustainability of Asia" Organized by Osaka University and Vietnam National University, Hanoi, Kumamoto, Oct., Proceedings, 86-95.
- 113) Iwata, H., Agusa, T., Inoue, S., Minh, N. H., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S., Nakamura, T. and Tanabe, S. : Contamination by trace elements and organohalogen compounds in the Mekong River Basin. International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong, Chiang Rai, Thailand, Oct., Program and Abstract, 35.
- 114) Yamaguchi, S., Miura, C., Ito, A., Agusa, T., Iwata, H., Tanabe, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Tana, T. S. and Miura, T. : Influence of water pollution on reproduction of freshwater fish in Indochina. International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong, Chiang Rai, Thailand, Oct., Program and Abstract, 37.
- 115) 田辺信介 : 有害物質によるアジアの環境汚染, 東京家政大学創立125周年記念レクチャーフォーラム, 東京, 10月, 緑苑祭パンフレット, 18. (招待講演)
- 116) Tanabe, S. : Keynote Presentation : Contamination of legacy and new POPs in the Asia Pacific region. UNU (United Nations University) International Symposium on Persistent Organic Pollutants (POPs) in Asia : Its Status and Future. Quezon City, Philippines, Nov., Program and Symposium Papers, 1-15. (基調講演)
- 117) Minh, T. B., Takahashi, S., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Monitoring of persistent organic pollutants (POPs) in Asia-Pacific using marine mammals and birds as bioindicators : specific accumulation, spatial and temporal trends, and toxic implication. The 2006 POME Workshop, Ha Long City, Vietnam, Nov., Abstracts, POME-O-2.
- 118) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Transcriptional activity of cormorant (*Phalacrocorax carbo*)

- metallothionein 1 and 2 promoter/enhancer regions by heavy metals. 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 75.
- 119) 久保田彰・岩田久人・金 恩英・田辺信介: In vitro 発現した鳥類チトクローム P4501A4および1A5の機能特性, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 76.
- 120) 石橋弘志・岩田久人・金 恩英・Tao, L.・Kannan, K.・田辺信介・宮崎信之・Batoev, V. B.・Petrov, E. A.: バイカルアザラシにおける有機フッ素化合物の蓄積と PPAR-CYP4A シグナル伝達系への影響, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 77.
- 121) Lee, J. S.・Kim, E. Y.・Iwata, H.・Tanabe, S.: Molecular characterization and transcriptional activity of a dioxin-inducible CYP1A5 promoter/enhancer region from common cormorant (*Phalacrocorax carbo*). 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 78.
- 122) 小川真佐子・松田知成・松井三郎・岩田久人・金 恩英・田辺信介: バイカルアザラシにおける DNA 損傷と環境汚染化学物質の関連性, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 152.
- 123) 須田智子・金 恩英・岩田久人・田辺信介・Batoev, V. B.・Petrov, E. A.: バイカルアザラシにおける AHR 転写活性化能の解析: ダイオキシン類に対する感受性評価の試み, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 154.
- 124) 岸崎理紗・岩田久人・金 恩英・田辺信介: 鳥類 CXR のリガンド転写活性化能の種差, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 155.
- 125) 松神秀徳・大井悦雅・高菅卓三: ケルセンの GC/HRMS を用いた分析, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 11.
- 126) Kajiwara, N., Ueno, D., Ramu, K., Isobe, T., Baba, N., Yamada, T. K. and Tanabe, S.: Brominated flame retardants (BFRs) in marine mammals: results from the environmental specimen bank for global monitoring (es-BANK) at Ehime University. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 21.
- 127) Matsukami, H., Watanabe, K., Takemori, H., Takahashi, S., Takasuga, T. and Tanabe, S.: Comprehensive analysis for organo-bromine compounds in environmental samples with GC/MS (EI/NCI). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 22.
- 128) Kunisue, T., Yamada, T. K., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Occurrence of hydroxylated polychlorinated biphenyls in the brain of three cetacean species stranded along the Japanese coast. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 23.
- 129) Sousa, A., Takahashi, S., Subramanian, An., Tanabe, S. and Barroso, C.: Temporal and spatial trends of organotin pollution in Ria de Aveiro (NW Portugal). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 24.
- 130) Sudaryanto, A., Ramu, K., Isobe, T., Takahashi, S., Setiawan, I. E. and Tanabe, S.: Levels, distribution and temporal trend of brominated flame retardants in the environment of Indonesia. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 28.
- 131) Ramu, K., Kajiwara, N., Isobe, T., Takahashi, S., Kim, E. Y., Min, B., Y., We, S. and Tanabe, S.: Contamination status and spatial distribution of organohalogen compounds in coastal waters of Korea. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 29.
- 132) Ueno, D., Subramanian, An., Alaei, M., Marvin, C., Muir, D. C. G., Macinnis, G., Reiner, E., Crozier, P., Furdui, V. I., Fillmann, G., Lam, P. K. S., Zheng, G. J., Muchtar, M., Razak, H., Prudente, M., Chung, K. and Tanabe, S.: Global pollution monitoring of persistent toxic substances (PTS) using skipjack tuna as a bioindicator. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 30.
- 133) Isobe, T., Minh, N. H., Ueno, D., Matsumoto, K., Kajiwara, N., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Horizontal distribution and temporal trend of polybrominated diphenyl ethers and hexabromocyclododecanes in Tokyo Bay. COE

4. 研究成果

- International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 31.
- 134) Anan, Y., Ikeda, S., Nomura, K., Ikemoto, T., Kunito, T. and Tanabe, S. : Accumulation and subcellular distribution of trace elements in cephalopods. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 34.
- 135) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Isoform-specific response of metallothioneins (MT1 and MT2) associated with metal accumulation in cormorant (*Phalacrocorax carbo*) and mallard (*Anas platyrhynchos*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 35.
- 136) Ikemoto, T., Takahashi, S., Anan, Y., Malarvannan, G., Yano, S., Ochi, Y., Matsudaira, C., Murata, S., Tamura, H., Miyagi, T., Nakamura, M., Yasumura, S. and Tanabe, S. : Pollution by anthropogenic contaminants and trace elements in the ecosystem of the Nansei Islands, Japan. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 36.
- 137) Agusa, T., Inoue, S., Kunito, T., Ramu, K., Charaborty, P., Chamnan, C., Trang, P. T. K., Minh, T. B., Iwata, H., Subramanian, An., Viet, P. H., Tana, T. S. and Tanabe, S. : Arsenic contamination in groundwater and residents from Vietnam, Cambodia and India. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 37.
- 138) Lam, J. C. W., Tanabe, S. and Lam, P. K. S. : Persistent organic pollutants in South China coastal region with special reference to contaminant levels in waterbird eggs. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 39.
- 139) Suzuki, G., Takigami, H., Nose, K., Takahashi, S., Asari, M. and Sakai, S. : Evaluation of thyroid-disrupting potency in indoor dusts using *in vitro* bioassays. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 43.
- 140) Minh, T. B., Minh, N. H., Takahashi, S., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S. : Persistent organic pollutants in Vietnam : implications of human exposure. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 44.
- 141) Niimi, S., Kim, E. Y., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Heterologous expression and functional characterization of cytochrome P450 1A1 from common minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 49.
- 142) Watanabe, M. X., Kunisue, T., Iwata, H., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Induction of cytochrome P450 1A by dioxins and related compounds, and congener-specific hepatic sequestration in the liver of pig (*Sus scrofa*) from an Indian open waste dumping site. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 50.
- 143) Kim, E. Y., Yamauchi, M., Iwata, H., Teraoka, H., Hiraga, T. and Tanabe, S. : Differential expression of two aryl hydrocarbon receptor (AHR) isoforms by 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin in red seabream (*Pagrus major*) embryo and association with morphological deformities. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 51.
- 144) Nakayama, K., Iwata, H., Tao, L., Kannan, K., Imoto, M., Kim, E. Y., Tashiro, K. and Tanabe, S. : Assessment of mixture toxicities of perfluorinated compounds and dioxins by gene expression profiling in wild cormorants. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 52.
- 145) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Miyazaki, N., Petrov, E. A. and Tanabe, S. : Constitutive androstane/active receptor in Baikal seal : the transactivation potential of environmental pollutants as a sensing biomarker. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 54.
- 146) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Franks, D. G., Karchner, S. I., Hahn, M. E. and Tanabe, S. : Novel aryl hydrocarbon receptor isoform, AhR2, in avian species : functional characterization and evolutionary history. COE

- International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 55.
- 147) Lee, J. S., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : In vitro TCDD-transactivation analysis of CYP1A5 promoter/enhancer region from common cormorant (*Phalacrocorax carbo*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 56.
- 148) Kubota, A., Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S. : Functional characterization of avian cytochrome P450 1A4 and 1A5 enzymes using *in vitro* yeast expression system. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 57.
- 149) Takahashi, D., Guo, X., Takahashi, S., Ishizaka, J. and Takeoka, H. : A numerical study on vertical transport of polychlorinated biphenyls (PCBs) in East China Sea. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 78.
- 150) Imaeda, D., Kunisue, T., Iwata, H., Tsydenova, O. V., Takahashi, S., Amano, M., Petrov, E. A., Batoev, V. B. and Tanabe, S. : Accumulation features and temporal trend of dioxins and related compounds in Baikal seal (*Pusa sibirica*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 93.
- 151) Watanabe, M., Kunisue, T., Iwata, H. and Tanabe, S. : Contamination and bioaccumulation potencies of PCDDs, PCDFs and PCBs in marine mammals and birds from the northern Far East. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 94.
- 152) Someya, M., Ohtake, M., Kunisue, T., Subramanian, An., Chakraborty, P. and Tanabe, S. : Persistent organochlorines in human breast milk from the open dumping site in Kolkata, India : specific residue of PCBs and dioxin-like compounds. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 96.
- 153) Ochi, Y., Kajiwara, N., Isobe, T., Takahashi, S., Amano, M., Kuiken, T., Osterhaus, A. D. M. E. and Tanabe, S. : Contamination status and specific accumulation of brominated flame retardants (BFRs) in harbor seal collected during an unusual mortality event in the North Sea in 2002. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 97.
- 154) Yoneda, K., Abe, T., Hashimoto, T., Furuhashi, Y., Tanabe, S. and Yamada, T. : Effects of age factors in accumulations of organochlorine compounds in finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) from the coastal waters of Japan. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 98.
- 155) Takayanagi, N., Kunisue, T., Isobe, T., Takahashi, S., Okumoto, K., Bushisue, S., Shindo, K., Tsubota, T., Nakatsu, S. and Tanabe, S. : Contamination status and accumulation features of organohalogen compounds in raccoon dogs (*Nyctereutes procyonoides*) from Japan. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 99.
- 156) Isobe, T., Ochi, Y., Ramu, K., Yamamoto, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Organochlorines and brominated flame retardants in striped dolphins (*Stenella coeruleoalba*) stranded in the Gogo-shima Island, Ehime, Japan. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 101.
- 157) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Muawanah, P. H., Omori, K., Santoso, A. D., Setiawan, I. E., Takeoka, H. and Tanabe, S. : Assessment of the levels and human risk of organohalogen contaminants in farmed grouper from Indonesia. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 102.
- 158) Sudaryanto, A., Isobe, T., Agusa, T., Takahashi, S., Iwata, H., Nakamura, S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S. and Tanabe, S. : Environmental occurrence of organochlorines and brominated flame retardants in sediments from middle Mekong basin. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 103.

4. 研究成果

- 159) Sudaryanto, A., Tsydenova, O. V., Kajiwara, N., Kunisue, T., Yu, H. and Tanabe, S. : Levels and congener specific profiles of PBDE in human milk from mothers living in Nanjing and Zhouzan, China. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 104.
- 160) Malarvannan, G., Sudaryanto, A., Kunisue, T., Isobe, T., Takahashi, S., Prudente, M. and Tanabe, S. : Specific accumulation of organohalogen compounds in human breast milk from the Philippines : levels, distribution, accumulation kinetics and infant health risk. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 105.
- 161) Tsydenova, O. V., Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Kunisue, T., Takahashi, S., Batoev, V. B. and Tanabe, S. : Human exposure to organohalogen contaminants in Russia : residues in breast milk and food items. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 107.
- 162) Matsudaira, C., Takahashi, S., Furukawa, A., Taki, Y. and Tanabe, S. : Contamination of organotin compounds in finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) stranded along coastal waters of Japan and Hong Kong. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 108.
- 163) Murata, S., Takahashi, S., Agusa, T., Kannan, K. and Tanabe, S. : Contamination status and accumulation profiles of organotins in southern sea otters (*Enhydra lutris nereis*) found dead along California coast. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 109.
- 164) Yano, S., Takahashi, S., Suzuki, G., Takigami, H., Nose, K., Sakai, S. and Tanabe, S. : Detection of organotin compounds in house and office dusts and evaluation of human exposure. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 110.
- 165) Nakata, H., Sasaki, H., Ishimoto, Y., Takemura, A., Yoshioka, M., Tanabe, S. and Kannan, K. : Emerging contaminants : synthetic musks in the marine environment. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 113.
- 166) Akaishi, M., Anan, Y., Miyasaka, H., Matsumoto, J., Kusunoki, K., Ikemoto, T., Omori, K., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Trace elements accumulation in sharks collected from Japanese coastal waters. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 115.
- 167) Yasugi, S., Ikemoto, T., Agusa, T., Iida, A., Anan, Y., Kim, E. Y., Iwata, H., Kuiken, T., Osterhaus, A. D. M. E. and Tanabe, S. : Accumulation of trace elements in harbor seal (*Phoca vitulina*) stranded during the mass mortality events in the North Sea, 2002. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 116.
- 168) Takagi, K., Agusa, T., Anan, Y., Kubota, R. and Tanabe, S. : Arsenic speciation in green turtles (*Chelonia mydas*) and hawksbill turtles (*Eretmochelys imbricata*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 117.
- 169) Ikemoto, T., Kim, E. Y., Kunito, T., Iwata, H. and Tanabe, S. : Preliminary study on Hg-Se binding protein in hepatic cytosol of marine animals. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 118.
- 170) Ninomiya, H., Uno, K., Izumi, Y., Aoki, H., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Distribution and sources of metals in atmospheric aerosol and fallout dust at Ehime, Japan. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 119.
- 171) Tu, N. P. C., Ha, N. N., Ikemoto, T., Tuyen, B. C., Tanabe, S. and Takeuchi, I. : Trace element accumulation in *Macrobrachium rosenbergii* (Decapoda : Palaemonidae) from south Vietnam. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 121.
- 172) Inoue, S., Agusa, T., Kubota, R., Kunito, T., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Tu, N. P. C.,

- Tuyen, B. C., Reungsang, A., Srisuk, K., Nakamura, S., Takizawa, S., Chamnan, C., Tana, T. S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Arsenic pollution in groundwater in the lower Mekong basin. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 122.
- 173) Toyoshima, S., Takahashi, S., Ikemoto, T., Agusa, T., Miyasaka, H., Omori, K., Nishida, S. and Tanabe, S.: Evaluation of accumulation properties of trace elements in a deep-sea ecosystem of Sagami Bay, Japan by using stable isotope ratios ($\delta^{15}\text{N}$ and $\delta^{13}\text{C}$). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 124.
- 174) Ueda, K., Hamano, S., Yamamoto, T., Umemura, S. and Tanabe, S.: Remediation of dioxin-contaminated soil by indirect heating process. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 125.
- 175) Watanabe, M. X., Iwata, H., Kim, E. Y., Jones, S. P. and Kennedy, S. W.: Effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin and perfluorinated compounds in chicken embryo hepatocytes. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 131.
- 176) Suda, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Tanabe, S., Batoev, V. B. and Petrov, E. A.: Transactivation analysis of aryl hydrocarbon receptor (AHR) in Baikal seal (*Pusa sibirica*): estimation of species-specific susceptibility to TCDD. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 132.
- 177) Kishizaki, R., Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Interspecies difference in ligand transactivation potencies of avian CXRs. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 133.
- 178) Hirakawa, S., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S., Miyazaki, N. and Petrov, E. A.: Analysis of CYP1A1/1A2 transcriptional regulatory regions, and their hepatic mRNA expressions related to 2,3,7,8-TCDD toxic equivalent levels in Baikal seals. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 134.
- 179) Ishibashi, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tao, L., Kannan, K., Tanabe, S., Miyazaki, N., Batoev, V. B. and Petrov, E. A.: Accumulation of perfluorinated compounds and effects on peroxisome proliferator-activated receptor α - cytochrome P450 4A signaling pathway in Baikal seal (*Pusa sibirica*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 135.
- 180) Udaka, M., Ikemoto, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Concentration of radionuclides (^{137}Cs and ^{40}K) in the Baikal seal (*Pusa sibirica*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 137.
- 181) 阿南弥寿美・池本徳孝・高橋 真・Malarvannan, G.・矢野真一・谷崎樹生・阿部 寧・石原 孝・鳥 達也・田辺信介: 石垣島および四国沿岸に生息するウミガメ類の有害化学物質蓄積調査. 第17回日本ウミガメ会議, 三重県熊野市, 11月, 要旨集, 26.
- 182) Iwata, H., Agusa, T., Inoue, S., Minh, N. H., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S., Namakura, S. and Tanabe, S.: Trace elements and organohalogen compounds in the aquatic environment of the Mekong river basin. 3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Bangkok, Thailand, Dec., Proceedings, 79-86.
- 183) Tu, N. P. C., Ha, N. N., Ikemoto, T., Tuyen, B. C., Tanabe, S. and Takeuchi, I., Heavy metal and selenium concentrations in hepatopancreas of *Penaeus monodon* (Decapoda: penaeidae) from south Vietnam. 3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Bangkok, Thailand, Dec., Proceedings, 121-124.

生態毒性解析分野

- 1) 井元麻衣・岩田久人・仲山 慶・金 恩英・渡辺倫夫・国末達也・新美聡子・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信

4. 研究成果

- 介：オリゴアレイを用いたミンククジラ肝臓中遺伝子発現プロファイルの解析—環境汚染物質による潜在的リスクの評価—, 2005年度勇魚（海棲哺乳類の会）シンポジウム, 大阪, 3月, 資料集8.
- 2) 大森浩二・高橋 真・梶原夏子・宮坂 仁・加三千宣・加藤元海・阿草哲郎・井上 英・福森香代子・Ramu, K.・中野伸一・池本徳孝・土居秀幸・奥田 昇・小濱 剛：安定同位体分析を用いた生態系解析の環境科学への応用に関する研究, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 3-4.
 - 3) 岩田久人・金 恩英・石橋弘志・阿南弥寿美・久保田 彰・新美聡子・山内正信・渡辺倫夫・南 銅是・酒井大樹・安井知子・能勢真人・小森浩章・宮脇恭史：水圏生物における化学汚染のバイオマーカーの探索とリスク評価システムの開発, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 7-8.
 - 4) 山内正信・金 恩英・岩田久人・島 康洋・田辺信介：TCDD 暴露したマダイ (*Pagrus major*) 初期発生における各 AHR 異性体の発現と毒性影響の関係, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 27-28.
 - 5) 酒井大樹・岩田久人・金 恩英・宮崎信之・Petrov E. A.・田辺信介：バイカルアザラシにおける Constitutive Androstane Receptor (CAR) 転写活性化能の解析-*in vitro* レポーター遺伝子アッセイを用いた非ダイオキシン様環境汚染物質のリスク評価-, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 29-30.
 - 6) 石橋弘志・金 恩英・岩田久人・田辺信介：バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) PPAR-CYPs シグナル伝達経路を介した有機フッ素化合物による毒性影響メカニズムの解明, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 31-32.
 - 7) 新美聡子・渡辺倫夫・国末達也・金 恩英・岩田久人・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介：ミンククジラの肝チトクローム P450 1-4各分子種の mRNA 発現プロファイルと酵母を用いた *in vitro* タンパク発現, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 33-34.
 - 8) 久保田 彰・岩田久人・Goldstone, H. M. H.・金 恩英・Stegeman, J. J.・田辺信介：カワウにおけるチトクローム P450 1A-分子の特徴とダイオキシン類の蓄積に関連した毒性学的解析-, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 35-36.
 - 9) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・池本徳孝・池田翔太郎・岩田久人・田辺信介：ウミガメ類の微量元素蓄積機構および比較生物学的解析, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 37-38.
 - 10) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K.・Chamnan, C.・Trang, P. T. K.・Minh, T. B.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・Tana, T. S.・田辺信介：アジア途上国における鉛汚染—ヒトへの曝露と毒性影響、汚染源の推定—, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 39-40.
 - 11) Nam, D. H.・金 恩英・岩田久人・田辺信介：Molecular characterization of two metallothionein isoforms in avian species: evolutionary history, tissue distribution profile, and expression associated with metal accumulation. 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 41-42.
 - 12) 安井知子・金 恩英・岩田久人・Franks, D. G.・Karchner, S. I.・Hahn, M. E.・田辺信介：水棲鳥類 AhR アイソフォームの機能的解析, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 51-52.
 - 13) Minh, N. H., Tomohiko, I., Kajiwara, N., Kunisue, T., Takahashi, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Spatial distribution and temporal trend of polybrominated diethyl ethers (PBDEs) and hexabromocyclododecane (HBCD) in sediments collected from Tokyo Bay, Japan. 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 59-60.
 - 14) 井上 英・阿草哲郎・國頭 恭・Minh, T. B.・Tu, N. P. C.・Tuyen, B. C.・Chamnan, C.・Tana, T. S.・Reungsang, A.・Srisuk, K.・中村 哲・滝沢 智・岩田久人・田辺信介：メコン河下流域のラオス, タイおよびベトナムメコンデルタ東部における地下水のヒ素汚染, 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果

- 報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 61-62.
- 15) 山口園子・伊藤亜紀・阿草哲郎・岩田久人・田辺信介・Viet, P. H., Tuyen, B. C., 三浦智恵美・三浦 猛: 環境汚染物質としての微量元素が魚類の精子形成に及ぼす影響, 平成18年度日本水産学会, 高知, 3~4月, 講演要旨集, 276.
 - 16) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恭・Ramu, K.・Charaborty, P.・Chamnan, C.・Trang, P. T. K.・Minh, T. B.・岩田久人・Subramanian, An.・Viet, P. H.・Tana, T. S.・田辺信介: ベトナム、カンボジア、インドにおける地下水および地域住民のヒ素汚染, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 224-225.
 - 17) 国末達也・渡辺倫夫・岩田久人・田辺信介・能勢真人・小森浩章・有田典正・植田規史: ヒト組織のダイオキシン類蓄積レベルと肝チトクローム P450発現量との関連性—肝集積に關与する CYP1A2の役割—, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 248-249.
 - 18) 井上 英・阿草哲郎・久保田領志・國頭 恭・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Viet, P. H.・Tu, N. P. C.・Tuyen, B. C.・Reungsang, A.・Srisuk, K.・中村 哲・滝沢 智 Chamnan, C.・Tana, T. S.・岩田久人・田辺信介: ベトナム、カンボジア、タイおよびラオスのメコン河流域における地下水のヒ素汚染, 第15回環境化学討論会, 仙台市, 6月, 講演要旨集, 656-657.
 - 19) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Molecular characterization of two metallothionein isoforms in avian species: evolutionary history, tissue distribution profile and expression associated with metal accumulation. 20th IUBUM International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, Japan, June, Abstracts, 435.
 - 20) Iwata, H., Hirai, Y., Baba, S., Kishizaki, R., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Chicken xenobiotic receptor (CXR) homologue splice variants in the liver of common cormorant: regulatory mechanisms of expression and functional properties. 20th IUBUM International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, Japan, June, Abstracts, 640.
 - 21) Lee, J. S., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. (Aryl hydrocarbon receptor nuclear translocator 1 (ARNT1) and 2 (ARNT2) in avian species, common cormorant; molecular characterization, tissue distribution and potential function. 20th IUBUM International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress, Kyoto, Japan, June, Abstracts, 643.
 - 22) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K.・Charaborty, P.・Chamnan, C.・Trang, P. T. K.・Minh, T. B.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介: インド、ベトナム、カンボジアの鉛汚染とヒトへの健康影響, 第17回日本微量元素学会, 静岡市, 7月, プログラム・アブストラクト集, 169.
 - 23) 安木進也・池本徳孝・阿草哲郎・飯田麻美・金 恩英・岩田久人・田辺信介・阿南弥寿美・Kuiken, T.・Osterhaus, A. D. M. E.: 大量死したゼニガタアザラシにおける微量元素蓄積の特徴: ビスマスの高濃度蓄積と他の微量元素との関係, 第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 7-8.
 - 24) 豊島沙織・高橋 真・阿草哲郎・宮坂 仁・大森浩二・田辺信介・西田周平: 安定同位対比を用いた相模湾深海生態系の解析と微量元素の蓄積特性, 第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 9-10.
 - 25) 仲山 慶・岩田久人・Tao, L.・Kannan, K.・井元麻衣・金 恩英・田代康介・田辺信介: ダイオキシン類およびフッ素置換化合物の応答遺伝子から予想される野生カワウの複合毒性影響, 第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 19-20.
 - 26) 岩田久人: 遺伝情報から化学汚染の影響・リスクを理解する, 21世紀 COE ワークショップ「鯨の漂着個体および保存試料から解ること」, 松山, 9月, 要旨集, 6.
 - 27) Niimi, S., Iwata, H., Imoto, M., Watanabe, M. X., Kunisue, T., Kim, E. Y., Nakayama, K., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Gene expression profile associated with organochlorine contaminants in the liver of common minke whales. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 257.
 - 28) Watanabe, M. X., Kunisue, T., Iwata, H., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Effects of dioxins and related compounds on hepatic cytochrome P450 and thyroid hormone in pigs from Indian open dumping site. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 258.
 - 29) Ramu, K., Kajiwara, N., Isobe, T., Takahashi, S., Kim, E. Y., Min, B. Y., We, S. U. and Tanabe, S.:

4. 研究成果

- Levels and distribution of organohalogen compounds in blue mussels (*Mytilus edulis*) from coastal waters of Korea. 232nd American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, CA, USA, Sept., Abstracts of Papers, 277.
- 30) Trang, P. T. K., Lan, V. T. M., Kubota, R., Agusa, T., Hue, N. T. M., Hao, T. T., Bhat, B. H., Dau, P. T., Phu, D. M., Gerg, M., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Arsenic pollution in groundwater in Red River Delta, Vietnam: situation and human exposure. The 6th General Seminar of the Core University Program “Environmental Science Technology for Sustainability of Asia” Organized by Osaka University and Vietnam National University, Hanoi, Kumamoto, Oct., Proceedings, 66-71.
- 31) Agusa, T., Inoue, S., Kunito, T., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Ha, N. N., Trang, P. T. K., Subramanian, An., Iwata, H., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Overview of arsenic contamination in groundwater and human health risk in Vietnam. The 6th General Seminar of the Core University Program “Environmental Science Technology for Sustainability of Asia” Organized by Osaka University and Vietnam National University, Hanoi, Kumamoto, Oct., Proceedings, 82-85.
- 32) Minh, T. B., Minh, N. H., Agusa, T., Iwata, H., Takahashi, S., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Pollution by persistent toxic substances in Vietnam: a review of two decade monitoring studies. The 6th General Seminar of the Core University Program “Environmental Science Technology for Sustainability of Asia” Organized by Osaka University and Vietnam National University, Hanoi, Kumamoto, Oct., Proceedings, 86-95.
- 33) Iwata, H., Agusa, T., Inoue, S., Minh, N. H., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S., Nakamura, T. and Tanabe, S.: Contamination by trace elements and organohalogen compounds in the Mekong River Basin. International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong, Chiang Rai, Thailand, Oct., Program and Abstract, 35.
- 34) Yamaguchi, S., Miura, C., Ito, A., Agusa, T., Iwata, H., Tanabe, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Tana, T. S. and Miura, T.: Influence of water pollution on reproduction of freshwater fish in Indochina. International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong, Chiang Rai, Thailand, Oct., Program and Abstract, 37.
- 35) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Transcriptional activity of cormorant (*Phalacrocorax carbo*) metallothionein 1 and 2 promoter/enhancer regions by heavy metals. 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 75.
- 36) 久保田彰・岩田久人・金 恩英・田辺信介: In vitro 発現した鳥類チトクローム P4501A4および1A5の機能特性, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 76.
- 37) 石橋弘志・岩田久人・金 恩英・Tao, L.・Kannan, K.・田辺信介・宮崎信之・Batoev, V. B.・Petrov, E. A.: バイカルアザラシにおける有機フッ素化合物の蓄積と PPAR-CYP4A シグナル伝達系への影響, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 77.
- 38) Lee, J. S.・Kim, E. Y.・Iwata, H.・Tanabe, S.: Molecular characterization and transcriptional activity of a dioxin-inducible CYP1A5 promoter/enhancer region from common cormorant (*Phalacrocorax carbo*). 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 78.
- 39) 小川真佐子・松田知成・松井三郎・岩田久人・金 恩英・田辺信介: バイカルアザラシにおける DNA 損傷と環境汚染化学物質の関連性, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 152.
- 40) 須田智子・金 恩英・岩田久人・田辺信介・Batoev, V. B.・Petrov, E. A.: バイカルアザラシにおける AHR 転写活性化能の解析: ダイオキシン類に対する感受性評価の試み, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 154.
- 41) 岸崎理紗・岩田久人・金 恩英・田辺信介: 鳥類 CXR のリガンド転写活性化能の種差, 環境ホルモン学会第9回研究発表会, 東京, 11月, 要旨集, 155.
- 42) Ramu, K., Kajiwara, N., Isobe, T., Takahashi, S., Kim, E. Y., Min, B., Y., We, S. and Tanabe, S.: Contamination status and spatial distribution of organohalogen compounds in coastal waters of Korea. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 29.
- 43) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Isoform-specific response of metallothioneins (MT1 and MT2) associated with metal accumulation in cormorant (*Phalacrocorax carbo*) and mallard (*Anas platyrhynchos*).

- COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 35.
- 44) Agusa, T., Inoue, S., Kunito, T., Ramu, K., Charaborty, P., Chamnan, C., Trang, P. T. K., Minh, T. B., Iwata, H., Subramanian, An., Viet, P. H., Tana, T. S. and Tanabe, S. : Arsenic contamination in groundwater and residents from Vietnam, Cambodia and India. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 37.
- 45) Niimi, S., Kim, E. Y., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Heterologous expression and functional characterization of cytochrome P450 1A1 from common minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 49.
- 46) Watanabe, M. X., Kunisue, T., Iwata, H., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Induction of cytochrome P450 1A by dioxins and related compounds, and congener-specific hepatic sequestration in the liver of pig (*Sus scrofa*) from an Indian open waste dumping site. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 50.
- 47) Kim, E. Y., Yamauchi, M., Iwata, H., Teraoka, H., Hiraga, T. and Tanabe, S. : Differential expression of two aryl hydrocarbon receptor (AHR) isoforms by 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin in red seabream (*Pagrus major*) embryo and association with morphological deformities. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 51.
- 48) Nakayama, K., Iwata, H., Tao, L., Kannan, K., Imoto, M., Kim, E. Y., Tashiro, K. and Tanabe, S. : Assessment of mixture toxicities of perfluorinated compounds and dioxins by gene expression profiling in wild cormorants. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 52.
- 49) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Miyazaki, N., Petrov, E. A. and Tanabe, S. : Constitutive androstane/active receptor in Baikal seal : the transactivation potential of environmental pollutants as a sensing biomarker. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 54.
- 50) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Franks, D. G., Karchner, S. I., Hahn, M. E. and Tanabe, S. : Novel aryl hydrocarbon receptor isoform, AhR2, in avian species : functional characterization and evolutionary history. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 55.
- 51) Lee, J. S., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : In vitro TCDD-transactivation analysis of CYP1A5 promoter/enhancer region from common cormorant (*Phalacrocorax carbo*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 56.
- 52) Kubota, A., Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S. : Functional characterization of avian cytochrome P450 1A4 and 1A5 enzymes using *in vitro* yeast expression system. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 57.
- 53) Imaeda, D., Kunisue, T., Iwata, H., Tsydenova, O. V., Takahashi, S., Amano, M., Petrov, E. A., Batoev, V. B. and Tanabe, S. : Accumulation features and temporal trend of dioxins and related compounds in Baikal seal (*Pusa sibirica*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 93.
- 54) Watanabe, M., Kunisue, T., Iwata, H. and Tanabe, S. : Contamination and bioaccumulation potencies of PCDDs, PCDFs and PCBs in marine mammals and birds from the northern Far East. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 94.
- 55) Sudaryanto, A., Isobe, T., Agusa, T., Takahashi, S., Iwata, H., Nakamura, S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S. and Tanabe, S. : Environmental occurrence of organochlorines and brominated flame retardants in sediments from middle Mekong basin. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 103.

4. 研究成果

- 56) Yasugi, S., Ikemoto, T., Agusa, T., Iida, A., Anan, Y., Kim, E. Y., Iwata, H., Kuiken, T., Osterhaus, A. D. M. E. and Tanabe, S.: Accumulation of trace elements in harbor seal (*Phoca vitulina*) stranded during the mass mortality events in the North Sea, 2002. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 116.
- 57) Takagi, K., Agusa, T., Anan, Y., Kubota, R. and Tanabe, S.: Arsenic speciation in green turtles (*Chelonia mydas*) and hawksbill turtles (*Eretmochelys imbricata*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 117.
- 58) Ikemoto, T., Kim, E. Y., Kunito, T., Iwata, H. and Tanabe, S.: Preliminary study on Hg-Se binding protein in hepatic cytosol of marine animals. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 118.
- 59) Inoue, S., Agusa, T., Kubota, R., Kunito, T., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Tu, N. P. C., Tuyen, B. C., Reungsang, A., Srisuk, K., Nakamura, S., Takizawa, S., Chamnan, C., Tana, T. S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Arsenic pollution in groundwater in the lower Mekong basin. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 122.
- 60) Toyoshima, S., Takahashi, S., Ikemoto, T., Agusa, T., Miyasaka, H., Omori, K., Nishida, S. and Tanabe, S.: Evaluation of accumulation properties of trace elements in a deep-sea ecosystem of Sagami Bay, Japan by using stable isotope ratios ($\delta^{15}\text{N}$ and $\delta^{13}\text{C}$). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 124.
- 61) Watanabe, M. X., Iwata, H., Kim, E. Y., Jones, S. P. and Kennedy, S. W.: Effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin and perfluorinated compounds in chicken embryo hepatocytes. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 131.
- 62) Suda, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Tanabe, S., Batoev, V. B. and Petrov, E. A.: Transactivation analysis of aryl hydrocarbon receptor (AHR) in Baikal seal (*Pusa sibirica*): estimation of species-specific susceptibility to TCDD. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 132.
- 63) Kishizaki, R., Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Interspecies difference in ligand transactivation potencies of avian CXRs. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 133.
- 64) Hirakawa, S., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S., Miyazaki, N. and Petrov, E. A.: Analysis of CYP1A1/1A2 transcriptional regulatory regions, and their hepatic mRNA expressions related to 2,3,7,8-TCDD toxic equivalent levels in Baikal seals. COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 134.
- 65) Ishibashi, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tao, L., Kannan, K., Tanabe, S., Miyazaki, N., Batoev, V. B. and Petrov, E. A.: Accumulation of perfluorinated compounds and effects on peroxisome proliferator-activated receptor α - cytochrome P450 4A signaling pathway in Baikal seal (*Pusa sibirica*). COE International Symposium 2006 - Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstract Book, 135.
- 66) Iwata, H., Agusa, T., Inoue, S., Minh, N. H., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S., Reungsang, A., Srisuk, K., Takizawa, S., Namakura, S. and Tanabe, S.: Trace elements and organohalogen compounds in the aquatic environment of the Mekong river basin. 3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Bangkok, Thailand, Dec., Proceedings, 79-86.

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聡・渡嘉敷努・Dubey, S.: トリブチルスズ耐性 *Pseudomonas aeruginosa* からの耐性遺伝子のクローニング, 第9回マリンバイオテクノロジー学会, 東京都, 5月, 要旨集 89.
- 2) Suzuki, S.: Ribosomal protection protein (RPP) genes in river and marine sediment: hopping among various

- environments and evolution of the gene, The Fourth Okazaki Biology Conference : Terra Microbiology 2. Okazaki, Japan, Sept. Abstracts 45.
- 3) 野中里佐・多胡良介・鈴木 聡：オキシテトラサイクリン投与後の海面養殖場底泥表層における耐性遺伝子 *tet* (M) のコピー数の変化, 第22回日本微生物生態学会, 東京都, 10月, 要旨集 87.
 - 4) 伊知地稔・上田拓史・小林剛・鈴木 聡：松山沖大洲砂堆における窒素代謝 (予報), 第22回日本微生物生態学会, 東京都, 10月, 要旨集 90.
 - 5) 浜内美幸・F. Neela・野中里佐・鈴木 聡：海水より分離したテトラサイクリン耐性菌から他細菌種への *tet* (M) の伝達, 第22回日本微生物生態学会, 東京都, 10月, 要旨集 122.
 - 6) 山本雅之・八尾正敏・伊藤世人・間谷聖子・鈴木 聡：稼働中の海水淡水化プラントの逆浸透膜上に形成したバイオフィーム内の菌叢, 第22回日本微生物生態学会, 東京都, 10月, 要旨集 152.
 - 7) 上岡なほみ・大林由美子・鈴木 聡：海水マイクロコズム中での緑膿菌由来タンパク質の分解・残存特性, 第22回日本微生物生態学会, 東京都, 10月, 要旨集 176.
 - 8) 梶本章生・今井洋幸・土居秀幸・張光?・中野伸一：バイオマスサイズスペクトラム解析による河川微生物膜中の食物網の特性, 第22回日本微生物生態学会大会, 東京都, 10月, 東京, 講演要旨集, 153.
 - 9) 大林由美子・鈴木 聡：海水中のタンパク質分解酵素の存在状態, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 名古屋, 9月, 要旨集 p. 140.
 - 10) 注連麻里・張光玆・大林由美子・片野俊也・武岡英隆・中野伸一：宇和海沿岸海域における優占植物プランクトンと長期水温上昇, 2006年度日本海洋学会秋季大会, 名古屋, 9月, 要旨集, p. 253.
 - 11) 大林由美子・浜岡一弘・鈴木 聡：海洋環境における溶存態タンパク質の動態を知るために～LC-MS/MSを用いた分子解析と蛍光基質を用いた分解酵素の解析, 2006年度日本地球化学会第53回大会, 東京, 9月, 要旨集 79.
 - 12) Nonaka, L., Tago, R. and Suzuki, S.: Quantification of tetracycline resistance gene *tet* (M) in the sediment of aquaculture site by real-time PCR, 11th International Symposium on Microbial Ecology- ISME-11, Vienna, Austria, August 20-25, Abstract A43.
 - 13) Izumi, A., Ichinose, T., Sugitate, S., Suzuki, S. and Chiura, H. X.: Broad-host-range vector particle-mediated horizontal drug resistance gene transfer, 11th International Symposium on Microbial Ecology- ISME-11, Vienna, Austria, August 20-25, Abstract A219.
 - 14) Obayashi, Y., Ueoka, N. and Suzuki, S.: Degradation and utilization of protein derived from *Pseudomonas aeruginosa* by marine microbial community, 11th International Symposium on Microbial Ecology- ISME-11, Vienna, Austria, August 20-25, Abstract A426.
 - 15) Rahman, H. M., Sakamoto, K. Q. and Suzuki, S.: Detection of tetracycline resistant bacteria from Antarctic Adelie penguin feces, 11th International Symposium on Microbial Ecology- ISME-11, Vienna, Austria, August 20-25, Abstract A443.
 - 16) Suzuki, S.: Chemical pollution and its impact on the Mekong River ecosystem. International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong, Chiang Rai, Thailand, October 18-21, Abstract 5.
 - 17) Suzuki, S., Kobayashi, T., Suehiro, F., Ohmine, A., Tuyen, B. C., Tana, T. S. and Reungsang, A.: Tetracycline resistant bacteria in Mekong watershed, International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong. Chiang Rai, Thailand, October 18-21, Abstract 75.
 - 18) Kitamura, S. I., Jung S. J. and Oh, M. J.: An approach for genotyping of lymphocystiviruses from flounder and rockfish based on major capsid protein gene, International Meeting of the Federation of Korea Microbiological Societies, Daegu, Korea, Abstract 73.
 - 19) Kitamura, S. I., Jung S. J., Nishizawa, T., Yoshimizu M. and Oh, M. J.: Genotyping of lymphocystis disease virus isolated from Japanese flounder and rockfish based on major capsid protein gene, The 5th International Symposium on Aquatic Animal Health, San Francisco, USA, Abstract 204.
 - 20) Kitamura, S. I., Jung, S. J. and Oh, M. J.: Different pathogenicity of megalocytivirus, turbot iridovirus, in marine fish species, The 5th International Symposium on Aquatic Animal Health, San Francisco, USA, Abstract 204.
 - 21) Nishibe, Y.: Species diversity and distribution of the microcopepod family Oncaeidae, 2nd International Workshop-Census of Marine Zooplankton, Tokyo, Japan, Nov.
 - 22) Nishibe, Y., Koizumi, Y., Ueda, H.: Seasonal changes in mesozooplankton community structure in relation to the

4. 研究成果

- occurrence of oceanic water intrusion in the Bungo Channel, Japan, *Pioneering Studies of Young Scientists*, on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstracts, 90.
- 23) Chang, K. H., Doi, H., Nishibe, Y., Obayashi, Y., Yamamoto, T., Yoshihara, M., Shime, M. and Nakano, S.: Comparizon of zooplankton communities of coastal marine waters receiving different human activities (fish and pearl oyster farming), *Pioneering Studies of Young Scientists*, on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstracts, 91.
- 24) Doi, H., Chang, K. H., Nishibe, Y., Obayashi, Y., Yamamoto, T., Yoshihara, M., Shime, M. and Nakano, S.: Attached microalgae contribution for the planktonic food webs in the bays with fish and pearl oyster farms, *Pioneering Studies of Young Scientists*, on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstracts, 92.
- 25) Imai, H., Kusaba, M., Chang, K. H. and Nakano, S.: Physiological and ecological characterization of *Microcystis aeruginosa* and *M. wesenbergii* in relation with environmental factors. *Pioneering Studies of Young Scientists*, on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov., Abstracts, 149.
- 26) Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Microbial degradation of organic matter in seawater -Insights from the activity of proteolytic enzymes. *Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes*, Matsuyama, Japan, Nov., Abstracts, 62.
- 27) Neela, F. A., Nonaka, L. and Suzuki, S.: Transfer of tetracycline resistance gene *tet* (M) from marine environmental bacteria to human enteric bacteria. *Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes*, Matsuyama, Japan, Nov., Abstracts 141.
- 28) Rahman, M. H., Sakamoto, K. Q. and Suzuki, S.: Occurrence of tetracycline resistance gene *tet* (M) in Antarctic-Adelie penguin feces, *Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes*, Matsuyama, Japan, Abstracts 140.
- 29) Cruz, A., Nonaka, L., Domingos, A., Suzuki, S. and Mendo, S.: Tributyltin (TBT) resistance in *Aeromonas veronii*: Isolation of gene (s) and protein (s) involved in TBT resistance, *Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes*. Matsuyama, Japan, Abstracts 139.
- 30) 張光玟・土居秀幸・和泉渉・今井洋幸・梶本章生・西部裕一郎・中野伸一：ダム湖下流河川における動物プランクトン群集動態：ダム湖から流出した動物プランクトン群集の時・空間的分布と魚類および水生昆虫との相互作用，日本陸水学会第71回松山大会，9月，松山，講演要旨集，64.
- 31) 張光玟・土居秀幸・西部裕一郎・中野伸一：近接したため池群におけるプランクトン群集の種組成および食物網構造動態解析，日本陸水学会第71回松山大会，9月，松山，講演要旨集，65.
- 32) 永田貴丸・張光玟・花里孝幸：捕食性ワムシ *Asplanchna* のエサ選択性と被食者プランクトンの行動との関係，日本陸水学会第71回松山大会，9月，松山，講演要旨集，61.
- 33) 土居秀幸・張光玟・中野伸一：ため池の食物連鎖長は微生物ループによって長くなるか？日本陸水学会第71回松山大会，9月，松山，講演要旨集，66.
- 34) 梶本章生・今井洋幸・土居秀幸・張光玟・中野伸一：バイオマスサイズスペクトル解析による河川微生物膜中の食物網の特性，日本陸水学会第71回松山大会，9月，松山，講演要旨集，72.
- 35) 今井洋幸・梶本章生・張光玟・土居秀幸・中野伸一：愛媛県鹿野川ダム湖における植物プランクトン群集の現存量・組成といくつかの環境要因の季節動態，日本陸水学会第71回松山大会，9月，松山，講演要旨集，73.
- 36) 土居秀幸・張光玟・中野伸一：ダム湖からの動物プランクトンがダム下流河川食物網を改変する，応用生態工学会第10回大会，10月，東京，講演要旨集，205.
- 37) 張光玟・土居秀幸・西部裕一郎・大林由美子・片野俊也・加三千宣・注連麻里・山本貴子・吉原瑞穂・木原明子・河野将己・光盛つかさ・二宮一平・中野伸一：宇和海における動物プランクトン群集の季節変動：浮遊生物食物網中の役割と環境要因との関わり，日本プランクトン・ベントス学会合同大会，9月，広島，講演要旨集，159.
- 38) 西部裕一郎・小泉喜嗣・上田拓史：豊後水道における浮遊性カイアシ類群集の季節変化，日本プランクトン・ベントス学会合同大会，9月，広島，講演要旨集，161.
- 39) Chang, K. H., Doi, H., Nishibe, Y., Obayashi, Y., Ninomiya, I., Kihara, A., Kono, M. and Nakano, S.: Impact of artificial eutrophication on coastal marine plankton community: field and experimental studies on the response of plankton community, 第54回日本生態学会，3月，愛媛.

環境影響評価予測分野

- 1) Amano, A., Iwamoto, N., Inoue, T. and Inouchi, Y.: Seafloor environmental changes resulting from nineteenth century reclamation in Mishou Bay, Bungo Channel, Southwest Japan. 17th International Sedimentological Congress (ISC 2006) Programme Abstracts CD-ROM, S-083.
- 2) Inouchi, Y., Kumon, F., Kondo, Y., Suzuki, K., Inoue, T., Iwamoto, N., Amano, A., Ashida, T. and Murakami, F.: Sedimentation model for reconstruction of paleo-lake levels of Lake Nojiri, central Japan. 17th International Sedimentological Congress (ISC 2006) Programme Abstracts CD-ROM, P-138.
- 3) Shioya, F., Mii, T., Iwamoto, N. and Inouchi, Y.: Environmental changes during the late Pleistocene to Holocene within the Seto Inland Sea, offshore Matsuyama city, Japan. 17th International Sedimentological Congress (ISC 2006) Programme Abstracts CD-ROM, P-291.
- 4) Nara, M.: Ichnology and paleoecology of a transgressive coastal platform: an example from a middle Pleistocene high-frequency sequence of the Kiyokawa Formation, Choshi Peninsula, central Japan. International Sedimentological Congress, Fukuoka, P272.
- 5) Nara, M. and Ekdale, A. A.,: Paleoecological reconstruction of *Cylindrichnus concentricus* in the Cretaceous Western Interior Seaway of the Book Cliffs, Utah. Topical session entitled: Fossil Behavior: In Honor of Adolf Seilacher, Geological Society of America Annual Meeting, Philadelphia, 197-12
- 6) Omori, K., Ohnishi, H., Fukumoto, T., Takahashi, S., Hamaoka, H., Ohnishi, M., Yoshino, K., Kato, G. and Miller, T.: Two ways of primary production of sand bank ecosystems in Seto Inland Sea, Japan. PICES2006.
- 7) Koji Omori, A. Doura, T. Fukumoto, J. Matsumoto, H. Ohnishi, and N. Okuda.: Tropical forests as a carbon sink. International Workshop on Mangrove Forests: Green Mangrove in Hanoi.
- 8) Fukumori, K., Oi, M., Okuda, N., Koizumi, Y. and Takeoka, H.: Bivalve stable carbon isotopes as indicators of production structure in coastal ecosystems. International Symposium on the Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov.
- 9) Genkai-Kato, M. and Miyasaka, H.: On the coexistence of three predatory stonefly species in a stream. North American Benthological Society, Anchorage, USA, Jun.
- 10) Genkai-Kato, M. and Miyasaka, H.: On the coexistence of three predatory stonefly species in a stream. International Symposium on the Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov.
- 11) Miller, T. W., Omori, K., Hamaoka, H. and Onishi, H.: Marine versus terrestrial sources of production in subsystems of the Seto Inland Sea. International Symposium on the Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov.
- 12) Miyasaka, H. and Genkai-Kato, M.: Shift between carnivory and omnivory of stream stonefly predators. The 55th annual meeting of North American Benthological Society, Anchorage, USA, Jun.
- 13) Miyasaka, H. and Genkai-Kato, M.: Shift between carnivory and omnivory of stream stonefly predators. International Symposium on the Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov.
- 14) Omori, K., Miyasaka, H., Tsutsumi, J., Kuwae, M., Genkai-Kato, M., Miyake, Y., Inoue, M. and Takeoka, H.: Analysis on the effect of terrestrial ecosystems on coastal ecosystems. International Symposium on the Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov.
- 15) Yoshino, K., Miyasaka, H., Kawamura, Y., Genkai-Kato, M., Omori, K. and Takeoka, H.: Food web analyses in Aki-Nada using stable isotopes: ecological significance of sand banks in coastal waters. International Symposium on the Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes, Matsuyama, Japan, Nov.
- 16) 岩本直哉・井内美郎: Reconstruction in East Asian Monsoon variations from sediments of Lake Biwa. 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, Q126-002.
- 17) 角田絵理・芦田貴史・公文富士夫・近藤洋一・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 野尻湖西部池尻川低地の10m コアにおける主要テフラの年代, 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, Q126-P008.
- 18) 渡部遼・岩本はるか・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物の物性と気象観測記録との相関, 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, Q126-P013.
- 19) 岩本はるか・渡部遼・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖表層堆積物

4. 研究成果

- の物理量変化と気象観測データとの対応, 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, Q126-P014.
- 20) 相澤育実・岩本直哉・渡部遼・井内美郎: 吸光光度法による Biogenic Silica 濃度の測定, 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, Q126-P015.
 - 21) 芦田貴史・塩屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎: 琵琶湖音波探査記録からみた過去約3万5千年間の湖水面変動史, 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, Q126-P016.
 - 22) 井内美郎・井上卓彦・岩本直哉・天野敦子・塩屋藤彦: 瀬戸内海の海底“沖積層”の音波探査記録と堆積シーケンス, 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, Q127-P001.
 - 23) 天野敦子・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 愛媛県御荘湾における干拓に伴う海底環境変遷, 日本地球惑星科学連合2006年大会予稿集 CD-ROM, G148-P010.
 - 24) 渡部遼・岩本はるか・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物の物理量変動と気象観測記録との関係, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 278.
 - 25) 角田絵理・芦田貴史・公文富士夫・近藤洋一・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 野尻湖西部池尻川低地の10m コアにおける主要テフラの年代, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 275.
 - 26) 相澤育実・岩本直哉・渡部遼・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物における過去約100年間の生物源シリカ濃度と気象観測データとの対応, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 277.
 - 27) 芦田貴史・塩屋藤彦・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 琵琶湖の音波探査記録及びボーリングコアからみた湖水面変動史, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 196.
 - 28) 天野敦子・岩本直哉・塩屋藤彦・井上卓彦・高杉由夫・井内美郎: 愛媛県南部御荘湾における19世紀干拓に伴う海底環境変遷, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 156.
 - 29) 岩本直哉・井内美郎: 琵琶湖の全炭素含有率に基づく過去30万年間の千年スケールの東アジア夏季モンスーンの復元, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 167.
 - 30) 岩本はるか・渡部遼・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖表層柱状堆積物の物理量と気象観測データとの対応, 日本地質学会第113年学術大会講演要旨, 276.
 - 31) 岩本はるか・渡部遼・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖表層堆積物の物理量と気象観測データとの対応, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 181-186.
 - 32) 渡部遼・岩本はるか・相澤育実・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・井内美郎: 琵琶湖表層堆積物の密度プロファイル及び気象観測データとの相関, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 187-192.
 - 33) 樋口衡平・岩本直哉・天野敦子・芦田貴史・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物の粒度組成と分布様式, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 193-198.
 - 34) 相澤育実・岩本直哉・天野敦子・渡部遼・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物における過去およそ100年間の生物源シリカ濃度と気象観測データの対応, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 199-204.
 - 35) 芦田貴史・塩屋藤彦・岩本直哉・井上卓彦・里口保文・井内美郎: 琵琶湖音波探査記録およびボーリングコア試料からみた湖水面変動史, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 205-210.
 - 36) 井内美郎・吉川周作・井上卓彦・天野敦子・岩本直哉・芦田貴史: 大阪湾海底堆積物の音波探査記録と夢洲沖ボーリング資料との対応, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 217-220.
 - 37) 天野敦子・岩本直哉・井上卓彦・塩屋藤彦・井内美郎: 愛媛県御荘湾における歴史時代の干拓に伴う海底環境変遷, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 237-242.
 - 38) 角田絵理・芦田貴史・公文富士夫・近藤洋一・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 野尻湖西部池尻川低地の10m コアにおけるテフラとその年代推定, 第16回環境地質学シンポジウム論文集, 243-248.
 - 39) 天野敦子・岩本直哉・塩屋藤彦・井上卓彦・井内美郎: 愛媛県南部御荘湾における堆積物の物理・化学特性からみた19世紀の干拓に伴う海底環境変遷, 第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集, 1.
 - 40) 相澤育実・岩本直哉・天野敦子・渡部遼・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖湖底表層堆積物中の生物源シリカ濃度と気象観測データの対応, 第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集, 2.
 - 41) 岩本はるか・相澤育実・渡部遼・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎: 琵琶湖湖底表層柱状堆積物の粒子密度・粒度と気象観測データとの対応, 第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集, 2.
 - 42) 角田絵理・芦田貴史・公文富士夫・近藤洋一・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 長野県野尻湖西部池尻川低地の10m コアにおけるテフラとその推定年代, 第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集, 3.

- 43) 井内美郎・吉川周作・井上卓彦・岩本直哉・天野敦子：音波探査記録とボーリング資料との対応からみた大阪湾海底沖積層の層相，第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集，3.
- 44) 樋口衡平・岩本直哉・天野敦子・芦田貴史・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物の粒度組成と分布様式，第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集，6.
- 45) 渡部遼・岩本はるか・相澤育実・岩本直哉・天野敦子・齋藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物の粒子密度に記録された気象要素の検討，第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集，6.
- 46) 芦田貴史・塩屋藤彦・岩本直哉・井上卓彦・里口保文・井内美郎：琵琶湖の音波探査記録およびボーリングコアから復元された過去約5万年間の湖水面変動史，第6回日本地質学会四国支部講演会講演要旨集，7.
- 47) 奈良正和・Ekdale, A. A., : ユタ州の西部内陸白亜系における生痕化石 *Cylindrichnus concentricus* の観察，日本古生物学会2006年年会予稿集，23.
- 48) 碓 雄太・奈良正和：古第三系室戸半島層群に見られる生痕化石 *Protovirgularia* 類の分岐とその古生態：二枚貝類の”海底ハイウェイ”．日本地質学会第113年年会，講演要旨，225.
- 49) 秋山紘胤・奈良正和：愛媛県西条市加茂川エスチャリーの潮汐低地における堆積相とその動態：堆積ファブリックに見られる季節変化．第6回日本地質学会四国支部講演会，講演要旨集，1.
- 50) 大森浩二：河川生態系におけるレジームシフト，日本生態学会，3月，新潟市.
- 51) 加藤元海：レジーム・シフト：生態系における不連続的な系状態の変化の実践的な予測，日本生態学会宮地賞受賞記念講演，3月，新潟市.
- 52) 加藤元海：動物プランクトンと魚の捕食回避の隠れ家としての沿岸植物帯をめぐるゲーム，日本生態学会，3月，新潟市.
- 53) 加藤元海：湖沼形態・水温・沿岸帯植物を考慮した不連続的な富栄養化の予測，日本陸水学会，9月，松山市.
- 54) 大森浩二：生態系の健全性に基づく流域保全，公募シンポジウム（流域保全：大規模な止水域が流域環境に与える影響解析），日本生態学会，3月，松山市.

5. 学会及び社会における活動



5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 中央環境審議会臨時委員，環境省
- 2) 愛媛海区漁業調整委員会委員，愛媛県
- 3) 愛媛県環境審議会委員，愛媛県
- 4) 愛媛県環境創造センター客員研究員，愛媛県
- 5) 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員，愛媛県
- 6) 養殖魚安全対策検討委員会委員，愛媛県漁連
- 7) 重信川の自然を育む会アドバイザー，国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所
- 8) 水産評価専門部会委員，愛媛県
- 9) 愛媛県環境影響評価審査会委員，愛媛県
- 10) 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト外部評価委員会委員，佐賀大学
- 11) シーズ発掘試験査読評価委員，独立行政法人科学技術振興機構
- 12) 愛媛県環境創造センター客員研究員，愛媛県

郭 新宇

- 1) 研究員，独立行政法人海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター
- 2) 共同研究員，総合地球環境学研究所

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 客員教授，独立行政法人東京大学海洋研究所
- 2) 客員教授，中国・南京大学環境学院
- 3) 客員研究員，独立行政法人国立環境研究所
- 4) 客員研究員，財団法人山階鳥類研究所
- 5) 地球環境科学技術委員会委員，文部科学省
- 6) 科学技術・学術審議会専門委員（学術分科会），文部科学省
- 7) 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員，文部科学省
- 8) 大学設置・学校法人審議会専門委員（大学設置分科会），文部科学省
- 9) 科学技術動向研究センター専門調査員，文部科学省
- 10) 科学研究費委員会専門委員，独立行政法人日本学術振興会
- 11) 「魅力ある大学院教育」イニシアチブ委員会事後評価部会専門委員，独立行政法人日本学術振興会
- 12) 国際科学技術協力推進委員，独立行政法人日本科学技術振興機構
- 13) 日本学術会議連携会員，日本学術会議
- 14) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員，環境省
- 15) 地球環境研究企画委員会第2研究分科会委員，環境省
- 16) 新規 POPs 等研究会委員，環境省
- 17) ExTEND2005に基づく野生生物の生物学的知見研究班研究班員，環境省
- 18) 臭素系ダイオキシン類実態解明調査業務に関する検討会委員，環境省
- 19) 臭素化ダイオキシンの人への健康影響調査に関する検討会委員，環境省

- 20) 臭素系ダイオキシン類排出実態等調査業務に関する検討会委員, 環境省
- 21) 海洋環境モニタリング調査検討会検討員, 環境省
- 22) 野生生物のダイオキシン類蓄積状況及び影響調査検討会検討委員, 環境省
- 23) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員, 環境省
- 24) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員, 環境省
- 25) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省
- 26) 廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究委員会委員, 環境省
- 27) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会
- 28) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 29) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 30) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員, 愛媛県
- 31) 愛媛県廃棄物処理センター役員, 愛媛県
- 32) 西条市環境審議会委員長, 愛媛県西条市
- 33) 養殖魚安全対策検討委員会委員, 愛媛県漁業協同組合連合会
- 34) 環境問題助成研究懇談会委員, 日本生命財団
- 35) External Assessor for Appointments to the Post of Associate Professor/Professor in the Faculty of Applied Science and Technology, Universiti Putra Malaysia
- 36) External Assessor for Promotion to Professorship, City University of Hong Kong
- 37) External Reviewer for Ocean Park Projects in Hong Kong
- 38) External Referee for University Grants Committee in Hong Kong

高橋 真

- 1) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所

生態毒性解析分野

岩田 久人

- 1) 環境試料タイムカプセル事業検討会委員, 国立環境研究所

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 大学評価・学位授与機構学位審査会臨時専門委員

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 松山市環境審議会委員, 松山市
- 2) 松山市環境審議会土壌汚染調査・対策検討専門部会員
- 3) 松山市省エネルギービジョン策定委員
- 4) 島根大学汽水域研究センター客員研究員、島根大学
- 5) 海洋研究所協議会委員, 東京大学
- 6) 産業技術総合研究所評価委員

大森 浩二

- 1) 河川・溪流アドバイザー, 肱川・野村ダム, 国土交通省
- 2) 流況変動研究委員会委員, ダム水源地環境整備センター
- 3) 水源地生態研究会議委員, ダム水源地環境整備センター
- 4) 山鳥坂ダム環境検討委員会, 国土交通省
- 5) 河川・溪流アドバイザー, 重信川, 国土交通省
- 6) 四国ダムフォローアップ委員会, 国土交通省
- 7) 肱川清流保全委員会, 国土交通省, 大洲市ほか

5. 学会及び社会における活動

- 8) 肱川水系流域委員会, 国土交通省
- 9) 早明浦ダム濁水検討委員会, 国土交通省

5. 2 学協会委員等

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会
- 3) 理事, 瀬戸内海研究会議
- 4) 幹事, 水産海洋学会

郭 新宇

- 1) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「海の研究」
- 2) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「Journal of Oceanography」

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 会長, 日本環境毒性学会
- 2) 理事, 内分泌攪乱化学物質学会
- 3) 評議員, 日本環境化学会
- 4) 日本環境科学会評議員
- 5) 副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 6) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 7) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 8) Editorial Board Member, Australasian Journal of Ecotoxicology (Australasian Society for Ecotoxicology)
- 9) Editorial Board Member, Environmental Geochemistry and Health (Kluwer Academic Publishers)
- 10) Editorial Board Member, Environmental Sciences (MY Research)
- 11) Editorial Board Member, Archives of Environmental Contamination and Toxicology (Springer)
- 12) Editorial Board Member, International Journal of Applied Environmental Sciences (Research India Publications)
- 13) Editorial Advisory Board Member, Environmental Chemistry (CSIRO Publishing)

高菅 卓三

- 1) 評議員, 日本環境化学会

生態毒性解析分野

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, The Scientific World (The Scientific World)
- 2) International Advisory Board, 14th International Symposium on Pollutant Responses in Marine Organisms

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 評議員, マリンバイオテクノロジー学会
- 2) 評議員, 日本微生物生態学会
- 3) 代議員, 日本生化学会

野中 里佐

- 1) 評議員, 日本微生物生態学会

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 評議員, 日本第四紀学会
- 2) 評議員, 日本地質学会

奈良 正和

- 1) 代議員, 日本地質学会
- 2) 古生物学事典編集委員, 日本古生物学会

大森 浩二

- 1) 日本生態学会大会企画委員

5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

- 1) 第28回21世紀 COE 特別セミナー・第14回環境科学特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点・産業科学技術支援センター研究協力会環境保全部会と共催)

期日: 平成18年4月3日(月) 9:30~11:30

会場: 城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室

魚介類の感染症とその診断・防除・防疫に関する研究

北海道大学大学院水産科学研究院・教授 吉水 守

増養殖産物の安全性確保と安心感の提供

北海道大学大学院水産科学研究院・助手 笠井 久会

抗ウイルス活性を有する細菌を用いた魚類ウイルス病の制御に関する研究

北海道大学大学院水産科学院・D1 清水 智子

- 2) 第29回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共催)

期日: 平成18年5月19日(金) 19:30~20:30

会場: 城北キャンパス 総合研究棟1, 3階共通ゼミ室

ナメクジウオの産卵メカニズムと環境

東京大学海洋研究所・教授 窪川かおる

- 3) 第30回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共催)

期日: 平成18年6月16日(金) 15:00~16:30

会場: 城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室

Low-latitude western boundary current in the Pacific

International Pacific Research Center, SOEST, University of Hawaii Tangdong Qu

- 4) 国際ワークショップ「International Workshop on Prediction of Greenhouse Gas Effect on Global Environment: Asian Coastal Ecosystem: Case Study, North Vietnam」(Hanoi University of Education と共催)

期日: 平成18年6月18日~21日

会場: HOTEL NIKKO HANOI, Room Fuji

Opening address: Dr. Maruyama

【Session 1: Part and future environmental changes at North Vietnam by the green house gas effect on global climate: prediction and adaptation - Chair: Y. Tateda】

Opening lecture: Past and future climate change prediction of Southeast Asia by Global climate model - Y. Tsutsui

Response of coastal ecosystem to climate change - K. Ohmori

Preliminary estimation of carbon balance in Asian mangrove coastal ecosystem - Y. Tateda

Invited paper: Mangrove reforestation in Vietnam, 30 years activities in of results and experience - M. Tuan, P. Hong

5. 学会及び社会における活動

Carbon stock and carbon flow in a planted mangrove in north Vietnam measured by conventional methods - A. Hirano
Discussion

【Session 2 : CH₄, N₂O sequestration/emission fluxes and organic carbon balance at mangrove natural and forestation area - Chair : Y. Tateda】

Invited paper : CH₄ and N₂O fluxes in Indian mangrove coastal ecosystems - J. Barns

CH₄ and N₂O fluxes in Australian mangrove ecosystems - D. Allen

N₂O fluxes in red mangrove area, Puerto Rico - J. Bauza and M. Munoz-Hincapie

Emission of nitrous oxide from coastal water and sediments in mangrove forest ecosystem - M. Imamura

Is N₂O emission offset the CO₂ sequestration by mangrove coastal ecosystems - K. Omori

Discussion : Fluxes between the different measurements/studies and the normalization methodology

【Session 3 : CO₂ sequestration fluxes and organic carbon balance at mangrove area, the state of art - Chair : K. Ohmori】

Opening lecture : Mangrove forestation as a carbon sink management under Kyoto Mechanism - Okimori

Estimation of CO₂ fixation capacity in mangrove forest with CO₂ gas exchange and growth curve analysis : A case study of Kandelia candel in the estuary of Len river, Thanh Hoa, Vietnam - Y. Okimoto

Sedimentation rate estimation at North Vietnam mangrove forestation area - D. Nhan

Organic matter decomposition rate in mangrove coastal waters - Y. Tateda

CO₂ fluxes in mangrove and other terrestrial vegetation ecosystems - Y. Kiataya

Estimation of the above ground biomass in mangrove plantation area using radio controlled helicopter - J. Suekuni

【Session 4: Can mangrove forestation be additional mitigation by its CO₂ sequestration effect? - Chair: M. Tuan, A. Nose】

Mangrove forests in India : Possibility of rehabilitation of destroyed forests as a carbon sink - D. Kthiresan

General discussion : What is the best mangrove forestation strategy in North Vietnam relation with forest sink management plan under clean development mechanism?

- 5) 21世紀 COE ワークショップ「鯨類の漂流個体および保存試料から解ること」(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共催)

期日：平成18年9月23日(土)・24日(日)

会場：城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室・試料バンク棟、1階解剖室

・講演プログラム

海棲哺乳類の実態を捉える

山田 格 (国立科学博物館)

生活史情報の重要性

天野 雅男 (帝京科学大学)

ストランディング個体の DNA から解ること

角田 恒雄 (国立科学博物館)

胃の内容物から食性を探る

谷田部明子 (東京海洋大学)

野生動物を病理学的に調査する重要性：海棲哺乳類の場合

田島木綿子 (国立科学博物館)

遺伝情報から化学汚染の影響・リスクを理解する

岩田 久人 (愛媛大学)

・スナメリとハナゴンドウの解剖

- 6) 第31回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共催)

期日：平成18年10月23日(月) 13:30~15:00

会場：城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室

微量有害物質の先端測定技術と今後の展望

株式会社島津テクノリサーチ・取締役、愛媛大学・客員教授 高菅 卓三

- 7) 国際シンポジウム「International Symposium 2006, Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes」

期日：2006年11月17日~19日

会場：城北キャンパス メディアセンターおよびグリーンホール

[Chairman] Prof. Masayuki Komatsu (President, Ehime University)

[Organizing Committee]

- Dr. Hitoshi Miyasaka (Chair, Post-doc, CMES, Ehime University)
 Dr. Tomohiko Isobe (Post-doc, CMES, Ehime University)
 Dr. Yumiko Obayashi (Post-doc, CMES, Ehime University)
 Dr. Yuji Kawamura (Post-doc, CMES, Ehime University ; Tokyo University of Marine Science and Technology)
 Dr. Hiroshi Ishibashi (Post-doc, CMES, Ehime University ; Prefectural University of Kumamoto)
 Dr. Todd W. Miller (Post-doc, Oregon State University ; CMES, Ehime University)
 Dr. Michio X. Watanabe (Post-doc, CMES, Ehime University)

[Advisory Committee]

- Prof. Shinsuke Tanabe (Project Leader of COE, CMES, Ehime University)
 Prof. Hidetaka Takeoka (Director, CMES, Ehime University)
 Prof. Annamalai Subramanian (CMES, Ehime University)
 Prof. Shin-ichi Nakano (Faculty of Agriculture, Ehime University)
 Assoc. Prof. Shin Takahashi (CMES, Ehime University)

[Chemical Pollution (Core 1)]

〈Session : C1A Status of Contamination and Temporal Trends〉

Chairs : Tatsuya Kunisue, Karri Ramu

- C1-01 (Keynote) Kurunthachalam Kannan. Global Distribution of Perfluoroalkyl Acids.
 C1-02 (Invited) Lin Tao, Henry Spliethoff, Kurunthachalam Kannan. Biomonitoring of Perfluorochemicals Exposures in Newborn Infants from New York State Using Blood Spots : 1997 to 2004.
 C1-03 Natsuko Kajiwara, Daisuke Ueno, Karri Ramu, Tomohiko Isobe, Norihisa Baba, Tadasu K. Yamada, Shinsuke Tanabe. Brominated Flame Retardants (BFRs) in Marine Mammals : Results from the Environmental Specimen Bank for Global Monitoring (es-BANK) at Ehime University.
 C1-04 Hidenori Matsukami, Kiyohiko Watanabe, Hiroaki Takemori, Shin Takahashi, Takumi Takasuga, Shinsuke Tanabe. Comprehensive Analysis for Organo-bromine Compounds in Environmental Samples with GC/MS (EI/NCI).
 C1-05 Tatsuya Kunisue, Tadasu K. Yamada, Shin Takahashi, Shinsuke Tanabe. Occurrence of Hydroxylated Polychlorinated Biphenyls in the Brain of Three Cetacean Species Stranded along the Japanese Coast.
 C1-06 Ana Sousa, Shin Takahashi, Annamalai Subramanian, Shinsuke Tanabe, Carlos Barroso. Temporal and Spatial Trends of Organotin Pollution in Ria de Aveiro (NW Portugal).

November 17 (Friday)

〈Session : C1B Environmental Distribution, Behavior and Fate〉

Chairs : Daisuke Ueno, Tomohiko Isobe

- C1-07 (Keynote) Mehran Alaei. An Overview of Emerging Environmental Pollutants ; Detection, Distribution, Behaviour and Fate.
 C1-08 (Invited) Rosalinda Gioia, Rainer Lohmann, Luca Nizzetto, Jordi Dachs, Christian Temme, Kevin C. Jones. Global Cycling and Dynamics of POPs from Source Regions to Remote Areas.
 C1-09 (Invited) Hai-rong Cheng, Gan Zhang, Xiang Liu, Jun Li, Shi-hua Qi. Atmospheric Long-range Transport of Organochlorine Pesticides : Case Studies at Mt Waliguan and Qingdao, North China.
 C1-10 Agus Sudaryanto, Karri Ramu, Tomohiko Isobe, Shin Takahashi, Iwan Eka Setiawan, Shinsuke Tanabe. Levels, Distribution and Temporal Trend of Brominated Flame Retardants in the Environment of Indonesia
 C1-11 Karri Ramu, Natsuko Kajiwara, Tomohiko Isobe, Shin Takahashi, Eun-Young Kim, Byung-Yoon Min, Sung-Ug We, Shinsuke Tanabe. Contamination Status and Spatial Distribution of Organohalogen Compounds in Coastal Waters of Korea.
 C1-12 Daisuke Ueno, Annamalai Subramanian, Mehran Alaei, Chris Marvin, Derek C. G. Muir, Gordia Macinnis, Eric Reiner, Patrick Crozier, Vasile I. Furdui, Gilberto Fillmann, Paul K. S. Lam, Gene J. Zheng, Muswerry Muchtar, Hamidah Razak, Maricar Prudente, Kyu-hyuck Chung, Shinsuke Tanabe. Global Pollution Monitoring of Persistent Toxic Substances (PTS) Using Skipjack Tuna as a Bioindicator.
 C1-13 Tomohiko Isobe, Nguyen Hung Minh, Daisuke Ueno, Keizo Matsumoto, Natsuko Kajiwara, Shin Takahashi, Shinsuke Tanabe. Horizontal Distribution and Temporal Trend of Polybrominated Diphenyl Ethers and Hexabromo-

5. 学会及び社会における活動

cyclododecanes in Tokyo Bay.

〈Session : C1C Environmental Contamination and Impact of Trace Elements〉

Chairs : Testuro Agusa, Nam Dong-Ha

C1-14 (Keynote) Kevin A. Francesconi. Application of HPLC/Mass Spectrometry to Metal Biotransformation Studies.

C1-15 (Invited) Nikolaus Gantner, Derek Muir, Mike Power, Roland Psenner, Keith Solomon. Effects of Climate Change on Mercury Concentrations in Landlocked Arctic Char (*Salvelinus alpinus*) in the Canadian High Arctic.

C1-16 Yasumi Anan, Shotaro Ikeda, Kumiko Nomura, Tokutaka Ikemoto, Takashi Kunito, Shinsuke Tanabe. Accumulation and Subcellular Distribution of Trace Elements in Cephalopods.

C1-17 Dong-Ha Nam, Eun-Young Kim, Hisato Iwata, Shinsuke Tanabe. Isoform-Specific Response of Metallothioneins (MT1 and MT2) Associated with Metal Accumulation in Cormorant (*Phalacrocorax carbo*) and Mallard (*Anas platyrhynchos*).

C1-18 Tokutaka Ikemoto, Shin Takahashi, Yasumi Anan, Govindan Malarvannan, Shin-ichi Yano, Yoko Ochi, Chiho Matsudaira, Satoko Murata, Hiroki Tamura, Toshihiko Miyagi, Masaru Nakamura, Shigeki Yasumura, Shinsuke Tanabe. Pollution by Anthropogenic Contaminants and Trace Elements in the Ecosystem of the Nansei Islands, Japan.

C1-19 Tetsuro Agusa, Suguru Inoue, Takashi Kunito, Karri Ramu, Paromita Charaborty, Chhoun Chamnan, Pham Thi Kim Trang, Tu Binh Minh, Hisato Iwata, Annamalai Subramanian, Pham Hung Viet, Touch Seang Tana, Shinsuke Tanabe. Arsenic Contamination in Groundwater and Residents from Vietnam, Cambodia and India.

〈Session : C1D Exposure and Bioaccumulation〉

Chairs : Shin Takahashi, Agus Sudaryanto

C1-20 (Keynote) Louis J. Guillette Jr. Environmental Contaminants and the Developing Reproductive System : from Genes to Populations.

C1-21 (Invited) James Chung Wah Lam, Shinsuke Tanabe, Paul Kwan Sing Lam. Persistent Organic Pollutants in South China Coastal Region with Special Reference to Contaminant Levels in Waterbird Eggs.

C1-22 Hyo-Bang Moon, Kurunthachalam Kannan, Su-Jeong Lee, Minkyu Choi. Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in Coastal Environment of Korea.

C1-23 (Invited) Alissara Reungsang, Pensri Plangklang. Degradation of Carbofuran Using Microorganisms Isolated from Phytoremediated Rhizosphere Soils.

C1-24 Pensri Plangklang, Alissara Reungsang. Bioaugmentation of Carbofuran Residue Degradation with an Immobilized Carbofuran Degradation Agrobacterium radiobacter PCL3.

C1-25 Go Suzuki, Hidetaka Takigami, Kazutoshi Nose, Shin Takahashi, Misuzu Asari, Shin-ichi Sakai. Evaluation of Thyroid-disrupting Potency in Indoor Dusts Using *in vitro* Bioassays.

C1-26 Tu Binh Minh, Nguyen Hung Minh, Shin Takahashi, Pham Hung Viet, Bui Cach Tuyen, Shinsuke Tanabe. Persistent Organic Pollutants in Vietnam : Implications of Human Exposure.

〈Session : C1E Ecotoxicology of Environmental Contaminants on Wildlife〉

Chairs : Michio X Watanabe, Jin-Seon Lee, Satoko Niimi, Kei Nakayama

C1-27 (Keynote) Sean W. Kennedy, Doug Crump, Stephanie P. Jones, Jessica A. Head, Magdalena Jagla, Amy Kehoe. Application of Gene Expression Technologies to Wildlife Toxicology - Scientific and Technical Challenges.

C1-28 (Invited) Jessica A. Head, Mark E. Hahn, Amy Kehoe, Sean W. Kennedy. A Genetic Test for Sensitivity to Dioxin-like Compounds in Avian Species.

C1-29 Niladri Basu, Hing Man Chan, Vance L. Trudeau, Steven J. Bursian, Doug Crump, Sean W. Kennedy, Anton M. Scheuhammer. Applications and Implications of Neurochemical Biomarkers in the Field of Environmental Toxicology.

C1-30 (Invited) Seung Min Oh, Byung Taek Ryu, Kyu Hyuck Chung. cDNA Cloning and Characterization of Arylhydrocarbon Receptor (AhR1 and AhR2) from *Carassius auratus*.

C1-31 Satoko Niimi, Eun-Young Kim, Hisato Iwata, Genta Yasunaga, Yoshihiro Fujise, Shinsuke Tanabe. Heterologous Expression and Functional Characterization of Cytochrome P450 1A1 from Common Minke Whale (*Balaenoptera acutorostrata*).

- C1-32 Michio X. Watanabe, Tatsuya Kunisue, Hisato Iwata, Annamalai Subramanian, Shinsuke Tanabe. Induction of Cytochrome P450 1A by Dioxins and Related Compounds, and Congener-Specific Hepatic Sequestration in the Liver of Pig (*Sus scrofa*) from An Indian Open Waste Dumping Site.
- C1-33 Eun-Young Kim, Masanobu Yamauchi, Hisato Iwata, Hiroki Teraoka, Takeo Hiraga, Shinsuke Tanabe. Differential Expression of Two Aryl Hydrocarbon Receptor (AHR) Isoforms by 2,3,7,8-Tetrachlorodibenzo-p-dioxin in Red Seabream (*Pagrus major*) Embryo and Association with Morphological Deformities.
- C1-34 Kei Nakayama, Hisato Iwata, Lin Tao, Kurunthachalam Kannan, Mai Imoto, Eun-Young Kim, Kosuke Tashiro, Shinsuke Tanabe. Assessment of Mixture Toxicities of Perfluorinated Compounds and Dioxins by Gene Expression Profiling in Wild Cormorants.
- C1-35 Sonoko Yamaguchi, Chiemi Miura, Takeshi Miura. Effects of Trace Elements on Spermatogenesis in Fish.
- C1-36 Hiroki Sakai, Hisato Iwata, Eun-Young Kim, Nobuyuki Miyazaki, Evgeny A. Petrov, Shinsuke Tanabe. Constitutive Androstane/Active Receptor in Baikal Seal : The Transactivation Potential of Environmental Pollutants as a Sensing Biomarker.
- C1-37 Tomoko Yasui, Eun-Young Kim, Hisato Iwata, Diana G. Franks, Sibel I. Karchner, Mark E. Hahn, Shinsuke Tanabe. Novel Aryl Hydrocarbon Receptor Isoform, AhR2, in Avian Species : Functional Characterization and Evolutionary History.
- C1-38 Jin-Seon Lee, Eun-Young Kim, Hisato Iwata, Shinsuke Tanabe. In Vitro TCDD-transactivation Analysis of CYP1A5 Promoter/Enhancer Region from Common Cormorant (*Phalacrocorax carbo*).
- C1-39 Akira Kubota, Hisato Iwata, Eun-Young Kim, Shinsuke Tanabe. Functional Characterization of Avian Cytochrome P450 1A4 and 1A5 Enzymes Using In Vitro Yeast Expression System.
- [Environmental Changes (Core 2)]
- 〈Session : C2A Biogeochemical Roles of Microorganisms in Aquatic Ecosystems〉
- Chairs : Yumiko Obayashi, M. Habibur Rahman
- C2-01 (Keynote) David L. Kirchman. Marine Microbial Ecology and Climate Changes.
- C2-02 (Invited) Matthew J. Church. Microbial Dynamics at Station ALOHA in the Oligotrophic North Pacific Ocean.
- C2-03 (Invited) Ruth D. Gates. Do Coral Possess the Biological Flexibility to Survive Global Climate Change?
- C2-04 Yumiko Obayashi, Satoru Suzuki. Microbial Degradation of Organic Matter in Seawater -Insights from the Activity of Proteolytic Enzymes-.
- C2-05 Gentoku Nakase, Mitsuru Eguchi. Relationship between Changes in Bacterial Community Structures and Mortality of Fish Larvae in Rearing Waters.
- 〈Session : C2B Stable Isotopes as Indicators of Ecosystem and Community Studies〉
- Chairs : Hitoshi Miyasaka, Motomi Genkai-Kato, Todd W. Miller
- C2-06 (Keynote) M. Jake Vander Zanden. Use of Stable Isotopes to Measure Ecological Change.
- C2-07 (Invited) Darren L. Bade, Stephen R. Carpenter, Jonathan J. Cole, Michael L. Pace, Emma Kritzberg, Matthew C. Van de Bogert, Rose M. Cory, Diane M. McKnight. Quantifying Terrestrial and Aquatic Sources of Dissolved Organic Carbon in lakes.
- C2-08 Todd W. Miller, Koji Omori, Hideki Hamaoka, Hidejiro Onishi. Marine versus Terrestrial Sources of Production in Subsystems of the Seto Inland Sea.
- C2-09 Ryo Sugimoto, Akihide Kasai, Toshihiro Miyajima, Koichi Fujita. Changes in Natural Isotopic Composition of Nitrate during the Development of Hypoxia in Ise Bay, Japan.
- C2-10 Kayoko Fukumori, Misa Oi, Noboru Okuda, Yoshitsugu Koizumi, Hidetaka Takeoka. Bivalve Stable Carbon Isotopes as Indicators of Production Structure in Coastal Ecosystems.
- C2-11 Hitoshi Miyasaka, Motomi Genkai-Kato.. Shift between Carnivory and Omnivory of Stream Stonefly Predators.
- C2-12 Motomi Genkai-Kato, Hitoshi Miyasaka.. On the Coexistence of Three Predatory Stonefly Species in a Stream.
- 〈Session : C2C Global Climate Change and Paleocology〉
- Chairs : Michinobu Kuwae
- C2-13 (Keynote) Bruce Finney. A Paleocological Perspective on the Role of Climatic Forcing in Regulating Variability in Marine and Coastal Aquatic Ecosystems in the North Pacific Region.
- C2-14 (Invited) Sergi Pla. Tracking Ecological Changes Using Algal Indicators to Assess Global Environmental

5. 学会及び社会における活動

Stressors : Climate Warming and Atmospheric Pollution.

C2-15 Michinobu Kuwae, Hitomi Yamaguchi, Narumi Kuwae, Tsukasa Mitsumori, Hitoshi Miyasaka, Minoru Ikehara, Kayoko Fukumori, Motomi Genkai-Kato, Koji Omori, Hidetaka Takeoka, Takashige Sugimoto. Sedimentary Fish Abundance Records over the Last 1500 Yrs from Western North Pacific : Basin-Scale Link of Sardine and Anchovy Biomass.

C2-16 Hitomi Yamaguchi, Chikanori Miyoshi, Michinobu Kuwae, Narumi T. Kuwae, Atsuko Amano, Yoshio Inouchi, Hidetaka Takeoka. Effect of Human Activities on the Phytoplankton Community during the Past 100 Years in Osaka Bay, Japan.

〈Session : C2D Physical Processes Affecting Biology and Chemistry of Coastal Regions〉

Chairs : Daisuke Takahashi, Rolando S. Balotro

C2-17 (Keynote) Dana K. Savidge, Jay A. Austin. Frontal Interactions Near Cape Hatteras (FINCH) : Results from High Resolution Sampling in Winter and Summer.

C2-18 (Invited) Zhe Liu, Jing Zhang. Multiple Timescales Abrupt Changes of Hydrometeorological Factors in Jiaozhou Bay and their Potential Ecological Impacts.

C2-19 Yuichi Hayami, Koichi Yamamoto, Takaharu Hamada. Increase of Winter Diatom Bloom in the Ariake Sea- Does the Sediment Property Change Enhance the Phytoplankton Production?-

C2-20 Daisuke Takahashi, Xinyu Guo, Shin Takahashi, Joji Ishizaka, Hidetaka Takeoka. A Numerical Study on Vertical Transport of Polychlorinated Biphenyls (PCBs) in East China Sea.

C2-21 Pil Hun Chang, Xinyu Guo, Takeoka Hidetaka. A Numerical Study on the Seasonal Water Circulation in the Seto Inland Sea, Japan

C2-22 Yuji Kawamura, Yuichi Hayami, Takeshi Kohama, Atsushi Kaneda, Hidetaka Takeoka. Occasional Intensification of Semidiurnal Internal Tide in Bungo Channel, Japan

C2-23 Rolando S. Balotro, Xinyu Guo, Yasumasa Miyazawa. High Resolution Model of the Influence of Kuroshio along the Philippine Coast

〈Session : C2E Ecological and Socio-Economic Effects of Jellyfish Blooms〉

Chairs : Naoki Fujii

C2-24 (Keynote) Jennifer E. Purcell. Ecological and Socio-Economic Effects of Jellyfish Blooms.

C2-25 (Invited) Lene Friis Moller. Bioenergetics in *Aurelia aurita* and Selected Hydromedusae -Effects of Mass Occurrence Species in Limfjorden, Denmark.

C2-26 Naoki Fujii, Akiko Fukushima, Yuta Nanjo, Hidetaka Takeoka. Aggregations of *Aurelia aurita* in Uwa Sea, Japan.

〈Session : C2F Community and Population Ecology of Aquatic Organisms〉

Chairs : Kwang-Hyeon Chang, Hideyuki Doi, Yuichiro Nishibe

C2-27 (Invited) Matthew R. Helmus, Anthony R. Ives. Using Community Phylogenies to Understand Changes in Aquatic Ecosystems

C2-28 Jocelyn Behm, Anthony R. Ives, Janette W. Boughman. Can an Invasive Species Induce the Hybridization of Two Native Species?

C2-29 (Keynote) William B. Savidge, Richard A. Jahnke, James R. Nelson, Dana K. Savidge, George Voulgaris, Robert T. Short, Ann Gargett. Development of a Coastal Ocean Benthic Observatory to Study Sediment-Water Exchange Processes

C2-30 (Invited) Narayanasamy Rajendran, Kandasamy Kathiresan. Mangrove Forests and Environmental Changes.

C2-31 Tomohiro Komorita, Hiroaki Tsutsumi, Shigeru Montani, Yuri Inaba, Rumiko Kajihara, Seiichiro Shibamura, Toshiro Yamada. The Characteristics of Productivity on a Subarctic Shallow Water (Hichirippu Lagoon, Hokkaido) : Studies on the Seasonal Fluctuations of Environmental Factors and Macro-benthic Community.

C2-32 Yuichiro Nishibe, Yoshitsugu Koizumi, Hiroshi Ueda. Seasonal Changes in Mesozooplankton Community Structure in Relation to the Occurrence of Oceanic Water Intrusions in the Bungo Channel, Japan.

C2-33 Kwang-Hyeon Chang, Hideyuki Doi, Yuichiro Nishibe, Yumiko Obayashi, Takako Yamamoto, Mizuho Yoshihara, Mary Shime, Shin-ichi Nakano. Comparison of Zooplankton Communities of Coastal Marine Waters Receiving Different Human Activities (Fish and Pearl Oyster Farming).

C2-34 Hideyuki Doi, Kwang-Hyeon Chang, Yuichiro Nishibe, Yumiko Obayashi, Takako Yamamoto, Mizuho Yo-

shihara, Mary Shime, Shin-ichi Nakano. Attached Microalgae Contribution for the Planktonic Food Webs in the Bays with Fish and Pearl Oyster Farms.

(Poster Sessions)

- P-01 Daisuke Imaeda, Tatsuya Kunisue, Hisato Iwata, Oyuna Tsydenova, Shin Takahashi, Masao Amano, Evgeny A. Petrov, Valeriy B. Batoev, Shinsuke Tanabe. Accumulation Features and Temporal Trend of Dioxins and Related Compounds in Baikal Seal (*Pusa sibirica*).
- P-02 Mafumi Watanabe, Tatsuya Kunisue, Hisato Iwata, Shinsuke Tanabe. Contamination and Bioaccumulation Potencies of PCDDs, PCDFs and PCBs in Marine Mammals and Birds from the Northern Far East.
- P-03 Yoshimasa Konishi, Yukio Tanaka, Shinjiro Hori, Hiroshi Tada. Trends of Dioxin Contamination of Human Breast Milk -Effect of "Dioxin Special Measures Law" -
- P-04 Masayuki Someya, Masako Ohtake, Tatsuya Kunisue, Annamalai Subramanian, Paromita Chakraborty, Shinsuke Tanabe. Persistent Organochlorines in Human Breast Milk from the Open Dumping Site in Kolkata, India : Specific Residue of PCBs and Dioxin-like Compounds.
- P-05 Yoko Ochi, Natsuko Kajiwara, Tomohiko Isobe, Shin Takahashi, Masao Amano, Thijs Kuiken, Albert D. M. E. Osterhaus, Shinsuke Tanabe. Contamination Status and Specific Accumulation of Brominated Flame Retardants (BFRs) in Harbor Seal Collected during an Unusual Mortality Event in the North Sea in 2002.
- P-06 Kumiko Yoneda, Teruho Abe, Takuma Hashimoto, Yoshiaki Furuhashi, Shinsuke Tanabe, Tadasu Yamada. Effects of Age Factors in Accumulations of Organochlorine Compounds in Finless Porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) from the Coastal Waters of Japan.
- P-07 Nozomi Takayanagi, Tatsuya Kunisue, Tomohiko Isobe, Shin Takahashi, Keisuke Okumoto, Sumio Bushisue, Kazuyuki Shindo, Toshio Tsubota, Susumu Nakatsu, Shinsuke Tanabe. Contamination Status and Accumulation Features of Organohalogen Compounds in Raccoon Dogs (*Nyctereutes procyonoides*) from Japan.
- P-08 Kazuhiko Akutsu, Yukio Tanaka, Kazuichi Hayakawa. Analysis of Polybrominated Diphenyl Ethers in Japanese Mother' s Milk and Food Samples.
- P-09 Tomohiko Isobe, Yoko Ochi, Karri Ramu, Takahito Yamamoto, Shin Takahashi, Shinsuke Tanabe. Organochlorines and Brominated Flame Retardants in Striped Dolphins (*Stenella coeruleoalba*) Stranded in the Gogo-shima Island, Ehime, Japan
- P-10 Agus Sudaryanto, Oyuna V. Tsydenova, Natsuko Kajiwara, Tatsuya Kunisue, Hongxia Yu, Shinsuke Tanabe. Levels and Congener Specific Profiles of PBDE in Human Milk from Mothers Living in Nanjing and Zhouzan, China.
- P-11 Agus Sudaryanto, Natsuko Kajiwara, Philippus Hartono, Muawanah, Koji Omori, Arif Dwi Santoso, Iwan Eka Setiawan, Hidetaka Takeoka, Shinsuke Tanabe. Assessment of the Levels and Human Risk of Organohalogen Contaminants in Farmed Grouper from Indonesia.
- P-12 Agus Sudaryanto, Tomohiko Isobe, Tetsuro Agusa, Shin Takahashi, Hisato Iwata, Satoshi Nakamura, Alissara Reungsang, Kriengsak Srisuk, Satoshi Takizawa, Shinsuke Tanabe. Environmental Occurrence of Organochlorines and Brominated Flame Retardants in Sediments from Middle Mekong Basin.
- P-13 Govindan Malarvannan, Agus Sudaryanto, Tatsuya Kunisue, Tomohiko Isobe, Shin Takahashi, Maricar Prudente, Shinsuke Tanabe. Specific Accumulation of Organohalogen Compounds in Human Breast Milk from the Philippines : Levels, Distribution, Accumulation Kinetics and Infant Health Risk.
- P-14 Mayumi Ishizuka, Takumi Takasuga, Kurunthachalam Senthilkumar, Tsutomu Tanikawa, Shoichi Fujita. Accumulation of Chlorinated and Brominated Persistent Toxic Substances (PTS) and their Relationship to Toxicological Effects in Wild Rats in Japan.
- P-15 Oyuna V. Tsydenova, Agus Sudaryanto, Natsuko Kajiwara, Tatsuya Kunisue, Shin Takahashi, Valeriy B. Batoev, Shinsuke Tanabe. Human Exposure to Organohalogen Contaminants in Russia : Residues in Breast Milk and Food Items
- P-16 Chiho Matsudaira, Shin Takahashi, Akiko Furukawa, Yukari Taki, Shinsuke Tanabe. Contamination of Organotin Compounds in Finless Porpoises (*Neophocaena phocaenoides*) Stranded along Coastal Waters of Japan and Hong Kong.

5. 学会及び社会における活動

- P-17 Satoko Murata, Shin Takahashi, Tetsuro Agusa, Kurunthachalam Kannan, Shinsuke Tanabe. Contamination Status and Accumulation Profiles of Organotins in Southern Sea Otters (*Enhydra lutris nereis*) found Dead along California Coast
- P-18 Shin-ichi Yano, Shin Takahashi, Go Suzuki, Hidetaka Takigami, Kazutoshi Nose, Shin-ichi Sakai, Shinsuke Tanabe. Detection of Organotin Compounds in House and Office Dusts and Evaluation of Human Exposure.
- P-19 Fumie Adachi, Sokichi Takagi, Isao Watanabe. Occurrence of 1,4-Dioxane Contamination in the Water Source and Yodo River Zone in Osaka Prefecture, Japan.
- P-20 Ayumi Okamoto, Haruhiko Nakata. Accelerated Solvent Extraction of Veterinary Antibiotics and its Application to Environmental Matrices.
- P-21 Haruhiko Nakata, Hiroshi Sasaki, Yuki Ishimoto, Akira Takemura, Motoi Yoshioka, Shinsuke Tanabe, Kurunthachalam Kannan. Emerging Contaminants : Synthetic Musks in the Marine Environment.
- P-22 Sokichi Takagi, Fumie Adachi, Isao Watanabe, Kurunthachalam Kannan. Studies on Perfluorinated Compounds in the Suspended Solid and the Dissolved Phase in River Water.
- P-23 Momoe Akaishi, Yasumi Anan, Hitoshi Miyasaka, Junko Matsumoto, Kenichi Kusunoki, Tokutaka Ikemoto, Koji Omori, Shin Takahashi, Shinsuke Tanabe. Trace Elements Accumulation in Sharks Collected from Japanese Coastal Waters.
- P-24 Shinya Yasugi, Tokutaka Ikemoto, Tetsuro Agusa, Asami Iida, Yasumi Anan, Eun-Young Kim, Hisato Iwata, Thijs Kuiken, Albert D. M. E. Osterhaus, Shinsuke Tanabe. Accumulation of Trace Elements in Harbor Seal (*Phoca vitulina*) Stranded During the Mass Mortality Events in the North Sea, 2002.
- P-25 Kozue Takagi, Tetsuro Agusa, Yasumi Anan, Reiji Kubota, Shinsuke Tanabe. Arsenic Speciation in Green Turtles (*Chelonia mydas*) and Hawksbill Turtles (*Eretmochelys imbricata*).
- P-26 Tokutaka Ikemoto, Eun-Young Kim, Takashi Kunito, Hisato Iwata, Shinsuke Tanabe. Preliminary Study on Hg-Se Binding Protein in Hepatic Cytosol of Marine Animals.
- P-27 Hisashi Ninomiya, Katsuyuki Uno, Yoshiko Izumi, Heihachirou Aoki, Shin Takahashi, Shinsuke Tanabe. Distribution and Sources of Metals in Atmospheric Aerosol and Fallout Dust at Ehime, Japan.
- P-28 Izumi Watanabe, Katsuji Kuno. Heavy Metal Pollution of Japanese Terrestrial Environment.
- P-29 Nguyen Phuc Cam Tu, Nguyen Ngoc Ha, Tokutaka Ikemoto, Bui Cach Tuyen, Shinsuke Tanabe, Ichiro Takeuchi. Trace Element Accumulation in Macrobrachium rosenbergii (Decapoda : Palaemonidae) from South Vietnam
- P-30 Suguru Inoue, Tetsuro Agusa, Reiji Kubota, Takashi Kunito, Tu Binh Minh, Pham Thi Kim Trang, Pham Hung Viet, Nguyen Phuc Cam Tu, Bui Cach Tuyen, Alissara Reungsang, Kriengsak Srisuk, Satoshi Nakamura, Satoshi Takizawa, Chhoun Chamnan, Touch Seang Tana, Hisato Iwata, Shinsuke Tanabe. Arsenic Pollution in Groundwater in the Lower Mekong Basin.
- P-31 Yoshinari Suzuki, Izumi Watanabe, Tatsuo Oshida, Liang-Kong Lin, Yu-Huang Wang, Katsuji Kuno. Trace Elements Accumulation in the Formosan Squirrel Living in Taiwan : The Possibility Of Pollution Caused by Semiconductor Industries and Atmospheric Exposure.
- P-32 Saori Toyoshima, Shin Takahashi, Tokutaka Ikemoto, Tetsuro Agusa, Hitoshi Miyasaka, Koji Omori, Shuhei Nishida, Shinsuke Tanabe. Evaluation of Accumulation Properties of Trace Elements in a Deep-Sea Ecosystem of Sagami Bay, Japan by Using Stable Isotope Ratios ($\delta^{15}\text{N}$ and $\delta^{13}\text{C}$).
- P-33 Kozo Ueda, Shuji Hamano, Tsunehira Yamamoto, Shozo Umemura, Shinsuke Tanabe. Remediation of Dioxin-Contaminated Soil by Indirect Heating Process
- P-34 Erni Johan, Satoru Fukugaichi, Naoto Matsue, Teruo Henmi. Removal of Volatile Organic Compounds by Artificial Zeolites.
- P-35 Zaenal Abidin, Naoto Matsue, Henmi Teruo. Removal of Odorous Vapors by Their Adsorption on Allophane and Its Molecular Orbital Mechanism
- P-36 Zaenal Abidin, Satoru Fukugaichi, Naoto Matsue, Teruo Henmi. Effect of Exchangeable Cation Species on Acetaldehyde Gas Adsorption by Faujasite and its Molecular Orbital Mechanism.
- P-37 Manuel Ramiro Pastorinho, Trevor Telfer, Amadeu Soares. Amphipod Intersex and Latitude: a Metallic Perspective.
- P-38 Haruya Sakai, Yuji Kashima, Naomichi Matsumoto, Toshiko Yamada-Okabe. Effects of Environmental Endocrine Disrupters on Transcriptional Activity Mediated by Thyroid hormone Receptor.

- P-39 Michio X. Watanabe, Hisato Iwata, Eun-Young Kim, Stephanie P. Jones, Sean W. Kennedy. Effects of 2,3,7,8-Tetrachlorodibenzo-p-dioxin and Perfluorinated Compounds in Chicken Embryo Hepatocytes.
- P-40 Tomoko Suda, Eun-Young Kim, Hisato Iwata, Shinsuke Tanabe, Valeriy B. Batoev, Evgeny A. Petrov. Transactivation Analysis of Aryl Hydrocarbon Receptor (AHR) in Baikal seal (*Pusa sibirica*): Estimation of Species-specific Susceptibility to TCDD.
- P-41 Risa Kishizaki, Hisato Iwata, Eun-Young Kim, Shinsuke Tanabe. Interspecies Difference in Ligand Transactivation Potencies of Avian CXRs.
- P-42 Shusaku Hirakawa, Hisato Iwata, Eun-Young Kim, Shinsuke Tanabe, Nobuyuki Miyazaki, Evgeny A. Petrov. Analysis of CYP1A1/1A2 Transcriptional Regulatory Regions, and Their Hepatic mRNA Expressions Related to 2,3,7,8-TCDD Toxic Equivalent Levels in Baikal Seals.
- P-43 Hiroshi Ishibashi, Hisato Iwata, Eun-Young Kim, Lin Tao, Kurunthachalam Kannan, Shinsuke Tanabe, Nobuyuki Miyazaki, Valeriy B. Batoev, Evgeny A. Petrov. Accumulation of Perfluorinated Compounds and Effects on Peroxisome Proliferator-Activated Receptor α - Cytochrome P450 4A Signaling Pathway in Baikal Seal (*Pusa sibirica*).
- P-44 Yoshiyuki Sugishita, Mizuki Hirano, Kenichi Tsutsumi, S. M. A. Mobin, Kinya Kanai, Kazuma Yoshikoshi. Suspended Solid Containing Lipid Peroxides Causes Mass Mortalities of Cultured Japanese Pearl Oyster *Pinctada fucata martensii*.
- P-45 Masayuki Udaka, Tokutaka Ikemoto, Shin Takahashi, Shinsuke Tanabe. Concentration of Radionuclides (^{137}Cs and ^{40}K) in the Baikal Seal (*Pusa sibirica*)
- P-46 Yoshinori Ikenaka, Heesoo Eun, Masumi Ishizaka, Yuichi Miyabara. Metabolism of Pyrene by the Aquatic Crustacean, *Daphnia magna*: Identification of Pyrene Metabolites and its Detoxification Enzymes
- P-47 Andreia Cruz, Lisa Nonaka, Ana Domingos, Satoru Suzuki, Sonia Mendo. Tributyltin (TBT) Resistance Bacterium *Aeromonas veronii*: Isolation of TBT Resistance Gene (s) and Protein (s) Involved in the Resistance
- P-48 M. Habibur Rahman, Kentaro Q. Sakamoto, Satoru Suzuki. Occurrence of Tetracycline Resistance Gene tet (M) in Antarctic Adelie Penguin Feces
- P-49 Farzana Ashrafi Neela, Lisa Nonaka, Satoru Suzuki. Transfer of Tetracycline Resistance Gene tet (M) from Marine Environmental Bacteria to Human Enteric Bacteria
- P-50 Takako Yamamoto, Hiroyuki Ueno, Katano Toshiya, Shin-ichi Nakano. Food Linkages in a Microbial Food Web in a Coastal Sea
- P-51 Yoshizumi Nakagawa, Mitsuru Eguchi, Shigeru Miyashita. Warming of Water Temperature Changes Food Webs in a Rearing Tank of Fish Larvae
- P-52 Gentoku Nakase, Mitsuru Eguchi. Relationship between Changes in Bacterial Community Structures and Mortality of Fish Larvae in Rearing Waters.
- P-53 Kenichi Kanemata, Takashi Yoshikawa, Osamu Murata, Yoshihumi Sawada, Shigekazu Miyano, Tokihiko Okada, Mitsuru Eguchi. Organic Degradation Process in Different Microenvironments (Seawater, Sinking Particles and Bottom Sediments) in Aquaculture Areas.
- P-54 Teruki Amano, Ikuo Yoshinaga, Kentaro Okada, Yoshihiko Sako, Takao Yamagishi, Yuichi Suwa. Are Anaerobic Ammonium-Oxidizing (Anammox) Bacteria Responsible for Dinitrogen Gas Emission from Coastal Ecosystems of Japan?
- P-55 Bo-Kyung Lee, Toshiya Katano, Myung-Soo Han. Characterization of an Algicidal Bacterium, *Alteromonas* sp. Strain A14 and its Application to a Natural Bloom of *Cochlodinium polykrikoides*.
- P-56 Juyun Lee, Myung-Soo Han. Change of Blooming Pattern and Population Dynamics of Phytoplankton in Masan Bay, Korea
- P-57 Toshiya Katano, Juyun Lee, Myung-Soo Han. Cell Cycle Analysis of *Heterosigma akashiwo* using a Flow Cytometer after Tyramide Signal Amplification-Fluorescence in situ Hybridization
- P-58 Hiroyuki Imai, Maiko Kusaba, Kwang-Hyeon Chang, Shin-ichi Nakano. Physiological and Ecological Characterization of *Microcystis aeruginosa* and *M. wesenbergii* in Relation with Environmental Factors.
- P-59 Kenji Yoshino, Hitoshi Miyasaka, Yuji Kawamura, Motomi Genkai-Kato, Koji Omori, Hidetaka Takeoka. Food Web Analyses in Aki-Nada: Ecological Significance of Sand Banks in Coastal Waters.
- P-60 Koji Omori, Hitoshi Miyasaka, Jin Tsutsumi, Michinobu Kuwae, Motomi Genkai-Kato, Yo Miyake, Mikio Inoue, Hidetaka Takeoka. Analysis on the Effect of Terrestrial Ecosystems on Coastal Ecosystems.

5. 学会及び社会における活動

- P-61 Naoko Morimoto, Kazuhiko Sakai, Masayuki Nagao, Atsushi Suzuki. Terrestrial Input and Distribution of Nutrients on Coral Reefs around Yaeyama Islands, Japan
- P-62 Takahiro Kikuchi, Hidetaka Takeoka. Transport of Eggs and Larvae of the Japanese Anchovy, *Engraulis japonica*, by Residual Currents in Iyo-Nada, Seto Inland Sea.
- P-63 Takeshi Kohama, Shinya Nagano, Noboru Okuda, Hitoshi Miyasaka, Hidetaka Takeoka. Estimation of trophic level of *Aurelia aurita* using stable isotope ratios in Uwa Sea, Japan.
- P-64 Shinya Magome, Satoru Takahashi, Hidetaka Takeoka. Seasonal Dependence of Long-term Water Temperature Variability affecting Hypoxia and Jellyfish Bloom in Seto-Inland Sea.
- P-65 Qiang Wang, Xinyu Guo, Takeoka Hidetaka. A Numerical Study on the Seasonal Variation of the Yellow River Plume Path in the Bohai Sea
- P-66 Tomohiro Sekiguchi, Naoya Iwamoto, Takahiko Inoue, Ryo Ohira, Yuya Fukawa, Yoshio Inouchi. Bathymetry, Sediment Distribution and Flow Field in the Western Seto Inland Sea off Matsuyama, Southwest Japan
- P-67 Takahiko Inoue, Atsuko Amano, Naoya Iwamoto, Yoshio Inouchi. Volume Estimation of Clastic Materials Transported from Coastal Zone and Marine Geology in Miho Bay, Western Tottori Prefecture.
- P-68 Naoya Iwamoto, Yoshio Inouchi. Reconstruction of Millennial-Scale Variations in the East Asian Summer Monsoon over the Past 300 ka Based on the Total Carbon Content of Sediment from Lake Biwa, Japan
- P-69 Atsuko Amano, Naoya Iwamoto, Takahiko Inoue, Fujihiko Shioya, Yoshio Inouchi. Seafloor Environmental Changes Resulting from Nineteenth Century Reclamation in Mishou Bay, Ehime Prefecture, Southwest Japan
- P-70 Fujihiko Shioya, Takuya Mii, Naoya Iwamoto. Late Pleistocene to Holocene Temporal Variation of Sea Condition Offshore Matsuyama City.

8) 21世紀 COE プログラム「沿岸環境科学研究拠点最終成果報告会」

期日：平成19年3月29日(木)

会場：城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室

プログラム

司会：農学部教授	中野 伸一
愛媛大学長あいさつ	小松 正幸
COE の成果概要	田辺 信介
コアプロジェクト 1	座長：CMES 助教授 北村 真一
内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明	田辺 信介
生物環境試料バンクを活用した新規有害物質の汚染実態と推移の解明	高橋 真
環境汚染による野生生物の毒性影響の解明：反応・感受性の種差と新規バイオマーカーの探索	岩田 久人
動物モデルを用いた環境化学物質毒性のゲノム解析とモニタリングシステムの開発	能勢 真人
残留性有機汚染物質の輸送モデルの開発と東シナ海への応用	郭 新宇
安定同位体分析を用いた食物網解析の沿岸環境科学への応用	大森 浩二
環境汚染化学物質に対する微生物反応の解明	鈴木 聡
コアプロジェクト 2	座長：総合情報メディアセンター 村田健史、理工学研究科
地球環境変動による沿岸域生態系変動機構の解明と将来予測	武岡 英隆
豊後水道及び瀬戸内海の長期環境変動	武岡 英隆
沿岸海域環境の変動と浮遊生物食物網動態	中野 伸一
長周期地球環境変動と沿岸域生態系	奈良 正和
沿岸底質環境の変遷および底質環境修復過程	井内 美郎
陸域における人間活動の変遷が沿岸海洋環境に及ぼしてきた影響に関する研究	大森 浩二
海洋環境におけるテトラサイクリン耐性遺伝子の分布	野中 里佐
沿岸海洋での溶存態タンパク質の形成・分解過程	鈴木 聡
瀬戸内海、東シナ海、Chesapeake 湾の流動モデルと瀬戸内海の将来予測モデル	郭 新宇
閉会のあいさつ	田辺 信介

5. 4 学会、後援会などの開催（個人）

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 第12回日本バイオアッセイ研究会・環境毒性学会合同研究発表会，平成17年9月1日～2日，北里大学，東京，大会委員長

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 第4回岡崎国際生物学会議，Terra Microbiology 2，Session：Gene hopping among microbes．平成18年9月，岡崎，日本
- 2) メコン流域民のためのメコン研究国際会議（山梨大ほかと共同開催），平成18年10月，チェンライ，タイ
- 3) RR 国際水資源管理シンポジウム（東北大と共同主催），平成18年12月，バンコク，タイ

環境影響評価予測分野

大森 浩二

- 1) International Workshop on Mangrove Forests：Green Mangrove in Hanoi，ハノイ，ベトナム
- 2) 第50回日本生態学会中国四国地区会シンポジウム，平成18年5月20日～21日，愛媛大学，松山
- 3) 日本生態学会第54回大会，平成19年3月19日～23日，愛媛大学，松山，実行委員長
- 4) 日本生態学会第54回大会 公募シンポジウム「流域保全：大規模な止水域が流域環境に与える影響解析」，平成19年3月19日～23日，愛媛大学，松山
- 5) 第10回日本生態学会公開講演会「地球生態系の現在と未来 —21世紀 COE4拠点の成果から—」，平成19年3月23日，愛媛大学，松山，企画責任者

5. 5 学会賞等

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介：日本環境化学会環境化学論文賞，平成18年6月

生態毒性解析分野

- 1) 仲山 慶：第12回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞，平成18年9月
- 2) 安井 知子：International Symposium 2006 Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes，Best Presentation Award，平成18年11月

環境影響評価予測分野

- 1) 芦田 貴史：日本地質学会四国支部大会，優秀講演賞
- 2) 岩本 直哉：日本第四紀学会論文賞
- 3) 碓 雄太：日本地質学会，優秀講演賞

6. 国際的活動

6. 1 国際研究プロジェクト

環境動態解析分野

郭 新宇

- 1) 平成17年～平成20年, 東シナ海における生態系変動に関する研究, 中国・華東師範大学
- 2) 平成17年～平成18年, 風による Chesapeake Bay における河口循環流の挙動に関する研究, University of Florida

生態環境計測分野

田辺 信介・高橋 真

- 1) 平成15年～平成18年, 有害物質によるメコン川流域の汚染と影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局、ベトナム・ハノイ大学等
- 2) 平成16年～平成18年, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局、インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 3) 平成16年～, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科), ベトナム・ハノイ大学等
- 4) 平成14年～, 21世紀 COE 国際共同研究—オランダ沿岸におけるアザラシの大量へい死と有害物質の汚染および影響に関する環境毒性学的研究, オランダ・エラスムス大学
- 5) 平成15年～, 内分泌攪乱物質による野生生物およびヒトの汚染と毒性影響に関する研究, 中国・香港城市大学
- 6) 平成15年～, 内分泌攪乱物質によるバイカルアザラシの汚染とその蓄積特性および影響評価に関する研究, ロシア・バイカル自然保護研究所
- 7) 平成15年～, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 8) 平成16年～, POPs, PBDEs 等による母乳汚染の実態解明, 中国・南京大学
- 9) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 10) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるアジアの広域大気汚染とその動態に関する研究, 中国・広州地球化学研究所および英国・ランカスター大学
- 11) 平成18年～, アジア地域の有機フッ素化合物汚染, 米国 ニューヨーク州立大学アルバニー校

生態毒性解析分野

岩田 久人

- 1) 平成17年～, 野生鳥類のシトクローム P450の進化と機能に関する研究, 米国 ウッズホール海洋研究所
- 2) 平成17年～, 化学物質が野生鳥類の遺伝子発現プロファイルに及ぼす影響, カナダ Environment Canada, National Wildlife Research Centre
- 3) 平成16年～, 野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究, 米国 ニューヨーク州立大学
- 4) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center

金 恩英

- 1) 平成15年～, 野生鳥類のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究, 米国 ウッズホール海洋研究所

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 平成13年4月～平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (北海道大学大学院水産科学研究院), 韓国, 釜慶大学, 全南大学等
- 2) 平成13年4月～平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (東京大学海洋研究所), フィリピン等5カ国, 東南アジア水産開発研究センター
- 3) 平成14年4月～, 有機スズ分解細菌に関する研究, インドゴア大学およびポルトガルアベイロ大学
- 4) 平成15年4月～, ビルナウイルスの比較研究, ハワイ州立大学海洋生物学研究所およびオレゴン州立大学ハットフィールド海洋センター
- 5) 平成15年7月～, 有機スズおよび薬剤耐性菌のメコン流域における分布調査, ベトナム, ハノイ国立大学, ノンラム大学およびタイ, コンケン大学

北村 真一

- 1) 平成18年9月～, 魚類感染症の発症メカニズムに関する研究, 韓国国立全南大学校水産生命医学科

金本自由生

- 1) 平成6年度～18年度, 日本産ウミヒルモ類の研究, ウェスタンオーストラリア大学・電顕センター

6. 2 在外研究等

環境影響評価予測分野

宮坂 仁

- 1) 平成18年12月～19年2月, 共同研究交流, カンタベリー大学, ニュージーランド

加藤 元海

- 1) 平成18年6月～8月, 共同研究交流, デンマーク国立環境研究所, デンマーク

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析分野

郭 新宇

- 1) 平成18年4月12日～19日, 渤海の海洋調査の打ち合わせと現地視察, 中国青島大学と東営市
- 2) 平成18年9月18日～24日, 13th International Biennial Conference on Physics of Estuaries and Coastal Seas で発表, Astoria, USA, September 19-22.
- 3) 平成18年10月29日～11月5日, University of Florida (Gainesville, Florida, USA) を訪問, 風による Chesapeake Bay における河口循環流の挙動に関する研究打ち合わせ
- 4) 平成18年12月23日～30日, 中国海洋大学 (青島市) を訪問, 渤海における生態系変動に関する研究打ち合わせ

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成18年4月1日～平成18年4月4日, POPs および POPs 候補物質によるアジアの広域大気汚染とその動態に関する研究の打合せおよびセミナーで招待講演, Guangzhou Institute of Geochemistry, Guanzhou, China.
- 2) 平成18年8月19日～平成17年8月26日, 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants で講演, Oslo, Norway.
- 3) 平成18年9月10日～平成18年9月16日, 232nd American Chemical society National Meeting & Exposition に組織委員として参加, San Francisco, CA, USA.
- 4) 平成18年11月6日～平成18年11月8日, UNU International Symposium on Persistent Organic Pollutants (POPs) で基調講演, University of Philippines, Quezon City, Philippines.

6. 国際的活動

- 5) 平成18年12月2日～平成18年12月9日, バンガロールおよびチェンナイの電子・電気機器廃棄物に関する環境汚染調査, Annamalai University, Chennai, India.

Annamalai Subramanian

- 1) 平成18年4月1日～平成18年4月4日, POPs および POPs 候補物質によるアジアの広域大気汚染とその動態に関する研究の打合せおよびセミナーで招待講演, Guangzhou Institute of Geochemistry, Guanzhou, China.
- 2) 平成18年9月16日～平成18年9月16日, 232nd American Chemical society National Meeting & Exposition で講演, San Francisco, CA, USA.
- 3) 平成18年12月2日～平成19年1月1日, バンガロールおよびチェンナイの電子・電気機器廃棄物に関する環境汚染調査, Annamalai University, Chennai, India.

高菅 卓三

- 1) 平成18年8月19日～平成17年8月26日, 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants で発表, Oslo, Norway.
- 2) 平成18年8月29日, Japan - Sweden scientific workshop, Assessing halogenated chemicals in the environment -analysis, occurrence, distribution and exposure で講演, MTM research center, Orebro university, Sweden.
- 3) 平成18年9月14～18日, 2006 China Japan Korea Symposium on environmental analytical chemistry で講演 Changqing, China.

高橋 真

- 1) 平成18年8月19日～平成17年8月26日, 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants で講演, Oslo, Norway.
- 2) 平成18年9月10日～平成18年9月16日, 232nd American Chemical society National Meeting & Exposition で講演, San Francisco, CA, USA.
- 3) 平成18年12月2日～平成18年12月11日, バンガロールおよびチェンナイの電子・電気機器廃棄物に関する環境汚染調査, Annamalai University, Chennai, India.

Tu Binh Minh

- 1) 平成18年11月22日～平成18年11月29日, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmentak Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科) による有害物質汚染調査, Nong Lam University, Hochiminh City, Vietnam.

国末 達也

- 1) 平成18年8月19日～平成17年8月26日, 26th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants で講演, Oslo, Norway.

磯部 友彦

- 1) 平成18年9月10日～平成18年9月16日, 232nd American Chemical society National Meeting & Exposition で講演, San Francisco, CA, USA.

Agus Sudaryanto

- 1) 平成18年9月10日～平成18年9月16日, 232nd American Chemical society National Meeting & Exposition で講演, San Francisco, CA, USA.

染矢 雅之

- 1) 平成18年11月22日～平成18年11月29日, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmentak Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科) による有害物質汚染調査, Nong Lam University, Hochiminh City, Vietnam.

生態毒性解析分野

岩田 久人

- 1) 平成18年10月17日～21日, International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong で講演, Chiang Rai, Thailand.
- 2) 平成18年12月6日～9日, 3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed で講演, Bangkok, Thailand

阿草 哲郎

- 1) 平成18年11月22日～29日, 海外調査, Ho Chi Minh, Vietnam.

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 平成18年10月, メコン流域民のためのメコン研究, チェンライ, タイ
- 2) 平成18年11月, メコン川養殖場における薬剤耐性菌調査, ホーチミン, ベトナム
- 3) 平成18年12月, 第3回東南アジア水資源管理国際シンポジウム, バンコク, タイ
- 4) 平成19年1月, ベトナムの養殖場, 養豚場, 都市運河における薬剤耐性菌調査, ハノイ, ベトナム

北村 真一

- 1) 平成18年12月, 共同研究交流, 国立全南大学校, 韓国
- 2) 平成19年1月, ベトナムの養殖場, 養豚場, 都市運河における薬剤耐性菌調査, ハノイ, ベトナム

6. 4 外国人客員研究員等

環境動態解析分野分野

- 1) 石 睿, 平成18年7月22日～平成18年12月31日, 瀬戸内海の領域気象モデルの構築

生態環境計測分野

- 1) Dr. Xian Qiming, 中国・南京大学・環境科学院, 平成18年7月1日～平成18年9月29日, 中国沿岸域における有機ハロゲン化合物の汚染に関する共同研究
- 2) Ms. Ana Catarina Almeida Sousa, Aveiro University, Portugal, 平成18年9月21日～平成18年12月19日, 有害物質によるポルトガルの沿岸海洋汚染に関する共同研究

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) Andreia Cruz, 平成18年4月2日～平成18年6月28日, 有機スズ分解菌に関する研究

6. 5 海外からの訪問者

生態環境計測分野

- 1) Ms. Tu Thi Cam Loan, Institute for Environment and Resources, Vietnam National University - HCMC, 平成18年5月14日～平成18年6月4日, CMES 視察, 情報収集、有機スズ化合物の分析法習得
- 2) Prof. Jian Yang, Freshwater Fisheries Research Center, The Chinese Academy of Fisheries Sciences, China, 平成18年9月25日, 有害物質の水圏汚染に関する研究打合せおよび情報交換
- 3) Prof. Li Chunhou (Director), Division of Science and Technology, South China Sea Fisheries Research Institute, CAFS, China, 平成18年9月25日, 有害物質の水圏汚染に関する研究打合せおよび情報交換
- 4) Prof. Zhang Hanhua, Aquaculture Department, South China Sea Fisheries Research Institute, CAFS, China, 平成18年9月25日, 有害物質の水圏汚染に関する研究打合せおよび情報交換

6. 国際的活動

- 5) Dr. Jia Xiaoping, South China Sea Fisheries Research Institute, CAFS, China, 平成18年9月25日, 有害物質の水圏汚染に関する研究打合せおよび情報交換

生態系解析分野

- 1) Prof. Jo-Ann C. Leong, 米国ハワイ大学海洋生物研究所, 平成18年10月16日～10月18日, CMES 視察および情報収集
- 2) Prof. Sonia Mendo, ポルトガル, アヴェイロ大学生物学科, 平成18年11月16日～20日, 有機スズ耐性菌に関する共同研究
- 3) Prof. Alissara Reungsang, タイ, コンケン大学生物工学科, 平成18年11月16日～11月20日, 薬剤耐性菌に関する共同研究

環境影響評価予測分野

- 1) Dr. N. Rajendran, Annamalai University, India.

6. 6 招聘研究員

環境動態解析分野

- 1) Prof. Tangdong Qu, International Pacific Research Center, University of Hawaii, 平成18年6月6～7月3, 太平洋における西岸境界流とその下流域への影響に関する研究, 日本学術振興会外国人招へい研究者 (短期), 受入研究者 (郭新宇)

生態環境計測分野

- 1) Prof. Pham Hung Viet (Director of CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成18年10月5日～平成18年10月8日, 有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究打合せおよび学術交流協定の締結, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科)
- 2) Prof. Tran Bghi (Vice-Rector), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成18年10月5日～平成18年10月8日, 有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究打合せおよび学術交流協定の締結, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科)
- 3) Prof. Mai Trong Nhuan (Vice-President), Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成18年10月5日～平成18年10月8日, 有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究打合せおよび学術交流協定の締結, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科)
- 4) Ms. Nguyen Ngoc Thuy, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成19年3月19日～平成19年3月30日, 有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究打合せおよび分析法の習得, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科)
- 5) Ms. Nguyen Thi Minh Hue, Department of Analytical Chemistry, Faculty of Chemistry, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成19年3月19日～平成19年3月30日, 有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究打合せおよび分析法の習得, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科)
- 6) Ms. Nguyen Thi Mui, Department of Human Resource Management, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成19年3月19日～平成19年3月30日, 有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究打合せおよび分析法の習得, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流 (大阪大学大学院工学研究科)

国際シンポジウム「International Symposium 2006, Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes」のための招聘者

- 1) M. Jake Vander Zanden, Center for Limnology, University of Wisconsin
- 2) Mehran Alaei, Water Science and Technology Directorate, Environment Canada
- 3) Seung Min Oh, College of Pharmacy, Sungkyunkwan University

- 4) David L. Kirchman, College of Marine and Earth Studies, University of Delaware
- 5) Nikolaus Gantner, Department of Environmental Biology, University of Guelph
- 6) Louis J. Guillette Jr., Department of Zoology, University of Florida
- 7) Ruth D. Gates, Hawaii Institute of Marine Biology, University of Hawaii
- 8) Sean W. Kennedy, National Wildlife Research Center, Environment Canada
- 9) William B. Savidge, Skidaway Institute of Oceanography, University of Georgia
- 10) Dana K. Savidge, Skidaway Institute of Oceanography, University of Georgia
- 11) Rosalinda Gioia, Environmental Science Department Lancaster University
- 12) Hai-rong Cheng, State Key Laboratory of Organic Geochemistry, Guangzhou Institute of Geochemistry
- 13) Matthew J. Church, School of Ocean and Earth Science and Technology, University of Hawaii
- 14) Jennifer E. Purcell, Shannon Point Marine Center, Western Washington University
- 15) Bruce Finney, Institute of Marine Science, University of Alaska Fairbanks
- 16) Sergi Pla, Department of Geography, Loughborough University
- 17) Kevin A. Francesconi, Institute of Chemistry-Analytical Chemistry, Karl-Franzens University Graz
- 18) Darren L. Bade, Institute of Ecosystem Studies
- 19) Jessica A. Head, National Wildlife Research Center, Environment Canada
- 20) Matthew R. Helmus, Department of Zoology, University of Wisconsin
- 21) Lene Friis Moller, Marine Biological Research Center, University of Southern Denmark
- 22) Narayanasamy Rajendran, Center of Advanced Study in Marine Biology, Annamalai University
- 23) James Chung Wah Lam, Center for Coastal Pollution and Conservation and The Center for Marine Environmental Research and Innovative Technology, Department of Biology and Chemistry, City University of Hong Kong
- 24) Alissara Reungsang, Department of Biotechnology, Faculty of Technology, Khon Kaen University
- 25) Kurunthachalam Kannan, Wadsworth Center, New York State Department of Health and Environmental Health Sciences, State University of New York at Albany
- 26) Lin Tao, Wadsworth Center, New York State Department of Health, Department of Environmental Health Sciences, School of Public Health, State University of New York at Albany
- 27) Zhe Liu, State Key Laboratory of Estuarine and Coastal Research, East China Normal University

6. 7 留学生

環境動態解析分野

- 1) 王強, 大学院理工学研究科博士後期過程, 私費, 渤海における流動構造と生態系変動に関する研究, 中国

生態環境計測分野

- 1) Karri Ramu, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination of Persistent Organic Pollutants in Stranded Small Cetaceans from Hong Kong Coastal Waters (有機臭素系難燃剤によるアジア途上国の海洋汚染), インド (平成18年3月まで)
- 2) Oyuna Tsydenova, 大学院農学研究科修士課程, 世界銀行, Contamination Status and Accumulation Features of Organohalogen Compounds in the Human Breast Milk from Russia (ロシアのヒト母乳中における有機ハロゲン化合物の汚染とその蓄積特性), ロシア (平成18年3月まで)
- 3) Govindan Malarvannan, 大学院農学研究科修士課程, 国費, POPs in Human Breast Milk from Philippines (残留性有機汚染物質および臭素系難燃剤によるフィリピンの母乳汚染), インド (平成19年9月まで)
- 4) Gnanasekaran Devanathan, 大学院農学研究科修士課程, 国費, POPs in Human Breast Milk from India (残留性有機汚染物質および臭素系難燃剤によるインドの母乳汚染), インド (平成20年9月まで)

生態毒性解析分野

- 1) Lee Jin-Seon, 大学院農学研究科博士課程, 国費, *in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を用いた鳥類 AHR-CYP1A シグナル伝達系の解析, *in vitro* レポーター遺伝子アッセイを用いたカワウ Arnt アイソフォームの機能解析, 韓国

6. 国際的活動

- 2) Nam Dong-Ha, PD, 日本学術振興会外国人特別研究員, 野生鳥類のメタロチオネインを利用した重金属汚染のリスク評価に関する研究, 韓国

生態系解析分野

- 1) Farzana Ashrafi Neela, 理工学研究科博士課程, 私費, 沿岸環境由来細菌から他細菌への薬剤耐性遺伝子の水平伝播, バングラデシュ
- 2) Phan Hoa Thi Phuong, 連合農学研究科博士課程, 私費, ベトナム養殖場における薬剤耐性菌の分布と伝播, ベトナム

7. 教育活動

7. 1 所属学生および研究テーマ (2007年度)

環境動態解析分野

工学部 4回生

- 1) 鰻目 翔太：伊予灘における基礎生産の長期動態について
- 2) 岡田 修平：重信川河口干潟にアサリの個体群動態
- 3) 杉原 法明：夏季伊予灘における低次生態構造に関する研究
- 4) 杉本 忠敬：ミズクラゲの遊泳特性に関する研究
- 5) 高須賀俊信：マイワシ・カタクチワシの鱗の重金属分析による回遊海域の海洋環境の復元
- 6) 前田 大介：珪藻群集から示唆される別府湾における過去1500年間における外洋起源栄養塩供給の長期変動
- 7) 宮井久視子：宇和海沿岸域におけるミズクラゲプラヌラ幼生の出現に関する研究

理工学研究科 博士前期課程

1回生

- 1) 石田 慎吾：堆積魚鱗の炭素安定同位体比を用いたカタクチワシ別府湾来遊群の主要索餌場と海洋環境の推定
- 2) 大山 淳一：ミズクラゲの鉛直分布調査法開発に関する研究
- 3) 兒玉 英美：伊予灘における底部冷水と栄養塩環境に関する研究

2回生

- 1) 大井 美沙：宇和海沿岸生態系における一次生産者の安定同位体比および基礎生産に関する研究
- 2) 棚内 康浩：伊予灘における低次生態系に関する研究
- 3) 南條 悠太：宇和海沿岸域におけるミズクラゲの集群形成メカニズムに関する研究
- 4) 三好 慶典：大阪湾における過去100年間の植物プランクトン群集の変遷に関する研究

理工学研究科 博士後期課程

- 1) 王 強：渤海における流動構造と生態系変動に関する研究
- 2) 石 睿：東アジアにおける残留性有機汚染物質の輸送の数値シミュレーション

生態環境計測分野

農学部 4回生

- 1) 江口 哲史：アジア途上国の土壌試料を対象とした有機ハロゲン化合物の調査
- 2) 忍穂井智子：東北沖深海生態系における有機塩素化合物汚染の実態解明
- 3) 小田 裕子：愛媛県在住者の HBCDs 汚染
- 4) 早瀬 大祐：相模湾の深海生態系における有機ヒ素化合物の蓄積特性
- 5) 藤田 健吾：ダイオキシン類によるロシアバイカル湖周辺在住者の母乳汚染

理学部 4回生

- 1) 塩崎 彬：底質および魚類を用いたアジア沿岸域におけるダイオキシン類汚染の実態解明
- 2) 水川 葉子：カワウにおける有機スズ化合物の汚染実態と蓄積特性

7. 教育活動

農学研究科 修士課程

1回生

- 1) Devanathan Gnanasekaran：有機塩素化合物によるインドの母乳汚染
- 2) Nguyen Ngoc Ha：アジア途上国の廃棄物処理・循環過程における微量元素汚染
- 3) 豊島 沙織：相模湾の深海生態系における微量元素および有機ハロゲン化合物の汚染とその食物連鎖機構の解明
- 4) 村田 仁子：海棲哺乳類血中に残留する水酸化 PCBs の同定と分析法の開発

2回生

- 1) 明石 百恵：愛媛県沿岸のサメ類におけるヒ素化合物蓄積蓄積の解明
- 2) 越智 陽子：鰭脚類における有機ハロゲン化合物の汚染実態と体内挙動
- 3) Govindan Malarvannan：有機ハロゲン化合物によるフィリピンのヒト母乳および食品汚染
- 4) 松平 知帆：スナメリにおける有機スズ化合物および有機ハロゲン化合物の汚染実態と蓄積特性
- 5) 矢野 真一：カワウにおける PCBs・PBDEs の生物濃縮と母子間移行

理工学研究科 博士後期課程

1回生

- 1) 寺内 秀典：アジア太平洋地域における有機ハロゲン化合物の汚染実態とその生態リスク評価
- 2) 染矢 雅之：アジア地域におけるダイオキシン類汚染の実態解明に関する研究

2回生

- 1) 宇高 真行：低レベル放射能測定技術の開発とバイカルアザラシにおける放射性核種の蓄積に関する研究
- 2) 今枝 大輔：バイカルアザラシにおけるダイオキシン類の蓄積特性と汚染の経年変化

3回生

- 1) 米田久美子：日本の野生動物における化学物質蓄積動態に関する研究

生態毒性解析分野

農学部 4回生

- 1) 岩淵 康平：鳥類2nd AHR1のクローニングと機能解析
- 2) 山口 恵佑：*in vitro* 発現させたバイカルアザラシ CYP1A1・CYP1A2の機能解析

理学部 4回生

- 1) 飯田 緑：マダイ胚における TCDD 曝露のアクアポリン遺伝子発現への影響、*in vitro* レポーター遺伝子アッセイを用いたマダイ AHR アイソフォームの機能解析

農学研究科 修士課程

1回生

- 1) 井上奈緒美：*in vitro* レポーター遺伝子アッセイを用いたカラス AHR アイソフォームの機能解析
- 2) 長浜 惟真：鳥類胚発生に対する TCDD の影響
- 3) 能丸 幸治：遺伝子導入マウスを用いた鳥類 AHR2の機能解析

2回生

- 1) 岸崎 理紗：ニワトリ初代培養肝細胞を用いた化学物質による CXR-CYP2/3シグナル伝達系への影響評価

連合農学研究科 博士課程

2回生

- 1) Lee Jin-Seon：*in vitro* レポーター遺伝子アッセイ系を用いた鳥類 AHR-CYP1A シグナル伝達系の解析、*in vitro* レポーター遺伝子アッセイを用いたカワウ Arnt アイソフォームの機能解析
- 2) 平川 周作：バイカルアザラシのオリゴアレイを用いた化学物質曝露に反応する遺伝子の探索およびそのパ

スウェーデン解析

生態系解析分野

理学部4回生

- 1) 犬伏 歩：松山周辺の河川水および沿岸海水中における緑膿菌の動態
- 2) 太田 翔：C重油のヒラメ免疫系に及ぼす影響
- 3) 片村 哲文：メバル3タイプの生態学的研究
- 4) 加藤 寛子：PCBのメダカ神経系および免疫系に及ぼす影響
- 5) 北本 圭一：動物園動物の環境エンリッチメントに関する研究
- 6) 香西 晶子：ヒラメの体表粘液中のマイクロフローラの生態学的研究
- 7) 佐々木杏子：ヒラメスクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* の抗原性に関する研究
- 8) 陌間 隆：ウイルス性出血性敗血症ウイルスのワクチン開発
- 9) 松末 南：瀬戸内海産ナメクジウオの生態学的研究
- 10) 本川 祥吾：耳石形態からみたカサゴの生態学的研究
- 11) 矢澤 聡：四国産海草ウミヒルモ類の分類学的再検討

農学部4回生

- 1) 乾 祥子：河川・海洋堆積物からのフミン酸分解好気性細菌の探索
- 2) 久保田 諭：細菌の有機スズ耐性機構の生化学的研究

理工学研究科博士前期課程

2回生

- 1) 上岡なほみ：細菌由来タンパク質の海水中での溶存態への変遷過程

1回生

- 1) 大西 寛二：宇和海における *Megalocytivirus* の感染環解明

理工学研究科博士後期課程

3回生

- 1) 稲葉 愛美：海洋環境および宿主中におけるマリンビルナウイルスの動態

3回生

- 1) Farzana A. Neela：沿岸海洋環境由来細菌における薬剤耐性遺伝子の保有状況およびその伝播

農学研究科修士課程

2回生

- 1) 大嶺 杏奈：インドシナの養殖場における薬剤耐性菌の種多様性

連合農学研究科

1回生

- 1) Phan Hoa Thi Puong：ベトナム水圏環境における薬剤耐性菌の分布と伝達
- 2) 福島 江：細菌の有機スズ暴露に対する生化学的応答の研究

環境影響評価予測分野

理学部 4回生

- 1) 相澤 育美：生物源シリカ濃度からみた琵琶湖の気候変動
- 2) 岩本はるか：堆積物密度からみた琵琶湖の気候変動
- 3) 角田 絵理：野尻湖周辺地域のテフラ年代
- 4) 樋口 衡平：琵琶湖湖底表層堆積物の粒度分布
- 5) 上原 康裕：愛媛県東温市山之内における和泉層群下部の堆積学的検討
- 6) 山口 浩司：愛媛県肱川河口沖におけるバイオクラストの特徴とその意義

7. 教育活動

- 7) 山須由香里：四国南西部に分布する中新統竜串層のシーケンス層序とイベント堆積物
- 8) 豊島 沙織：安定同位体を用いた相模湾深海生態系の解析と微量元素の蓄積特性
- 9) 田中 太：重信川流域からの物質負荷について

理工学研究科 博士前期課程

- 1) 芦田 貴史：琵琶湖の音波探査記録およびボーリングコアから復元された過去約5万年間の湖水面変動史
- 2) 渡部 遼：琵琶湖湖底表層堆積物の粒子密度に記録された気象要素の検討
- 3) 碓 雄太：高知県室戸半島に分布する古第三系の堆積学と生痕学
- 4) 秋山 紘胤：愛媛県西条市加茂川エスチャリーにおける潮汐低地の堆積相とその動態
- 5) 松濤 一平：砥部川流域における土地利用と魚類の食性との関係

理工学研究科 博士後期課程

- 1) 天野 敦子：宇和海御荘湾における堆積物分布と環境変遷史
- 2) 岩本 直哉：琵琶湖湖底堆積物の物性変化に基づく地球規模環境変遷史
- 3) 塩屋 藤彦：音波探査記録による重信川河口部の地史

7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目 (2006年度)

環境動態解析分野

卒業論文

- 1) 石田 慎悟：別府湾堆積物中の有機物の起源に関する地球化学的研究
- 2) 太田 宏：伊予灘における動物プランクトンの分布と季節変化に関する研究
- 3) 大山 淳一：水中カメラと魚探を用いたミズクラゲ現存量推定法に関する研究
- 4) 小池 将洋：別府湾堆積物を用いた過去1000年間の環境及び生態系変動に関する研究
- 5) 兒玉 芙美：伊予灘における底部冷水と栄養塩環境に関する研究
- 6) 菅原 康之：瀬戸内海における10日から20日周期の水位変動に関する研究
- 7) 本田 耕平：法華津湾におけるミズクラゲの遊泳特性に関する研究

生態環境計測分野

卒業論文

- 1) 村田 仁子：Contamination Status and Accumulation Profiles of Organotins in Southern Sea Otters (*Enhydra lutris nereis*) in Found Dead along California Coast (カリフォルニア沿岸に死亡漂着したラッコの有機スズ化合物汚染とその蓄積特性)
- 2) 安木 進也：北海で大量死したゼニガタアザラシの微量元素蓄積に関する環境化学的研究
- 3) 田村 裕貴：有機ハロゲン化合物による深海生態系の汚染と窒素・炭素安定同位体比を用いたその蓄積挙動の解析

修士論文

- 1) 高柳 望：有機ハロゲン化合物汚染による日本のヒトおよび陸棲哺乳動物の汚染とその蓄積特性
- 2) 野田創太郎：ポリ臭素化ジフェニールエーテル (PBDEs) によるアジア途上国の土壤汚染

博士論文

- 1) Karri Ramu : Contamination, Distribution and Temporal Trends of Organohalogen Compounds in the Marine Environment of Asia (アジアの海洋環境における有機ハロゲン化合物汚染の実態、分布特性および経年変化に関する研究)
- 2) 酒井 大樹：環境汚染物質による水棲哺乳類の核内受容体 CAR-シグナル伝達系への影響
- 3) 上田 浩三：残留性有機汚染物質の加熱無害化処理に関する研究
- 4) 安井 知子：Study on the Evolutionary History and Functional Characterization of Avian Aryl Hydrocarbon Receptor

Isoforms, AhR1 and AhR2 (鳥類 aryl hydrocarbon receptor アイソフォーム (AhR1・AhR2) の進化および機能特性に関する研究)

生態毒性解析分野

卒業論文

- 1) 井上奈緒美：ハシブトガラス AhRs とダイオキシン類の相互作用の解明
- 2) 松本 亨昌：マダイ AHR の機能解析と TCDD 暴露による浮腫形成メカニズムの解明

修士論文

- 1) 須田 智子：バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) における AHR (Aryl Hydrocarbon Receptor) 転写活性化能の解析：ダイオキシン類に対する感受性評価の試み
- 2) 竹下 陽子：バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) チトクローム P450 1B1 の分子特性

博士論文

- 1) 酒井 大樹：環境汚染物質による水棲哺乳類の核内受容体 CAR シグナル伝達系への影響

生態系解析分野

卒業論文

- 1) 王 婉琳：瀬戸内海におけるナメクジウオの生態学的研究
- 2) 大西 寛二：瀬戸内海におけるカサゴの生活深度別に見た成長
- 3) 桑名七奈子：魚類の成長に伴う鱗相の変化
- 4) 中村 文彦：伊予長浜沖の海砂採取の海域におけるベントス調査
- 5) 前田 洋：メバル3タイプ間の形態的・生態的特長の差異
- 6) 丸山 恵理：伊予灘産仔稚魚の層別分布の解析
- 7) 長浜 惟真：海洋性のテトラサイクリン (TC) 耐性菌からヒト腸内細菌への TC 耐性遺伝子 *tet* (M) の伝達
- 8) 浜内 美幸：新規有機スズ耐性遺伝子の解析

修士論文

- 1) 山本 雅之：逆浸透膜を用いた海水淡水化工程におけるバイオフィーム形成細菌に関する研究
- 2) 伊知地 稔：砂底質環境における無機態窒素と細菌群集の変化及び亜硝酸還元酵素遺伝子定量の試み
- 3) 浜岡 一弘：異なる塩濃度下で培養した *Pseudomonas aeruginosa* の膜タンパク質の解析

環境影響評価予測分野

卒業論文

- 1) 相澤 育美：琵琶湖湖底表層堆積物の生物源シリカ濃度と気象観測データの対応
- 2) 岩本はるか：琵琶湖湖底表層堆積物の物理量変化と気象観測データとの対応
- 3) 角田 絵理：長野県野尻湖西部池尻川低地の10m コアにおけるテフラとその推定年代
- 4) 樋口 衡平：琵琶湖湖底表層堆積物の粒度組成と分布様式
- 5) 上原 康裕：愛媛県東温市山之内における和泉層群下部の堆積学的検討
- 6) 山口 浩司：愛媛県肱川河口沖におけるバイオクラストの特徴とその意義
- 7) 山須由香里：四国南西部に分布する中新統竜串層のシーケンス層序とイベント堆積物
- 8) 豊島 沙織：安定同位体を用いた相模湾深海生態系の解析と微量元素の蓄積特性
- 9) 田中 太：重信川流域からの物質負荷について

修士論文

- 1) 碓 雄太：高知県室戸半島に分布する古第三系の堆積学と生痕学
- 2) 秋山 紘胤：愛媛県西条市加茂川エスチャーリーにおける潮汐低地の堆積相とその動態
- 3) 松濤 一平：砥部川流域における土地利用と魚類の食性との関係

博士論文

- 1) 天野 敦子：歴史時代の干拓が海底環境におよぼした影響－愛媛県南部御荘湾の例－
- 2) 岩本 直哉：琵琶湖湖底堆積物からみた過去30万年間における千年スケールの東アジア夏季モンスーン変動
- 3) 塩屋 藤彦：Late Pleistocene to Holocene variation in sea conditions within the Seto Inland Sea, offshore Matsuyama City, Japan

7. 3 講義・集中講義

環境動態解析分野

講義

武岡 英隆

- 1) 平成18年度前期, 環境学概論, 愛媛大学工学部
- 2) 平成18年度前期, 環境科学セミナーⅠ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成18年度前期, 環境科学セミナーⅢ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成18年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 5) 平成18年度前期, 地球科学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成18年度前期, 人類と環境, 海と地球環境, 愛媛大学共通教育
- 7) 平成18年度前期, 海洋学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 8) 平成18年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 9) 平成18年度後期, 環境学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 10) 平成18年度後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 11) 平成18年度後期, 海洋環境学, 愛媛大学工学部
- 12) 平成18年度前期, 流域設計学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成18年度前後期, 環境建設工学ゼミナール, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成18年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成18年度前期, 海洋環境工学特論Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成18年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成18年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 3) 平成18年度前期, 数理解析学, 愛媛大学工学部
- 4) 平成18年度前期, 海洋物理学Ⅰ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 5) 平成18年度前期, 海洋物理学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 6) 平成18年度後期, 海洋物理学, 愛媛大学工学部
- 7) 平成18年度後期, 海洋物理学Ⅱ, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成18年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

兼田 淳史

- 1) 平成18年後期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 2) 平成18年後期, 環境ESD指導者養成講座Ⅰ, 愛媛大学共通教育

生態環境計測分野

講義

田辺 信介

- 1) 平成18年度前期, 地球を考える, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成18年度前期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成18年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成18年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部

- 5) 平成18年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学農学部
- 6) 平成18年度後期, 環境化学, 愛媛大学農学部
- 7) 平成18年度前期・後期, 卒業論文, 愛媛大学農学部
- 8) 平成18年度前期, 「社会医学 I」特別講義, 愛媛大学医学部
- 9) 平成18年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成18年度前期, Environmental Toxicology and Chemistry, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 11) 平成18年度前期, Advanced Lab Work IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 12) 平成18年度前期, Advanced Practicum IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 13) 平成18年度前期, Advanced Seminar IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 14) 平成18年度前期, 有害物質動態論, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成18年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 16) 平成18年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成18年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成18年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 19) 平成18年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 20) 平成18年度前期, 有害物質汚染論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

高橋 真

- 1) 平成18年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成18年度後期, 環境学概論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース

集中講義

田辺 信介

- 1) 平成18年度後期, 生物機能学特論 I, 広島大学生物生産学部
- 2) 平成18年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部
- 3) 平成18年度後期, 環境汚染論, 徳島大学総合科学部

生態毒性解析分野

講義

岩田 久人

- 1) 平成18年度前後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成18年度後期, 環境学通論, 愛媛大学理学部
- 3) 平成18年度後期, 環境学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成18年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部
- 5) 平成18年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 6) 平成18年度前期, 環境毒性学, 愛媛大学農学部
- 7) 平成18年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 8) 平成18年度前期・後期, 卒業論文, 愛媛大学農学部
- 9) 平成18年度前期, 環境科学コースセミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成18年度後期, 環境科学コースセミナー II, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 11) 平成18年度前期, 環境科学コースセミナー III, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 12) 平成18年度後期, 環境科学コースセミナー IV, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 13) 平成18年度前期, 環境分子毒性学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 14) 平成18年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成18年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科

7. 教育活動

- 16) 平成18年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成18年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成18年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

仲山 慶

- 1) 平成18年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 2) 平成18年度後期, 化学, 愛媛大学農学部 (共通教育)

集中講義

岩田 久人

- 1) 平成18年度後期, 環境化学特別講義 IV, 東京農工大学大学院農学府

生態系解析分野

講義

鈴木 聡

- 1) 平成18年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成18年度前期, 海洋分子生態学, 愛媛大学理学部
- 3) 平成18年度前期, 環境生化学, 愛媛大学農学部
- 4) 平成18年度前期, 環境学概論, 愛媛大学 SSC
- 5) 平成18年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 6) 平成18年度後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成18年度後期, 環境分子微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成18年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナール I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成18年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナール II, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成18年度前後期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 11) 平成18年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 12) 平成18年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 13) 平成18年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 14) 平成18年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成18年度後期, 海洋微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

金本自由生

- 1) 平成18年前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 2) 平成18年前期, 基礎生物学演習, 愛媛大学理学部

野中 里佐

- 1) 平成18年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部

環境影響評価予測分野

講義

井内 美郎

- 1) 平成18年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学 SSC 特別コース
- 2) 平成18年後期, 環境学通論, 愛媛大学 SSC 特別コース
- 3) 平成18年後期, 環境科学セミナー, 愛媛大学 SSC 特別コース
- 4) 平成18年後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 5) 平成18年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 6) 平成18年後期, 地球科学 II, 愛媛大学共通教育
- 7) 平成18年後期, 地球環境学, 愛媛大学理学部
- 8) 平成18年前期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部

- 9) 平成18年前期, 地域・地球環境論, 愛媛大学理工学研究科
- 10) 平成18年後期, 地域地球環境学, 愛媛大学理工学研究科

奈良 正和

- 1) 平成17年前期, 地球科学野外実習, 愛媛大学理学部
- 2) 平成17年前期, 地質調査法実習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成17年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成17年前期, 地質野外研究, 愛媛大学理学部
- 5) 平成17年度後期, 地球環境学特論, 愛媛大学理学部
- 6) 平成17年度通期, 地球科学演習, 愛媛大学理学部

大森 浩二

- 1) 平成18年前期, 博物館実習 (事前指導)
- 2) 平成18年前期, 基礎英語, 愛媛大学理学部
- 3) 平成18年後期, 野外実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成18年後期, 博物館実習 (事後指導)
- 5) 平成18年後期, 環境生物学, 愛媛大学理学部

集中講義

井内 美郎

- 1) 島根大学総合理工学部

奈良 正和

- 1) 平成17年前期, 堆積学 C, 高知大学理学部
- 2) 平成17年前期, 生物資源科学実習, 愛媛大学農学部

8. 設 備

生態環境計測分野

- 1) 高速液体クロマトグラフ：生物試料中の水酸化 PCBs 等の分取・精製に使用する装置



- 2) 恒温乾燥機：土壌試料等乾燥用の装置



- 3) 溶媒除去大量注入システム：HRGC-HRMS に装着し、ダイオキシン類等の高感度分析に利用する装置



9. 広 報



9. 1 CMES ニュース

CMES ニュース No. 14

目 次

CMES ニュース

田辺信介教授が環境化学論文賞を受賞

新任教員自己紹介

科学研究費による新規プロジェクト

Skidaway Institute of Oceanography 滞在記

日本学術振興会外国人特別研究員自己紹介 (1)

日本学術振興会外国人特別研究員自己紹介 (2)

研究機関研究員自己紹介 (1)

研究機関研究員自己紹介 (2)

研究機関研究員自己紹介 (3)

拠点大学交流事業 ベトナム調査報告

編集後記

21世紀 COE ニュース No. 8

目 次

21世紀 COE プログラム沿岸環境科学研究拠点国際シンポジウム2006 "Pioneering Studies of Young Scientists on Chemical Pollution and Environmental Changes" 開催

加藤元海 COE 研究員の日本生態学会宮地賞受賞について

第28回21世紀 COE セミナー報告

第29回21世紀 COE セミナー報告

第30回21世紀 COE セミナー報告

カナダ研修報告

COE 研究員自己紹介 (1)

COE 研究員自己紹介 (2)

COE 研究員自己紹介 (3)

Ocean Science Meeting 参加報告

North American Benthological Society 54th Annual Meeting 参加報告

2006 Ocean Sciences Meeting 参加報告閉鎖性海域の持続的発展のために—第7回世界閉鎖性海域環境保全会議参加報告

University of Washington, USA 滞在記

伊予灘調査紹介

編集後記

CMES ニュース No. 15

目 次

新任教員自己紹介 (1)

新任教員自己紹介 (2)

平成19年度特別教育研究経費に採択

9. 広 報

先進的科学技术体験合宿！研究者に会える2泊3日ーウインターサイエンスキャンプを開催
インド・バンガロールおよびチェンナイにおける電子・電気機器廃棄物等の投棄やリサイクルに関する
実態と環境影響調査
The 26st International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2006) 参加報告
国際会議報告 International Conference on Mekong Research for the People of the Mekong (メコンの人々の
ためのメコン研究国際会議)
3rd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed 参
加報告
日本環境毒性学会奨励賞受賞報告
編集後記

21世紀 COE ニュース No. 9

目 次

21世紀 COE プログラム沿岸環境科学研究拠点国際シンポジウム2006 "Pioneering Studies of Young Scientists
on Chemical Pollution and Environmental Changes"開催報告
21世紀 COE 国際シンポジウム・コア1開催報告
21世紀 COE 国際シンポジウム・コア2開催報告
国際シンポジウム招待参加者からの感想 (1)
国際シンポジウム招待参加者からの感想 (2)
国際シンポジウム招待参加者からの感想 (3)
21世紀 COE ワークショップ「鯨の漂着個体および保存試料から解ること」
第31回21世紀 COE 特別セミナー
ニュージーランド滞在記
CMES 滞在記
デンマーク研修報告
第41回 Estuarine and Coastal Sciences Association 国際会議参加報告
232nd ACS 参加報告
A great symposium in my mind! (ISME-11参加報告)
編集後記

9. 2 報道関係

環境動態解析分野

武岡 英隆

1) 平成18年8月26日, 温暖化の足音ー 海水温の上昇 水産資源の減少懸念, 愛媛新聞

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成18年8月20日, 海洋生物への汚染進行, 臭素系難燃剤 HBCDs 愛媛大などの国際グループ国内各地で検出, 愛媛新聞
- 2) 平成18年9月1日, 近海クジラ, 日本で使用実績ない農薬, 愛媛大田辺教授環境化学論文賞, 愛媛新聞
- 3) 平成18年9月24日, 生物試料の役割学ぶ, 愛媛大でワークショップ, 愛媛新聞
- 4) 平成18年9月25日, クジラなど解剖公開に60人, 愛媛大の研究センター, 朝日新聞
- 5) 平成18年11月18日, 環境分野若手研究者集う, 愛媛大で国際シンポ, 30ヶ国から150人, 愛媛新聞
- 6) 平成19年1月22日, 列島進化論, 愛媛大学の挑戦, 大人の国の経験を世界へ, 産経新聞
- 7) 平成19年3月19日, 現場から, 10万点が語る汚染の実態, 各地から生物、土壌、海水を収集, 世界有数規模「生物環境試料バンク」, 読売新聞夕刊

高橋 真

- 1) 平成18年7月23日, 家のほこりに有害物質, 家電難燃剤関連か, 京大・愛媛大など研究グループ検出, 愛媛新聞
- 2) 平成18年8月18日, ホコリの中にダイオキシン, 科学新聞

高菅 卓三

- 1) 平成18年9月27日, 愛媛大学の CMES に10月から客員教授, 民間からはじめてダイオキシン研究の第一人者, 朝日新聞夕刊

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) 平成19年2月26日, 抗生物質効きにくくなる菌南極のペンギンから発見, 日本経済新聞 (全国版)

金本自由生

- 1) 平成18年1月3日, 温暖化 忍び寄る影, 愛媛新聞
- 2) 平成18年7月30日, 消滅に向かう沖縄の藻場, 琉球新報

環境影響評価予測分野

奈良 正和

- 1) 平成18年11月4日, 太古の二枚貝”足跡”残す, 愛媛新聞

9. 3 講座, 講演会等

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆: 漁場環境 (海洋物理), 平成18年度愛媛県認定漁業士養成講座, 愛媛県水産試験場, 11月13日.
- 2) 武岡 英隆: 瀬戸内海の環境とその長期変動, 平成18年度コミュニティカレッジ環境講座, 愛媛県生涯学習センター, 11月26日.
- 3) 武岡 英隆: Auto-Monitoring system of water quality in the Bungo Channel, Ehime University, The Sixteenth IHP Training Course, Oceanography Basics, Japanese National Commission for UNESCO, 愛媛大学, 12月4日.
- 4) 武岡 英隆: 瀬戸内海の環境とその長期変動, 平成18年度南予コミュニティカレッジ環境講座, 愛媛県歴史文化博物館, 2月18日.
- 5) 武岡 英隆: 総合学習 (帝京第五富士高校), 愛媛大学総合情報メディアセンター, 3月9日.
- 6) 兼田 淳史: 瀬戸内海と世界の海について考える, 都市環境学習センター2月18日
- 7) 兼田 淳史: Oceanography Basics (Sixteenth IHP Training Course) のテクニカルツアー, 松山, 宇和島, 12月4-5日.

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介: 環境ホルモンによる地球規模の汚染と生物影響, 新居浜一水会特別例会, 新居浜市, 2月.
- 2) 田辺 信介: くじら類の汚染物質一般と、座礁したシャチの汚染物質, 知床世界自然遺産登録記念事業「道新フォーラム・シャチからのメッセージ〜羅臼町相泊の集団座礁事故から1年〜」, 羅臼町, 北海道, 2月.
- 3) 田辺 信介: 環境汚染研究の歩み, 日本エヌ・ユー・エス社内研修会, 東京, 2月.
- 4) 田辺 信介: 環境ホルモンと野生生物, 平成18年度愛媛県教育委員会県立学校10年教職経験者研修講座, 松山市, 8月.
- 5) 田辺 信介: 生命への警鐘: 環境ホルモンによるヒトおよび野生生物の汚染, 平成18年度岡山県教育センター中学校技術・家庭研修講座 (家庭) (K2124) 「いのちの教育<生命への警鐘>」, 岡山市, 8月.
- 6) 田辺 信介: 有害物質による地球規模の環境汚染と生態影響, 住化分析センター講演会, 新居浜市, 11月.

9. 広 報

- 7) 田辺 信介：環境ホルモンについて，愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール高大連携授業，松山市，12月.
- 8) 高菅 卓三：PCB とその代謝物の環境・生体中での動態について，第15回環境化学討論会記念 市民公開講座，「環境汚染は終わったか？ - PCB の新たな問題-」，仙台市，6月.

生態毒性解析分野

- 1) 岩田 久人：化学物質による環境汚染：成果と課題，愛媛大学ウインターサイエンスキャンプ，愛媛大学，12月

環境影響評価予測分野

- 1) 大森 浩二：土地利用と河川水質，日本陸水学会大会シンポジウム講演
- 2) 大森 浩二：貯水池が河川生態系に与える影響：自然湖沼との比較および流域レベルでの評価，水源地研究会議セミナー講演

10. 実習調査船「とびうお」運行状況



日 付	運 行 海 域	目 的	船 長
H18.4.7~21	伊 予 市 沖	地 層 探 査	木 田 彰
H18.4.26	伊 予 灘	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.5.1~2	肱 川 河 口	底 質 調 査	大 西 秀次郎
H18.5.11	伊 予 市 沖	工 学 部 海 洋 実 習	大 西 秀次郎
H18.5.18	伊 予 市 沖	工 学 部 海 洋 実 習	大 西 秀次郎
H18.5.22	伊 予 灘	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.5.23	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.5.24	長 浜 沖	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.6.5	伊 予 灘	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.6.13	伊 予 市 沖	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.6.20~21	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.6.27~28	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.7.4	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.7.11~16	肱 川 河 口 沖	測 深 調 査	木 田 彰
H18.7.26	長 浜 沖	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.7.27	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.1~2	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.3	伊 予 灘	安 定 同 位 体 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.7	広 島 湾	安 定 同 位 体 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.10~11	北 条 沖	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.13~14	北 条 沖	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.19~20	北 条 沖	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.22	伊 予 灘	海 洋 生 物 学 実 習	大 西 秀次郎
H18.8.23	北 条 沖	砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.24	伊 予 灘	海 洋 生 物 学 実 習	大 西 秀次郎
H18.8.28	伊 予 灘	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.29	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.8.30	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.9.12	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.9.15	燧 灘	砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H18.9.19~20	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎

10. 実習調査船「とびうお」運行状況

H18.9.22	伊 予 灘	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.9.27～28	安 芸 灘	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.10.3	伊 予 灘	海 洋 調 査	大 西 秀次郎
H18.10.10～11	伊 予 灘	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.10.17～18	伊 予 灘	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.11.7	伊 予 灘	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.11.9	燧	灘 砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H18.11.14	伊 予 灘	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H18.12.1	広 島 湾	砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H19.2.6～7	伊 予 灘	砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H19.2.16	燧	灘 砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H19.2.26	三 原 沖	海 底 堆 積 物 調 査	木 田 彰

以上、延べ運行日数74日

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規定(13章参照)に基づき任命された学内の協力研究者)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
山口 正隆	工学部環境建設工学科	教授	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
伊福 誠	工学部環境建設工学科	教授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析分野
畑田 佳男	工学部環境建設工学科	講師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
鈴木 幸一	工学部環境建設工学科	教授	河川・河口域の環境に関する研究	環境動態解析分野
渡邊 政広	工学部環境建設工学科	教授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
中村 孝幸	工学部環境建設工学科	准教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析分野
三宅 洋	工学部環境建設工学科	講師	流域の自然環境および人間活動が河川生物群集に及ぼす影響の解明群集	環境動態解析分野
井内 國光	地域共同研究センター	准教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析分野
三浦 猛	農学部生物資源学科	教授	環境汚染物質が魚類の生殖に与える影響の機構解明	生態環境計測分野
中野 伸一	農学部生物資源学科	教授	水圏物質循環系の生態学的研究	生態系解析分野
佐野 栄	教育学部理科教育	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
柳沢 康信	理学部生物学科	教授	魚類の繁殖生態に関する研究	環境影響評価予測分野
佐藤 成一	理学部生物学科	教授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	環境影響評価予測分野
小南 哲也	理学部生物学科	教授	海産動物である棘皮動物(特にウニ)を用いた発生学的研究	環境影響評価予測分野
中島 敏幸	理学部生物学科	准教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	環境影響評価予測分野
佐藤 康	理学部生物学科	准教授	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	環境影響評価予測分野
金田 剛史	理学部生物学科	講師	藻類の形態形成に関する研究	環境影響評価予測分野
井上 幹生	理学部生物学科	准教授	河川性魚類の生息環境の解析	環境影響評価予測分野
堀 利栄	理学部地球科学科	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野

12. 客員研究員名簿

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規定(13章参照)に基づき委嘱された学外の協力研究者)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
磯田 豊	北海道大学大学院水産科学研究科	准教授	沿岸域の流動とモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
原島 省	独立行政法人国立環境研究所水圏環境研究領域	室長	瀬戸内海のモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究科海洋環境科学分野	教授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析分野
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校情報工学科	准教授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
橋本 俊也	広島大学大学院生物圏科学研究科	准教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析分野
高橋 暁	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析分野
森本 昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	准教授	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析分野
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所東アジア海洋大気環境研究センター	教授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析分野
松野 健	九州大学応用力学研究所海洋大気力学部門	教授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析分野
磯辺 篤彦	九州大学大学院総合理工学研究院	准教授	周防灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
市川 香	九州大学応用力学研究所	准教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析分野
清水 学	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所	研究員	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
増田 理子	名古屋工業大学社会工学専攻	准教授	藻場生態系の解析	環境動態解析分野
才野 敏郎	名古屋大学地球水循環研究センター	教授	沿岸海域における基礎生産の変動とその制御要因に関する研究	環境動態解析分野
速水 祐一	佐賀大学有明海プロジェクト	准教授	沿岸海域における物質輸送, 物理生物相互作用に関する研究	環境動態解析分野
木村 伸吾	東京大学海洋研究所海洋研究連携分野	教授	海洋生物資源解析に関する研究	環境動態解析分野
杉本 隆成	東海大学海洋研究所	教授	沿岸海域の長期環境変動に関する研究	環境動態解析分野
井内 美郎	早稲田大学人間科学部	教授	瀬戸内海の堆積物に関する研究	環境動態解析分野
兼田 敦史	福井県立大学生物資源学部	講師	豊後水道の物理環境に関する研究	環境動態解析分野
藤田 正一	北海道大学大学院獣医学研究科	教授	野生生物の薬物代謝機能と有害物質の毒性影響	生態環境計測分野
原 彰彦	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	海産魚類における内分泌攪乱物質の影響	生態環境計測分野

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
宮崎 信之	東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター	教 授	海棲哺乳類の生活史とその環境	生態環境計測分野
新井 崇臣	東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター	准教授	サケ科魚類を用いた環境モニタリング	生態環境計測分野
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域	領域長	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	生態環境計測分野
功刀 正行	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域	主 任 研究員	有害化学物質による海洋汚染の動態解明	生態環境計測分野
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域	主 任 研究員	巻貝類の内分泌攪乱の実態及び機構の解明	生態環境計測分野
森 千里	千葉大学大学院医学研究院環境生命医学領域	教 授	内分泌攪乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	生態環境計測分野
小宮山正敏	千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター	講 師	GEP マウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	生態環境計測分野
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	研 究 部長	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	生態環境計測分野
高田 秀重	東京農工大学農学部環境資源科学科	准教授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	生態環境計測分野
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター	教 授	内分泌攪乱物質	生態環境計測分野
松井 三郎	京都大学地球環境学大学院	教 授	世界の湖沼環境管理のための国際協力のありかた	生態環境計測分野
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院生物機能科学部門	准教授	水生生物における化学物質の影響	生態環境計測分野
有菌 幸司	熊本県立大学環境共生学部環境共生科	教 授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	生態環境計測分野
國頭 恭	信州大学理学部物質循環学科	准教授	微量元素の環境モニタリングおよび環境動態の解明	生態環境計測分野
渡邊 泉	東京農工大学大学院共生科学技術研究部	准教授	野生生物の微量元素汚染および毒性影響の解明	生態環境計測分野
山田 格	国立科学博物館動物研究部	室 長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	生態環境計測分野
野馬 幸生	国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター	室 長	有害化学物質の適正処理及び分析法開発に関する研究	生態環境計測分野
滝上 英孝	国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター	主 任 研究員	バイオアッセイ/化学分析を用いた残留性化学物質の包括評価と管理手法の開発	生態環境計測分野
吉水 守	北海道大学大学院水産科学研究院	教 授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に関する研究	生態系解析分野
中村 泰男	国立環境研究所海洋環境研究室	主 任 研究員	沿岸域海洋生態系における物質循環	生態系解析分野
小池 勲夫	東京大学海洋研究所	教 授	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析分野
古谷 研	東京大学大学院農学生命科学研究科	教 授	プランクトンの生態と基礎生産過程	生態系解析分野
木暮 一啓	東京大学海洋研究所海洋生態系動態部門	教 授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析分野
千浦 博	国際基督教大学教養学部理学科	教 授	海洋中での遺伝情報伝播機構と生物進化に関する研究	生態系解析分野

12. 客員研究員名簿

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
永田 俊	京都大学生態学研究センター	教授	水圏における溶存態有機物の動態に関する微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析分野
川端善一郎	京都大学生態学研究センター	教授	水圏微生物の実験生態学的研究	生態系解析分野
田中 克	京都大学大学院農学研究科	教授	有明海の海産生物に関する研究	生態系解析分野
今井 一郎	京都大学大学院農学研究科	准教授	有害有毒プランクトンの生活史と生理生態学	生態系解析分野
上 真一	広島大学大学院生物圏科学研究科	教授	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生態系解析分野
大塚 攻	広島大学大学院生物圏科学研究科 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター	教授	カイアシ類の分類および形態学的研究	生態系解析分野
深見 公雄	高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科	教授	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生態系解析分野
木下 泉	高知大学海洋生物教育研究センター	教授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析分野
伊谷 行	高知大学教育学部	准教授	海洋生物の共生に関する研究	生態系解析分野
安井 金也	広島大学大学院理学研究科附属臨海実験所	教授/所長	ナメクジウオ類の生態学的研究	生態系解析分野
立石 雅昭	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
松岡 篤	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—プランクトンに関する研究—	環境影響評価予測分野
金井 豊	独立行政法人産業技術総合研究所深部地質環境研究センター地下環境機能チーム	研究チーム長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
西村 清和	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門沿岸都市地質研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
斉藤 文紀	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門沿岸都市地質研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
池原 研	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門海洋地質研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
星加 章	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
三島 康史	独立行政法人産業技術総合研究所中国センターバイオマス研究センター	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
高杉 由夫	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
公文富士夫	信州大学理学部物質循環学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
吉川 周作	大阪市立大学大学院理学研究科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
三瓶 良和	島根大学総合理工学部地球資源環境学科	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究—堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
高安 克己	島根大学汽水域研究センター	教 授 副学長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環 境 影 響 評 価 予 測 分 野
長谷川修一	香川大学工学部安全システム建設工学科	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環 境 影 響 評 価 予 測 分 野
仲谷 英夫	香川大学工学部安全システム建設工学科	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環 境 影 響 評 価 予 測 分 野
松岡 數充	崎大学 環東シナ海海洋環境資源研究センター	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	環 境 影 響 評 価 予 測 分 野
前田 広人	三重大学生物資源学部海洋微生物学教室	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環 境 影 響 評 価 予 測 分 野
松田 博貴	熊本大学自然科学研究科	教 授	浅海域の海底地形解析に関する研究	環 境 影 響 評 価 予 測 分 野

13. 運営委員会

(平成18年4月1日現在)

委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター教授
委員	丹下 春喜	法文学部教授
委員	家山 博史	教育学部教授
委員	東山 繁樹	医学部教授
委員	山口 正隆	工学部教授
委員	脇本 忠明	農学部教授
委員	井上 幹生	理学部助教授
委員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委員	井内 美朗	沿岸環境科学研究センター教授
委員	鈴木 聡	沿岸環境科学研究センター教授
委員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター教授
委員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	高橋 真	沿岸環境科学研究センター助教授
委員	徳永平太郎	研究協力部長（役職指定）

14. センター規則および運営委員会規程 ●●●●●●●●●●

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛大学学則第8条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究分野)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究分野を置く。

- (1) 環境動態解析分野
- (2) 生態環境計測分野
- (3) 生態毒性解析分野
- (4) 生態系解析分野
- (5) 環境影響評価予測分野

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究推進支援機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから管理委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、管理委員会が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
- 3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。
- 4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他の大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(中島マリンステーション)

第13条 センターに、附属施設として中島マリンステーション（以下「施設」という。）を置く。

2 施設に関する規程は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第14条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第15条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第16条 センターに関する事務は、研究協力部研究協力課において処理する。

(雑則)

第17条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日

規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの講師以上の専任教員
- (3) 各学部の専任教員 各1人
- (4) 研究協力部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。

3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員(代理者を含む。以下同じ。)の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。
2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究協力部研究協力課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター(以下「センター」という。)規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク(以下「試料バンク」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長
- (2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

- 2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

- 2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究協力部研究協力課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会に関する内規

平成16年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規第5条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生物及び環境の試料（以下「試料」という。）の受入れに関する事項
- (2) 試料の管理に関する事項
- (3) 試料の提供に関する事項
- (4) 試料を用いた共同研究に関する事項
- (5) その他試料に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 試料バンク長
 - (2) その他試料バンク長が指名する者
- 2 前項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、試料バンク長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、説明または意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究協力部研究協力課で処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める。

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

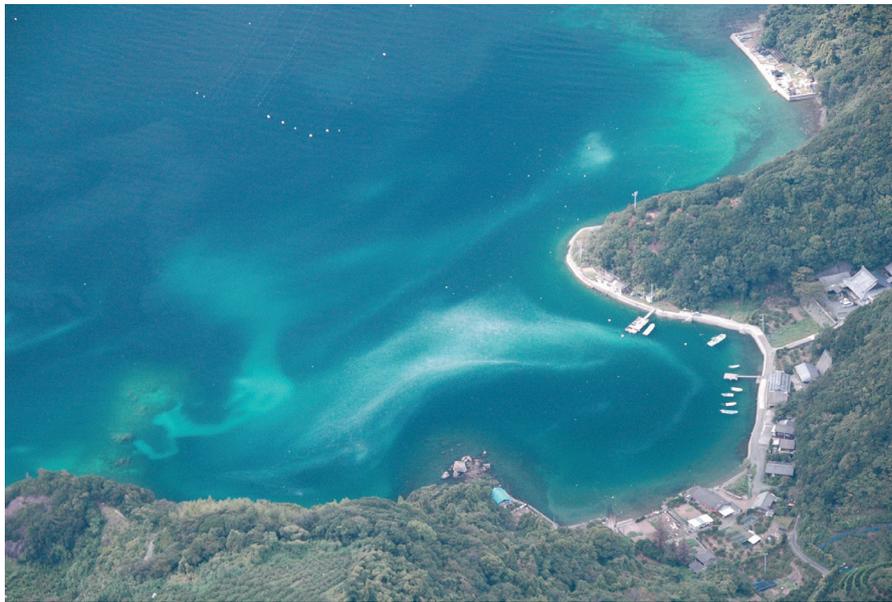
発行 2007年6月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
印刷 創風社出版

表紙デザイン：大森 浩二

表紙の「COE」は、グローバル COE「化学物質の環境科学
教育研究拠点」のロゴマークです。

裏表紙写真：宇和海に大量発生したミズクラゲ

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。



2-5 BUNKYO-CHO, MATSUYAMA, EHIME 790-8577, JAPAN